



第13回全国高校生金融経済クイズ選手権
エコノミクス甲子園 報告書





ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3

概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5

エコノミクス甲子園はこんな大会です！・・ P. 6

各地方大会概要・全国大会参加者感想・・・ P. 8

全国大会・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 116

NY研修旅行の様子と感想・・・・・・・・ P. 122

参加者アンケート・・・・・・・・ P. 126

メディア掲載実績・・・・・・・・ P. 127

事前学習教材・・・・・・・・ P. 128

協賛社紹介・・・・・・・・ P. 129

Special Thanks・・・・・・・・ P. 130

リーダー挨拶・・・・・・・・ P. 132

エコノミクス甲子園の歩み・・・・・・・・ P. 134





激励の言葉

衆議院議員
第26代環境大臣
原田 義昭



高校生のみなさん、こんばんは。みなさんが高校生のうちから、金融という、複雑で奥の深い分野に興味を持ち、真剣に勉強をされていることに、大変感心するとともに、この金融の学びが、必ずやみなさんによい人生をもたらしてくれると信じています。

環境大臣に就任する際に、安倍首相より「地球と人類を救え」とのミッションを賜りました。呼応するように、現在、世界において、SDGs（持続可能な開発目標）17の目標、169の施策、政策について、2030年までに達成するという動きが高まっています。そうした気運の中、産業の血液たる金融が、環境に対し、積極的な取り組みを行っている主体に多くの投資をもたらし、また、それが成長への飛躍となるよう切に願っております。

私も今まで、多くの人生経験を積んでまいりました。そこから学んだ徳目（Virtue）の中から、みなさんに2つ程、お伝えしたいことがございます。1つは、「失敗を恐れないこと」、もう1つは、「一人の偉人について徹底的に学ぶ」ということです。

私は、今は環境大臣を務めておりますが、これまで11回の選挙のうち、当選を8回、落選を3回、経験しました。当選することはもちろん嬉しいことではありますが、それより失敗から学んだことのほうがはるかに多かったと感じています。確かに落選した後の当選の際には、周りの方から多くの祝福の言葉を頂きます。が、実はそのほとんどが、当選したこと自体を喜ぶものではなく、落選の間の3年半を頑張りぬいたことに対する祝福でした。ですので、みなさんも、絶対に失敗を恐れず、そこから学ぶ姿勢を貫いてください。

また、先人や偉人からの学びも大切です。しかし、重要なのは、自分の中でこの人こそはと思える偉人1人を徹底的に学ぶことです。そして、人に話をする際も、その人のことを常に念頭に置いて話をするよう心がけてみてください。偉人たる方々は、多くの失敗を経験し、その失敗から学ぶことで偉人となっておられます。みなさんも、尊敬できる偉人を見つけ、その人については、他の誰にも負けないくらい詳しくなり、自分の人生の糧としてください。

今日こうして、未来の日本を背負って立つみなさんに出会えたことを、大変うれしく思います。皆さんのますますの発展とご活躍を願っております。頑張ってください。





第13回エコノミクス甲子園を終えて

エコノミクス甲子園 実行委員長
金融知力普及協会 理事長
金子 昌資



2006年度より実施しております 全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園大会もこのたび第13回大会を無事終えることができました。これまでこの大会を作り上げてきた、延べ2万人を超える参加者の皆様、地方大会を主催した金融機関の皆様、さまざまなご支援をいただいた協賛・協力企業の皆様、後援をいただいた内閣府、文部科学省、環境省、金融庁、金融広報中央委員会の皆様、そして様々な形でこの大会に関わったすべての皆様に御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

第一回大会は全国3か所での地方大会、25校99名の参加者から始まったこの大会も、ネットを含め46の地方大会、473校 2,500名の参加者を得るところまで成長しました。現在の教育課程では金融経済の知識についてなかなか学ぶ機会がありません。しかしながら、我々は、よりよい人生を築くためには必須の知識であると考えております。これを楽しみながら身に付ける機会を提供することの価値を多くの方に認めていただいております。現状のように成功できていると感じております。

金融経済の知識をつけるということは、投資で濡れ手に粟のもうけを狙うようなものではありません。豊かな人生を送るために、お金という道具の使い方を学ぶことです。このような考え方は最近少しずつ理解を得られてきたと感じておりますが、まだまだ多くの方に伝えていかねばなりません。そのためにもこれまで以上に多くの高校生がこの大会に参加し、金融知力を身に付け、その後の人生に活かし、そして周りの方に伝播していただければと願っております。

また、第11回大会より、金子・森育英奨学基金を立ち上げました。全国大会出場者の中から、経済的にゆとりある大学進学が困難な若者を対象に、返済不要の200万円の奨学金を授与するものです。前身の第10回記念奨学金と、第11回大会から今大会までの金子・森育英奨学基金を受賞した9名のうち、6名は2019年4月より大学への進学を開始しております。引き続き有為の若者を支援してまいります。

10年、20年先も、数多くの若者に金融知力を身に付けていただくため、このエコノミクス甲子園を引き続き成功させるよう、スタッフ一同努力してまいります。ぜひ、皆様の温かいご指導とご支援を今後とも末永く、よろしくお願いいたします。



名称 第13回全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園

趣旨 社会にはばたく寸前の高校生が、世の中の金融経済の仕組みを理解しライフデザインやお金とのかかわり方を考える力=「金融知力」を楽しく身につける為の教育イベントとして開催する。

期日 ・募集開始 2018年8月15日
 ・地方大会 2018年11月4日～12月16日 全国46か所(インターネット大会含む)
 ・全国大会 2019年2月16日～17日

主催 ・地方大会主催 各地の金融機関有志
 ・全国大会主催 認定NPO法人金融知力普及協会

後援 内閣府、文部科学省、環境省、金融庁、金融広報中央委員会

プラチナ
スポンサー



ゴールド
スポンサー



シルバー
スポンサー



ブロンズ
スポンサー



地方大会主催



協力





1

ポスターや学校の先生に教えられて 出場を決意！

- ・公式 Web サイトから応募
- ・参加は無料！



2

金融知力普及協会から送られてくる 事前学習教材で経済を勉強

- ・今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎・・・寄贈：シティ
- ・初めてのJリート 今日から始める日本版不動産投資信託・・・寄贈：不動産証券化協会
- ・マナブとメグミのお金のキホン BOOK・・・寄贈：全国銀行協会
- ・そんぽのホント（フレッシュアーズガイド）・・・寄贈：日本損害保険協会
- ・これであなたもひとり立ち・・・寄贈：金融広報中央委員会
- ・大学生のための人生とお金の知恵・・・寄贈：金融広報中央委員会
- ・ほけんのキホン for beginners・・・寄贈：生命保険文化センター
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ・・・寄贈：日本証券業協会
- ・もっと知りたい税のこと・・・寄贈：財務省
- ・基礎から学べる金融ガイド・・・寄贈：金融庁
- ・少額短期保険で描く保険の未来・・・寄贈：日本少額短期保険協会
- ・わかりやすい投資信託ガイド 2018年版・・・寄贈：投資信託協会
- ・不動産投信 REITGUIDE 2018年版・・・寄贈：投資信託協会
- ・前払式支払手段ご利用者のみなさまへ・・・寄贈：日本資金決済業協会
- ・投資信託読本・・・寄贈：大和証券投資信託委託株式会社
- ・進学にかかるお金と奨学金の話・・・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会



3

地方大会に参加

- ・地方大会は各地の地方銀行など金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておいて欲しい経済の基礎知識や地元経済などについて出題
- ・筆記問題（50問）と早押しクイズ、そして決勝ラウンドで競う
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場





エコノミクス甲子園はこんな大会です！



日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供！
将来の日本をリードする人材の育成！



5

優勝チームはニューヨーク・ボストン研修旅行にご招待

- ・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや経済に関する様々な場所を見学



4

全国大会に参加

- ・経済用語をわかりやすく説明するスピーチクイズや他チームと協力したプレゼンクイズなど、より深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む





北海道 石狩・空知・後志・日高・胆振地区予選

11月11日(日)開催

主催  札幌中央信用組合  北央信用組合
http://www.hokuoh.shinkumi.jp/

参加校一覧 立命館慶祥高等学校、北海道札幌南高等学校、市立札幌旭丘高等学校、北海道札幌東陵高等学校、北海道札幌白陵高等学校、市立札幌開成中等教育学校、北海道札幌東商業高等学校

申し込みチーム数 10チーム(7校)

運営スタッフ感想 13回目となる地区予選大会開催は、6校9チームの参加となりました。参加チームのうち3チームが昨年に引き続き2回目の挑戦で、見事前回のリベンジを果たし優勝することができました。

決勝ラウンドの「ビルトインスタビライザークイズ」では、各チームが「格差是正」と「弱肉強食」の選択に悩み、順位が頻繁に変わるなど、チームもスタッフも緊迫した状況で盛り上がりました。

参加いただいた高校生の皆さん、開催に際しご協力いただいたスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

優勝チーム
立命館慶祥高等学校
「打ち上げはサイズ」



北海道 オホーツク地区予選

11月18日(日)開催

主催  北見信用金庫  おおしりんさん  遠軽信用金庫

参加校一覧 北海道遠軽高等学校、北海道網走桂陽高等学校、北海道網走南ヶ丘高等学校、北海道紋別高等学校、北海道湧別高等学校、北海道北見緑陵高等学校、北海道北見北斗高等学校

申し込みチーム数 23チーム(7校)

運営スタッフ感想 当地区の予選大会開催は今年で3回目です。1校のエントリー数がすぐに上限に達するなど、この地区のエコノミクス甲子園の知名度が上がっていることを実感しています。決勝戦では、最終問題でのどんでん返しの結果に会場はとても盛り上がりました。来年も高校生が金融経済について楽しく学べ、高校生活の思い出に残るような大会運営にしたいと思います。

優勝チーム
北海道北見北斗高等学校
「ぱっと見中学生」





北海道 上川・留萌・宗谷地区予選 ————— 11月18日(日)開催

主催   

参加校一覧 旭川明成高等学校、北海道羽幌高等学校、北海道美深高等学校、北海道士別翔雲高等学校、北海道名寄高等学校、北海道名寄産業高等学校、北海道下川商業高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道旭川商業高等学校、旭川実業高等学校

申し込みチーム数 17チーム (10校)

運営スタッフ感想

- ・決勝ラウンドのルールが非常に難しい。事前に通知していても事例紹介しなければ把握できないと感じた。決勝前の休憩時、決勝開始前に事例紹介したが把握度は不明。観覧した方(大人)はあまり理解できていない様子であった。次回はより理解しやすいルールを希望(積み上げ方式の方が理解しやすい)。
- ・大会要項を熟知している主催元の人員(1名)の出席サポートがあればベター。(開始から終了までの手順正確性の一層の確保)
- ・クイズ大会としては当然だが、アンケートで問題が「やや難しかった」を主に、難しく感じた参加者が多数であった(出題範囲は高校教科書が主体でしょうか)。
- ・「とても楽しかった」「主催者を慰労する言葉」の記述が多数あったことは嬉しい。

優勝チーム
北海道旭川商業高等学校
「レボリューション」



北海道 釧路・根室地区予選 ————— 11月11日(日)開催

主催  

参加校一覧 北海道釧路北陽高等学校、北海道釧路明輝高等学校、北海道釧路商業高等学校

申し込みチーム数 7チーム (3校)

運営スタッフ感想

2年・3年と連続で出場して下さる高校生もおり、大会が大いに盛り上がりました。

楽しく金融知力を高められたのではないかと思います。

我々スタッフも、普段接する機会の少ない地域の高校生と触れ合う貴重な時間を過ごすことができ、有意義な大会となりました。

優勝チーム
北海道釧路北陽高等学校
「チームキャンディ」





北海道 十勝地区予選 11月11日(日)開催

主催 帯広しんきん 十勝しんくみ

参加校一覧 北海道芽室高等学校、北海道帯広南商業高等学校、江陵高等学校

申し込みチーム数 8チーム (3校)

運営スタッフ感想 今年度で5回目の開催となる大会は、昨年度と比較し運営メンバーががらりと変わったり、本番前に機材の不調があったりしましたが、本番は滞りなく終わることができました。決勝ラウンド「ビルトインスタビライザークイズ」では、「弱肉強食」または「格差是正」の選択により一問終わるごとに順位が大きく変動し、さいごまで白熱した戦いとなりました。

今年度優勝をつかんだチームは予選通過順位が4位、決勝ラウンド最終問題で逆転優勝という展開になり、驚きを隠せない様子とともに非常に喜んでいました。大会に参加したチームからは、「今後は金融に関する時事問題などにもっとめを向けていきたい」などの声も聞かれ、金融経済への関心を高めるきっかけとなり、その意義を改めて感じる事が出来ました。

優勝チーム
北海道芽室高等学校
「いちご」



北海道 渡島・檜山地区予選 11月4日(日)開催

主催 道南うみ街信用金庫 おしま信用金庫 函館商工信用組合

参加校一覧 北海道七飯高等学校、北海道函館商業高等学校、遺愛女子高等学校

申し込みチーム数 5チーム (3校)

運営スタッフ感想 少人数での開催となりましたが参加学生の意欲的な姿勢に感銘を受けました。先生やご両親が応援にかけつけていただき、アットホームな大会として楽しく有意義に開催することができました。

優勝チーム
遺愛女子高等学校
「遺愛女子高校」







北海道銀行

北海道大会 ————— 12月9日(日)開催

主催 北海道銀行

参加校一覧 北海道網走南ヶ丘高等学校、北海道北見北斗高等学校、北海道旭川商業高等学校、北海道旭川東高等学校、旭川実業高等学校、立命館慶祥高等学校、北海道札幌南高等学校、北海道芽室高等学校、北海道帯広南商業高等学校、北海道釧路北陽高等学校、遺愛女子高等学校

申し込みチーム数 14チーム (11校)

運営スタッフ感想 道内6ヵ所で開催された地区予選大会には、総勢33校70チームに参加いただき、厳しい戦いを勝ち抜いた14チームで全道大会を開催しました。参加者のレベルが年々上がっており、会場も大いに盛り上がりました。参加した高校生からは「この大会に参加するために勉強したことが良い経験になった」との声がありスタッフ一同とてもうれしく思いました。これからも、高校生に金融経済について楽しく学んでもらえるよう信用金庫・信用組合の皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思います。

優勝チーム 北海道札幌南高等学校
「レッセフェール」





北海道大会代表 北海道札幌南高等学校 2年
桑原 秀彰

今回のエコノミクス甲子園全国大会に北海道代表として参加しました。北海道大会では資産運用クイズでの運用が上手くいったためにかけてましたが、実力では他のチームに負けていると感じたので、北海道大会後から計画を立て、全国優勝目指して二人で協力して勉強してきました。

そしてやってきた全国大会では初日のエコノミカ大会や2日目のプレゼンクイズで全国から来た高校生と交流を深めることができ、とても刺激的で面白い経験することができました。また、前夜祭においてマニユライフ生命の常務の方から直接お話を伺いました。一高校生に過ぎない私に実際に保険ビジネスに携わる方からその現場で起きていることをお教えいただき、大変有意義な社会勉強になりました。

そしてついにやってきた全国大会では、同行してくださった北海道銀行の西東様の応援もあり、第1ラウンドを突破することができましたが、第3ラウンドで敗退してしまいました。優勝を目指してきたのでかなり落胆しましたが、閉会式での金融知力普及協会理事の野中ともよ様の「誰もが皆一番を目指しているけれど、一番になれるのは一握りしかない。負けたあなた達は弱者に対しての優しさを持つことの大事さがわかったはず」というお言葉で自分の気持ちに折り合いをつけることができました。

この度のエコノミクス甲子園で私は人間として一段階成長することが出来たと思います。次は大学生スタッフとして大会に携われたらと思います。大会を主催した金融知力普及協会様、北海道銀行様、同室だった桜丘高校のお二人、この大会で仲を深めた仲間、応援してくださった方々、そして相方の狐野君にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

北海道大会代表 北海道札幌南高等学校 2年
狐野 彩人

知り合い以外でこれを読む物好きはおそらくこれを読んで対策しようとする後輩くんだろう！感想を交えてアドバイスをお届け！

1日目。北海道銀行の素敵なお姉さんに連れてかれ、オ

リセンに到着。食事終了後にエコノミカ大会。スターターセット組とブースターパックお買い上げ組に分かれて対戦！仲良くなるのもいいけど、もし優勝したければ短時間で淡々と勝利すること！制限時間内で対戦し放題だから！優勝者は5戦5勝。私は4戦4勝でした。

2日目。憧れだった出雲社長の講話のあとにプレゼン大会！プレゼンの話術よりも、内容の骨組みを重視されるので分かりやすいスライドや全体の枠組みを明確にする話し合いをしましょう。終了後は立食パーティー！出身地を大人や高校生に書いてもらってビンゴ！いろんな人に話しかけよう！その後はペーパー。四択、一問一答、穴埋め型記述、表から読み取る計算、語句説明記述。ペーパーとプレゼンの結果で決まった順位は本戦で同点の時に優先されるくらいで、紙落ちや本戦中にこの順位と合算してX位以下が敗退なんてことはなかったです。本戦は本戦。

3日目。本戦に向けては、競技クイズのように専門用語を覚えることも大切ですが、有名な単語でも背景知識を踏まえてじっくり考えられるのが大切です。また正解した上で勝ち上がるには瞬時にルールを把握することが大切です。ベストは答えを知っている前提でゲームを操ることです。

最後に、この大会はあくまで金融機関のCSRです。全国の高校生の交流を目的としているはずですが。運要素が強くてもめげないで頑張り！





みちのく銀行

青森大会

12月16日(日)開催

主催 みちのく銀行

参加校一覧 青森県立青森高等学校、青森県立青森西高等学校、青森県立弘前高等学校、青森山田高等学校、東奥学園高等学校

申し込みチーム 17チーム (5校)

運営スタッフ感想 今年の青森大会は、2017年度優勝チームも参加する中、2016年度優勝・2017年度準優勝の弘前高校「平城京エイリアン」が昨年のリベンジに燃え参加しました。模擬問題なども作り、独自の勉強法にて準備万全で臨み、第1ラウンド100点満点・第2ラウンド20点と全問正解で進み、決勝でも安定的に攻めの姿勢を貫き、見事全問正解で439万円を獲得し、完全制覇をいたしました。この調子で、全国大会でも上位を狙ってほしいと思います。

今年初めて参加した1年生の方からは「初めて参加してとても面白かった。優勝した先輩達のように、来年またリベンジに来ます」との声をいただき、来年もこの大会を盛り上げるべく、スタッフ一同、決意を新たにしました。

優勝チーム 青森県立弘前高等学校
「平城京エイリアン」





青森大会代表 青森県立弘前高等学校 3年
石郷 岡 隼

受験生。本来血眼になって赤本にかじりつき、試験に向かうべき存在。しかし、私はあろうことかエコノミクス甲子園に参加してしまった。教員の皆さんに事情を説明し、クラスメートの冷やかな視線に耐え、やって来た東京。やはり青森より人が多い。

1日目のエコノミカ大会にはオリジナルデッキで参戦。だが、完敗でした。それから部屋に向かう。同室の滋賀県代表にも自己紹介し、風呂へ向かって戻ってみると、そこにはルームキーが真っ二つに…。恐ろしいハプニングもありつつ就寝。

2日目。プレゼンでは一昨年の反省を生かし、主導権を握りつつ話を進めたが、空回りしたか。グループトーナメント2回戦敗退。多くは語らない。でも模擬裁判のアイデアは良かった。素晴らしい原料をありがとう。さて、立食パーティの後、(例によって)ペーパー。一昨年の経験が生き、かなり手応えが良かった。やったぜ。

勝負の3日目。1ラウンドはvs松江高専。しかしここで完全にミステイク。「パレート最適」とか散々予習したじゃんよお…。2ラウンドでも苦手な日本政治の問題を誤答して落第。敗復も負け、終了。このあとのラウンドの問題が軒並みわかっただけに悔しい結果になってしまった。ぐわー。

しかしながら、大会の問題を見ていると、「海外の高校生なら余裕で答えるんだろうなあ」と考えてしまう。普段クラスメートの経済・ビジネスの話題に対しての感心の無さにうんざりしている私にとっても、「自分はこんなもので満足してはいけない」と改めて考える良い機会となった。エコ甲よ、ありがとう。そしてこれからもよろしく。

青森大会代表 青森県立弘前高等学校 3年
長利 龍汰

月並みな感想ですが、私は今回エコノミクス甲子園に出場してとても貴重な経験ができたと感じています。

三年生だということもあり、受験勉強の合間に少しずつ全国大会に向けて事前教材などを使い勉強してきましたが、全国大会では他校の生徒のレベルの高さに圧倒され、それ

と同時に自分の勉強不足を痛感させられました。結果はあまり芳しくありませんでしたが、経済や金融について興味を持つきっかけになり、自分が知らなかった分野を知ることによって視野を広げることができ、とても有意義な三日間になりました。

三日間様々なイベントがありましたが、プレゼンテーションがもっとも印象深かったです。一つの大きなテーマについて少人数で意見を出しあって具体化し、深く掘り下げていくのは、その過程で各人のものの見方や価値観が見えてきてとても興味深かったです。コミュ障の私には少し大変な時間ではありましたが、得られたものは大きかったと思います。

今回の大会を通して得られた金融知力や経験をこれから人生の様々な局面で役立てていきたいと思っています。

最後になりましたが、金融知力普及協会やスポンサー企業、金融機関や大学生スタッフの皆様をはじめ、エコノミクス甲子園の開催に携わってくださった皆様に感謝申し上げます。エコノミクス甲子園がこれからますます発展していくことを願っています。





北日本銀行

岩手大会

12月9日(日)開催

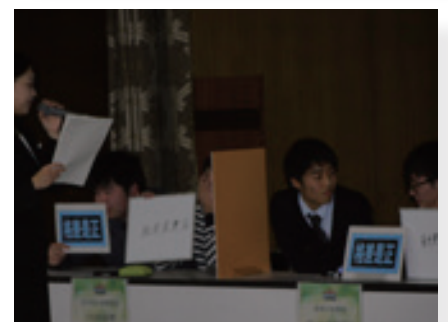
主催 北日本銀行

参加校一覧 岩手県立一関第一高等学校、岩手県立不来方高等学校、岩手県立岩泉高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校、岩手県立盛岡第三高等学校、岩手高等学校、盛岡中央高等学校

申し込みチーム数 12チーム(7校)

運営スタッフ感想 金融についての知識レベルが年々向上してきていると感じます。今後も広く周知し、より多くの出場者が参加してくれることを願います。

優勝チーム 岩手県立一関第一高等学校
「カシスオレンジ」





岩手大会代表 岩手県立一関第一高等学校 2年
照山 さやこ

高校を卒業するまでに何かに挑戦してみたい、という気持ちのもと、経済にあまり関心も知識もないままなんとなくエコ甲の地方大会に参加しました。正直自分達が優勝するとは全く思っていなかったので、嬉しさと同時に自分では力不足なのではないかと不安を感じていました。

実際に全国大会に参加してみて、やはり全国のレベルの高さを実感しました。2日目のプレゼンでは、テーマ自体はあまり複雑ではなかったものの良い案を思いつくことができず、他人の意見にただ驚嘆するばかりでしたが、普段の生活では他の学校の人と学年バラバラで意見を出し合いプレゼンを作成する機会はないので、とても有意義な経験をする事ができました。3日目は、ひたすら勉強不足を実感しました。初めて聞くような言葉も多く、やはり他の参加者との差は大きかったように思います。自分の知識のなさに腹が立ったし、もっと勉強して来年も出たい、去年からこの大会を知っていれば、と後悔しています。しかし、短いようでとても充実したあの3日間は、人生において確実に大きな糧となりました。他の参加者のみなさんがフレンドリーだったおかげでたくさんの方々との交流することができ、学びへの意欲を刺激されました。無知の愚かさ、自分の中の理想と現実との乖離、自分が思っていたよりもずっと優秀な人間は年齢問わず多く、今の自分ではだめだと強く実感しました。また、岩手県では大会参加者があまり多くなく、大会の存在自体学校の先生にもほとんど知られていません。しかしこの大会は正しい経済知識を得て経済に興味を持つ非常に良いきっかけとなるので、さらに岩手県でも普及して行ってほしいです。

最後になりますが、この大会に関わってくださったすべてのの方々に感謝します。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

岩手大会代表 岩手県立一関第一高等学校 2年
阿部 聖夏

全国大会はあっという間に終わってしまい、余韻は2日ほど続いた。

「全国大会ではどんな問題が出題されるかな」

「地方大会よりも難しいだろうけど…解答を聞いたらわかるくらい勉強しないとつまらないから頑張ろう」

というやりとりをペアで何度かしたことが懐かしい。

1日目は到着が夜遅かったため、駅から宿泊施設まで親切なスタッフさんに案内をして頂いた。施設に着いて早々、自分の部屋とシーツ部屋の部屋番号を間違えて入室してしまった。ロックもせずに本当にすみませんでした。

2日目はプレゼンを行った。女子ペアで人見知りのため、グループの人たちと上手くやれるかが心配だった。自己紹介までに時間がかかったが、その後の分担作業はスムーズで馴染むことができた。グループの高校生はとても頼もしかった。プレゼンの後にも普通に話せるくらい仲良くなれて良かった。

3日目は個人的な目標の、解答を聞いたらわかる。ということはクリアしていたが悔しかった。観客席で自分たちの知識不足を痛感した。そして、お疲れ様でしたと言われるほど頑張っていないため気まずかった。

プログラムでは人間力を考え直す機会、事前準備では金融知力を得られた。凄く軽い気持ちで参加したがとても貴重な経験をしたと思った。

この大会に関わったすべての人に感謝しています。ありがとうございました。





77 BANK 七十七銀行

宮城大会 ————— 12月16日(日)開催

主催 七十七銀行

参加校一覧 聖ウルスラ学院英智高等学校、東北学院高等学校、仙台白百合学園高等学校、宮城県柴田農林高等学校、宮城県工業高等学校、宮城県塩釜高等学校、宮城県古川高等学校、宮城県仙台第二高等学校、宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台二華高等学校、宮城県仙台三桜高等学校、宮城県泉高等学校、仙台育英学園高等学校 宮城野校舎

申し込みチーム数 24チーム (13校)

運営スタッフ感想 準備が大変ではありましたが、民法改正、NISA等、今後の高校生に向けて金融教育の重要性を伝える非常に良い機会となりました。大会の内容については、正答率が高く、皆さんの勉強の成果には驚かされましたし、決勝についても、点数変動が大きく、最後の1問まで順位がもつれるという、非常に白熱した展開になりました。今後も金融教育を通じて、地域経済の発展に貢献していけたらと思います。

優勝チーム 宮城県仙台第二高等学校
「颯風のみ





宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校 2年
長谷川 大翔

エコノミクス甲子園への参加は今回2度目で、前は地方大会で敗退してしまったため、全国大会出場を決めたときは「ついに」という気持ちが強かったです。それから全国大会までの数ヶ月、相方と共に事前学習教材や書籍を通して勉強しました。元々経済という分野に強く関心を持っていたので、新たな知識を増やし、理解を深めていくことは非常に楽しいものでした。

全国大会一日目のエコノミクス大会では、あまりエコノミカスの練習をしておらず、ダメだろうなという気持ちだったのですが予想外にも善戦できました。二日目のプレゼンラウンドでは最初は初めて会う人達とプレゼンテーションなど出来るのだろうかと考えていました。ですが自らの乏しいコミュニケーション能力を総動員して話し合い、段々と案をまとめていくうちに、初めて会う人とだからこそ様々な案が出てきて、話し合いの質を上げられるのだなと思うようになりました。そして完成し、発表まで至った時は大きな達成感がありました。三日目は、早押し問題で競うことは出来ましたが、結局は第2ラウンドで敗れてしまい、悔しい思いをしました。そして全国大会のレベルの高さを実感しました。

エコノミクス甲子園は金融力だけでなく、それ以外のことでも私を成長させてくれました。この経験は今後も大きなものとなると思います。これも金融知力普及協会の方々、七十七銀行の方々、大学生スタッフの方々、出場者のみなさんのおかげです。

本当にありがとうございました。

宮城大会代表 宮城県仙台第二高等学校 2年
東 智 哉

今回、エコノミクス甲子園に参加して、私が知ったことは主に3つあります。

1つ目は経済金融についての知識です。大会三日目、及び二日目の筆記クイズに向けての勉強は、これから役に立つことが多くなると思います。結果を見てみると実際に十分な量勉強できていたかは疑問ではありますが、こうした学習に高いモチベーションで挑むことができたのはそれだ

けで貴重な体験だと思います。

2つ目は多くの人に関わってこの大会が成り立っているのだということです。金融知力普及協会の皆様や、各都道府県の金融機関、そして他の都道府県代表の方々など、たくさんの人が関わっているからこそ、この大会は面白く、また充実した三日間となったのだと思います。多くの人に関わってれば、必ずしも楽しいことができるということはありませんが、一人ひとりがこの大会に何かしらの思いがあるからこそ、意味の多い大会になったように感じます。

最後は負けるのは悔しいということです。今回の大会で私は三日間いずれでも負けてばかりでずっと悔しさがありました。来年参加することは恐らくできないので、かなり多くのことをかけてきたつもりでしたが、それが十分でないと感じたようで複雑な気持ちでした。他人と争うことにおいて準備しすぎるなんてことは無いということがよく分かったと思います。

これら三つの通り、エコノミクス甲子園に参加してみて、後悔が残る結果になった感じはありますが、それだけに多くの教訓を得られたように感じます。少なくともこの大会を機会に将来の学習へのモチベーションができたと思います。





秋田銀行

秋田大会 12月8日(土)開催

主催 秋田銀行

参加校一覧 聖霊女子短期大学付属高等学校、秋田県立秋田高等学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田県立新屋高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校、秋田市立秋田商業高等学校

申し込みチーム数 33チーム (6校)

運営スタッフ感想 今回の秋田大会には6校29チームが参加し、大いに盛り上がりました。決勝は4問目で首位に舞い出た「太宰治と丸亀製麺」が残りの問題を逃げ切り、優勝を果たしました。

また、優勝を逃した皆さんから「勉強をして来年また出場したい」、「来年戻ってきて次こそは優勝したい」と熱い言葉をいただくことができました。

最後に、参加していただいた高校生の皆さん、大会にご協力いただいた関係者の皆さまにお礼申し上げます。

優勝チーム 秋田市立秋田商業高等学校
「太宰治と丸亀製麺」





秋田大会代表 秋田市立秋田商業高等学校 3年
澁谷 小梅

エコノミクス甲子園全国大会では、自分達の力量を試すだけではなく、全国規模での立ち位置を実感することができました。周囲の知識の量と深度に焦りを覚えることができた点が、今回参加して得た経験のなかで最も幸せなことだと感じています。

一日目、夕方から催されたエコノミカ大会では、1勝しかできなかったものの、それが気にならなくなるほど楽しんで他参加者と交流をすることができました。4時間の移動と大会への気負いで今にもほどけそうだった心身の糸も、おかげで随分と余裕をもてるようになりました。

二日目、予選では慣れないプレゼンに苦戦しました。メンバーに頼りつつ、自分ができることを探して積極的に動きました。結果は3位でしたが、他班の巧みな構成・台詞に刺激を受け、次の機会に活かすポイントを幾つも吸収できました。

三日目は、自分の今までを結果として目に見える形で知り、未熟さと怠惰を自覚することができました。慌ただしき帰りの最中でも、その恥ずかしさは消えず、新幹線の座席では思わずノートとペンを手にとっていました。

エコ甲に参加した後は、まるで別人のように自然と経済に触れに行くようになりました。経済を驚くほど身近に感じられるようになっていました。エコ甲に参加して、全国大会にいかねばきっと有り得なかつたであろう変化です。エコ甲に出て本当に良かったです！

秋田大会代表 秋田市立秋田商業高等学校 3年
佐々木 美玖

1日目、新幹線に乗って東京に来ました。4,5年ぶりの東京は相変わらず人が多いと感じました。

大学生スタッフから大会のしおりをもらい、改めて今回出場した各高校の学年を確認すると、私たちのチームを含め、3年生のチームが3組しかなかったことに驚いたけれど、よく考えたら大半の高校3年生は大学の入学試験期間の最中であることに気づいた。

エコノミカ大会では、頭の良さそうな高校生が多いなあと思ったのが他の高校生への印象でした。他の高校生と対

戦し、1勝5敗と、負けが多かったですが、楽しく対戦することができました。

2日目の午前中は講演で、講演してくださった株式会社ユーグレナの代表取締役社長 出雲充さんの黄緑色のネクタイが特に印象に残っていました。午後からはくじ引きで決められていたグループに分かれてプレゼンテーションを作成・発表しました。「授業案を考える」という題であったために授業内容を細かく決め、その後に流れを考えるという話し合いになりました。話し合いの最中、自分の語彙力が足りず、話し合いについていけないことが多々ありました。所々メモの内容を見せてもらい、なんとか流れを理解することが出来ていたと思います。自分の考えた意見を出せなかったのが心残りです。

私たちのグループは上位に残り、3位という結果を収めることが出来ました。これは同じグループになった2年生の皆が中心に発表等を頑張っていたので、何もできなかった私は頭が上がりません。3位になれたのはみんなのおかげです。この場を借りてもう一度言わせてください。本当にありがとうございました。

前夜祭ではビンゴ大会が開催され、大いに盛り上がったと思います。

3日目はエコノミクス甲子園全国大会本番！第1ラウンドの一番最初に洛北高校さんと対決。敗退してしまいましたが第2ラウンド、敗者復活ラウンドに出ることが出来ました。

小中高と学校に通って、部活動も運動部として活動してきましたが、全国大会なんて経験したことがありませんでした。相方の澁谷に「エコノミクス甲子園一緒に出ませんか」と誘われ、気づいたときには優勝していました。私個人として、狙って全国大会出場を目指していたわけではありませんが、これも何かの運命ということで、初めての全国大会を存分に楽しむことが出来たと思います。全国の高校生と交流したり、金融経済の知識を競ったりと、普段の生活では難しい、とても貴重な経験が出来ました。





山形銀行

山形大会 ————— 12月9日(日)開催

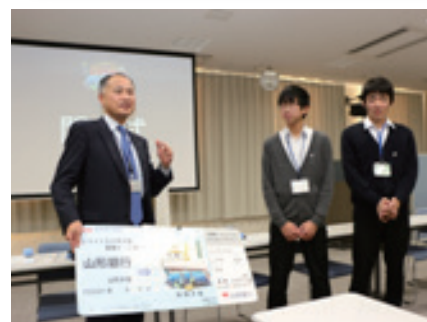
主催 山形銀行

優勝チーム 山形県立山形南高等学校
[I♡TT]

参加校一覧 山形県立鶴岡北高等学校、山形県立酒田東高等学校、山形県立山形西高等学校、山形県立山形東高等学校、山形県立山形南高等学校、山形県立上山明新館高等学校、山形市立商業高等学校

申し込みチーム数 35チーム(7校)

運営スタッフ感想 雪の影響もなく、無事に終了できました。
開催にあたり沢山のサポートをいただきありがとうございました。





山形大会代表 山形県立山形南高等学校 2年
池田 航

まず、始めに今年のエコ甲はとても楽しいものでした。最高でした。

昨年の全国大会では、準備が足りなく、負けてから決勝まで知らない用語ばかりが飛び交う様子を眺めていただけでした。しかし、プレゼンで同じグループだったチームの活躍などを見て、来年はあの舞台に立ちたいと思い、今年も地方大会にエントリーしました。なんとか優勝でき、今年こそはと思っていました。

1日目はエコノミカで色々な人と交流でき、ゲーム自体も接戦が多く、とても面白かったです。

2日目はプレゼンがとても心に残っています。普段関わりのない地域の人で頭の良い人と議論して、1つのものを創り上げることはとても貴重な経験でした。順位はあまり良くはなかったけど、楽しかったです。ありがとう。

3日目。いよいよ決戦の日。早押しで負け、もう無理かなと思っていましたが、第2ラウンドで運もあり、勝って準決勝に進出することができました。とても嬉しかったです。

最終的には準決勝で敗退し、夢は叶いませんでしたが、知識量が多いわけではなかったなので、満足です。去年よりも上位に入れて良かったです。

エコ甲に出会って私の世界は変わりました。大学の志望も経済学部になりましたし、全国大会での交流で友人の輪が広がり、出会えて本当に良かったです。

最後に大会の運営をくださった金融知力普及協会、大学生スタッフ、山形銀行の皆様ありがとうございました。

山形大会代表 山形県立山形南高等学校 2年
小野 寛英

私はエコノミクス甲子園を終えて、出場してよかったと心から思った。

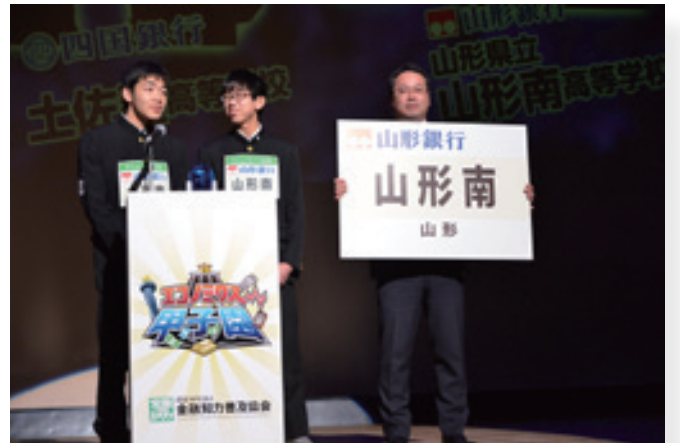
会場に着いてから、私は緊張していた。しかし、1日目に他の都道府県の方と交流をする場が設けられ、たくさんの選手と話をすることができ、緊張が和らいだ。

2日目はプレゼン大会で1班3~4チームに分かれて行った。私は意見をほとんど出せず、足を引っ張ってしまったが、

他のチームの方と交流を深めることができ、とても良かった。

3日目の本戦では、相方の足を引っ張らないよう頑張ろうと思ったが、早押しで負けてしまい、結局足を引っ張る形になってしまった。しかし、第2ラウンドで挽回することができ、準決勝まで進むことができた。

私はこの3日間を通して、とても良い経験をする事ができた。このような経験は誰もができるわけではない。そして私1人の力だけでできるものではない。エコノミクス甲子園を主催、後援をくださった皆様、大会を運営くださった方々、問題を作ってくくださった大学生の皆様、ライバルとして戦い、友人として応援してくくださった高校生のみなさん、そして、何よりもこの大会に誘ってくれて私が足を引っ張っても励まし、支えてくれた相方に感謝をしなければならなかった。そして、今回の経験を糧にして、日々精進していきたいと思った。





すべてを地域のために

東邦銀行

福島大会

12月9日(日)開催

主催 東邦銀行

参加校一覧 福島県立福島高等学校、福島県立磐城高等学校、福島県立安積黎明高等学校、福島県立安積高等学校、福島県立会津高等学校、福島成蹊高等学校、福島工業高等専門学校

申し込みチーム数 27チーム (7校)

運営スタッフ感想 今回は、福島大会はじまって以来の最多出場数であり、大いに盛り上がりました。
また、2年前に全国大会に出場し、6位入賞を果たした高橋昂汰さん(東京大学在学中)が大会協力のため、東京よりかけつけ、後輩たちのために尽力して頂きました。「来年リベンジに必ず戻ってくる」と既に宣言する高校生もおり、来年もより沢山の高校生に参加いただけることを期待しております。

優勝チーム 福島県立福島高等学校
「田沼意次」





福島大会代表 福島県立福島高等学校 1年 網中 郁海

一日目

エコノミカ大会のみではあったが、他校の方々との交流を通して、大会への緊張と実感を高めることが出来た。

二日目

「経済活動と環境の両立の難しさを中学生に伝えるための授業案」という課題のもと、4チームで協力してプレゼンテーションの作成にあたった。正直、課題の内容が難しく、自分の考えを深めることがあまり良くできなかったが、他校の方々とは次々とアイデアを出し、考えを深めて話し合っていた。そんな光景を見て、全国大会は地方大会よりもはるかにレベルが高いということ、この時点で自分の勉強が足りなかったことを改めて実感した。自分もなんとか先輩方の助けを借りながら、授業案の作成に取り組み、完成させることができた。プレゼン大会本番では、自分たちのチームは決勝ラウンドまで勝ち進み、二位という成績をおさめることができた。二日目は、金融知力の大切さだけでなく、普段から社会の課題への関心を高め、その課題に関して自分の考えを深めていかなければならないということを学ぶことができた。

三日目

ついに大会本番の日となった。第1ラウンドの早押しクイズを勝ち進み、第3ラウンドで敗退した。ここでも自分の勉強不足を痛感した。この大会で、終わりのない学問である経済を学ぶには、自分たちのように二ヶ月や三ヶ月の努力では足りないということ、また、若いうちから経済に関心を持つことを意識しながらでないと、大会でも優勝できないし、生活でも役立たせることはできないと実感した。

福島大会代表 福島県立福島高等学校 1年 梅宮 悠

全国大会に向けては、送られてきた事前教材のほかにインターネットで経済用語を調べたり、市販の本で勉強したりしました。

一日目：午後5時ごろに会場のオリンピックセンターに到着し、他の県の方と少し話をして交流を深めました。また、そのあとのエコノミカ大会でも対戦相手の方と自己紹介を

しあって学習の進み具合などを確認しました。

二日目：この日が大会三日間の中で精神的にも体力的にも最もキツイ一日でした。朝起きて会場に集合し、ミドリムシのビジネスをされている方の講演を聞きました。普段学校で受ける講演は、言わずもがな、つまらないものですが、今回のお話ではどうすれば僕たちのような若者がイノベーションを起こせるのか、という点についてお話いただいたのでとても実感がわき面白かったです。この次のプレゼン大会では、他の方が全員二年生だったこともあり主にサポートに回りました。幸運にも優秀なメンバーと一緒にたおかげで、決勝ラウンドで2位になることができました。この次の前夜祭ではごちそうを腹に詰め込んで三日目の準備をしました。そして眠くなり始めた午後9時ごろ、ペーパークイズが行われました。一日の疲れもありあまり頭の回転が良くありませんでした。来年は大会前に海外に行き、時差ボケになることでこれを克服したいです。

三日目：一言で表すと「甘かった」に尽きます。準決勝をかけた第三ラウンドで簡単な問題を勘違いして回答してしまい僕の冬は終わりました。ですが現時点での最高の力は出しました。司会の方は興奮のあまり鼻血を出しました。決勝ラウンドには一年生チームが沢山いたので、とても悔しかったです。

今大会ではたくさんの課題が見つかりました。知識とチーム力です。このチームではないかもしれませんが、来年こそは全国大会で優勝します。





筑波銀行

Tsukuba Bank

茨城大会 ————— 12月9日(日)開催

主催 筑波銀行

参加校一覧 常総学院高等学校、明秀学園日立高等学校、江戸川学園取手高等学校、茨城県立並木中等教育学校、茨城県立古河中等教育学校、茨城県立古河第三高等学校、茨城県立土浦第一高等学校、茨城県立土浦第三高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、茨城県立竹園高等学校

申し込みチーム数 40チーム (10校)

運営スタッフ感想 今年の茨城大会は、平成30年12月9日(日)に39チーム、78名の参加により、盛大に開催されました。決勝ラウンドでは、今年も白熱した戦いが繰り広げられ、茨城県立並木中等教育学校の三倍満が優勝し、全国大会の出場権を獲得しました。今後も、大会を通じたたくさんの高校生に楽しく金融知力の大切さを学ぶことができるよう取り組んでいきたいと考えております。地方大会も無事終了することができ、関係者の皆様に感謝いたします。

優勝チーム 茨城県立並木中等教育学校
「三倍満」





茨城大会代表 並木中等教育学校 2年
阿部 祥太郎

昨年は県大会3位に終わった我々は、チーム名を変え心機一転し、全国大会の出場権を手に入れた。初日の「エコノミカ大会」で優勝し、絶好のスタートを切ったように見えた全国大会であったが、第1ラウンド、第2ラウンドと全く答えられず、あえなく予選敗退した。予選後に食べた昼食のカツサンドの味は忘れることができない。

昼食後、金知くんというエコノミカのキャラクターの着ぐるみがいたので、写真を撮り会話を楽しんだ。彼は某球団の燕のようにスケッチブックとペンで会話した。彼と話すうちに、エコノミカ大会で厳しい局面から何度も逆転してきたことを思い出し、まだやれるぞ、という自身が湧いてくるのを感じた。

その後の敗者復活戦は、32チーム中2チームのみが復活という厳しいものであったが、それを勝ち抜き、最終的には決勝を3位で終えた。決勝前半ではトップを走っていただけにやや悔しさが残る結果となってしまったが、上位入賞できたのは大きな収穫であった。

この大会で得たのは全国3位という結果だけではない。全国から集まった優秀な高校生と3日間を共にしたことで、大きな刺激を受けることができた。これは何物にも代えがたい貴重な経験であった。この刺激をモチベーションに変え、今後に生かしていきたい。

最後に、全国大会出場にあたり、筑波銀行をはじめとした多くの方々にご支援をいただいた。この場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

茨城大会代表 並木中等教育学校 2年
小松 恵大

エコノミクス甲子園は非常に有意義で、楽しいものだった。県予選から始まり、エコノミカの大会やプレゼンパートなどは単純な知識だけでなく知恵なども試す内容で、それ以降のクイズにも様々な趣向が凝らされていた。2泊3日にわたる生活も同室になったりパーティーで会話したりと普段会うことのできない全国のエリートたちと交友を結ぶことができ、意義深いものであった。また、筑波銀行の方からも熱いエールと支援をいただき、快適にクイズに

集中することができた。学校の先生の応援や筑波銀行の名を背負っているため、簡単に負けるわけにはいかないというプレッシャーの下、紆余曲折はあったものの、結局は総合3位という順位につくことができたことは、とてもうれしく思う。

さて、この大会への出場は自身の所属する学校のクイズ研究同好会の伝統的な活動の一環としてであるが、出場するからにはとあって始めた経済の勉強は思ったより楽しく、また、ためになるものであった。ニュースや新聞に出てくる経済関連の話題へ以前よりも注目するようになり、理解が深まった。さらに日常生活の様々な場面においてもロスカットや機会費用などを考え、様々な損得計算をしてから行動が起こせるようになった。この経済学的な考え方を早い段階で身につけることができたことは、この大会を通して得た力のうちで最も益となるものだと確信している。

このように、この大会のは様々な面においてクイズ大会として有意義であり、楽しいものでもあったので、参加できたことを本当にうれしく思う。もし機会があれば次の大会にも参加したいと思う。





足利銀行

栃木大会

12月16日(日)開催

主催 足利銀行

参加校一覧 栃木県立石橋高等学校、栃木県立矢板東高等学校、栃木県立真岡高等学校、栃木県立栃木高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立佐野高等学校、宇都宮短期大学附属高等学校、宇都宮文星女子高等学校、佐野日本大学高等学校

申し込みチーム数 31チーム (10校)

運営スタッフ感想 今年も、多くの高校生が楽しんでクイズに参加してくれました。
決勝ラウンドでは、途中順位の入れ替えはありましたが、やはり、最後は正解率の高いチームが所持金を増やして、納得の優勝となりました。優勝チームは「解答」と「戦略」に担当を分け、集中して答えたようです。
栃木大会は6回目となりましたが、回を重ねても毎回反省点があります。
高校生に楽しんでもらえる大会にしたいとスタッフみんなで取り組んでいますので、このエコノミクス甲子園が高校生時代の良き思い出となったら嬉しいです。

優勝チーム 栃木県立宇都宮高等学校
「チーム520」





栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 2年
高田 虎太郎

一日目 (移動・エコノミカ大会)

「エコノミクス甲子園」は学年末テストの中日ということもあり、テスト終了後に新幹線に飛び乗る、という慌ただしい始まり方でした。しかし、普段のクイズの大会は基本鈍行列車で移動するので、この新幹線での移動は「エコノミクス甲子園がとうとう始まった!」と感ずることができました。到着後行われたエコノミカでは一勝しかすることができませんでしたが、とても楽しかったです。

二日目 (プレゼン&筆記)

エコノミクス甲子園の諸行事の中で最も私の印象に残っているのは、株式会社ユーグレナの出雲社長による講演です。時折声を震わせながら、「世界から栄養不足を無くす」ためのビジョンを語るとともに、私たちへの熱い応援の言葉を掛けて下さり、とても感動しました。

その後行われたプレゼンでは盛んに建設的な意見を出し、私のミスフォローしてくれたグループのメンバーのおかげで二位と取ることができました。その後の筆記試験は、唐突だったので戸惑いました。手応えはあまり良くなく、自分の勉強不足を感じました。

三日目 (小ホールでの本戦)

本戦ではプレゼンでの健闘も功を奏し準決勝まで進出することができました。しかし、この結果は満足なものとは言えず、「もっと事前準備をできたのではないか」と強い後悔を覚えています。この思いを部の後輩に託し是非とも来年は優勝を勝ち取って欲しいと思います。

また、このエコノミクス甲子園を通し、全国の様々な特技をもち、志の高い仲間たちに出会いました。これは、来年に控える大学受験に向けてのモチベーションを大いに高めるよい刺激となりました。

栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 2年
俣平 洸希

2泊3日という日程の中で、思えば殆ど眠りにつけなかった。疲れ、もしくは寝具との相性もあったかもしれないが、一番の理由は「次の日への期待と高揚」だと思う。

1日目、学校で定期考査を受けたその足で会場へと向かっ

た。何も考えずにエコノミカを楽しんでいたが、上位入賞にあと一步届かなかったのは正直とても悔しかった。

2日目のプレゼンテーションラウンドでは、単純な事ではあるが、助け合いの大切さを感じた。冷静な目線でアイデアを出す人、タイピング技術を駆使して資料をまとめる人、怖気付かずに胸を張って審査員に伝える人。自分が得意な分野を担い、仲間の苦手な分野を助ける。当たり前かもしれないけれど、普段の高校生活ではあまり育む機会もないように思う。その事を気付かせてくれたこの日は、終わった今もなお深く心に残っている。前夜祭では、北から南まで、色々な地域の同世代の方々と楽しい夜を過ごした。

そして3日目、僕たちは予選6位というアドバンテージで準決勝まで勝ち進んだ。準決勝では最後の問題(実質の2択)を正解していれば勝ち抜け、という状況だったので、自分の知識と引きの無さを痛感した戦いだった。

この3日間までにどれほどの知識を、感情を、感動を得ただろうか。エコノミクス甲子園に関わった全ての方々に、最大限の感謝を申し上げたい。





群馬銀行

群馬大会

12月9日(日)開催

主催 群馬銀行

参加校一覧 ぐんま国際アカデミー高等部、群馬工業高等専門学校、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校、共愛学園高等学校、利根沼田学校組合立利根商業高等学校、樹徳高等学校、群馬県立万場高等学校、群馬県立中央中等教育学校、群馬県立前橋高等学校、群馬県立太田高等学校、群馬県立沼田高等学校、群馬県立渋川女子高等学校、群馬県立高崎商業高等学校、群馬県立高崎高等学校

申し込みチーム数 32チーム (14校)

運営スタッフ感想 今大会は、14校32チームのお申込みをいただき、学校数、チーム数とともに過去最高となり、エコノミクス甲子園が群馬県内の高校生にも浸透してきたと感じました。参加チームが増えたこともあり、第2ラウンドも例年以上の盛り上がりを見せました。決勝ラウンドは、得点の変動が激しく、1問ごとに順位が変動し、手に汗握る展開となりました。特に9問目終了時点の最下位チームが、最終問題で1チームだけ正解し、一挙に2位に浮上し、会場が多いに沸きました。そうして熱戦の中、順調に正解を重ね、2位以下に大差を付けて群馬県立中央中等教育学校のSUMMITが優勝しました。このチームは募集開始と同時に申込みをしてくれ、「十分な準備時間が取れたことが勝因」と語りました。来年も、今年同様に多くの高校生に申込みをしてもらえればと思います。

優勝チーム 群馬県立中央中等教育学校 [SUMMITS]





群馬大会代表 群馬県立中央中等教育学校 2年
山口 朔矢

地方大会4位に終わった去年。その悔しさをバネに今年のエコ甲には熱が入った。いち早くエントリーして誰よりも早く対策をはじめ、地方大会では予選、決勝ともに危なげなく勝ち上がって全国大会への切符を手にした。大会までの3ヶ月間、全国大会用テキストは桁違いの難しさだったが、同じクラスにいるネット大会優勝チームと問題を出し合って、多くの知識を身につけた。

ついに全国大会が始まった。基調講演では、株式会社ユーグレナの出雲充社長の熱意あふれる言葉に心を打たれた。その後、本選を優位に戦うために大切なプレゼンテーションラウンドが始まった。やはり、初対面の高校生といきなり共同作業をするのは非常に難しかった。しかし、自分たちが考えた案を堂々と発表し、全体成績1位で終わることができた。夜に行われた筆記試験と合わせて予選を2位で通過し、本選へのアドバンテージを得ることができた。本選では第1ラウンドであっけなく敗退してしまったが、予選順位のおかげで第3ラウンドに進むことができ、順調に勝ち進んで決勝まで駒を進めた。決勝戦は難問揃いで全く点が取れない状態が続いたが、通常よりも多くの得点を手に行ける金の女神像をいいタイミングで使うことができ準優勝できた。

大会を通じて金融知力を高めることができ、自分の人生観が変わった。また、準優勝できるとは考えてもいなかったなので大きな達成感を感じられた。この経験を今後の人生に必ず生かしていきたい。さらに、今後の群馬代表から優勝者が出ることを期待したい。

群馬大会代表 群馬県立中央中等教育学校 2年
蟻川 大智

1日目のエコノミカ大会では、3勝1敗というまずまずの結果でした。普段は、エコノミクス甲子園に向けて勉強している合間に息抜きとしてやっていたのですが、熱戦が繰り広げられることもありなかなか面白かったです。

2日目には、なんと株式会社ユーグレナの出雲充社長が講義に来てくださり、大変貴重なお話を聞かせていただきました。1番じゃなきゃ意味がないという言葉が心に残り

ました。このあとのプレゼンテーションラウンドでは、難しいテーマでしたが仲間と協力して見事優勝できました。私たちが授業にVRを導入するという独創的なアイデアを出して貢献できたと思います。ビンゴで景品が当たったり、抜き打ちで筆記テストがあったりしながらあっという間に3日目になりました。予選2位ながら早押しでいきなり敗北するなどありましたが、その後はある程度勉強の成果が発揮できたと思います。決勝ラウンドでは、勉強していない内容ばかりで非常に苦戦しました。それでも金の女神像と「SDGs」のおかげで大きく得点を伸ばし、準優勝できたのは嬉しかったです。もう今後は金の女神像に足を向けて寝られないです。

実は本校同級生でネット大会優勝者がいたのですが、同じ学校から2組は参加できないというルールのため参加できませんでした。それでも、問題を作ってくれたりして全国大会までサポートしてくれました。最後に、地方大会を主催してくださった群馬銀行様をはじめ、この大会の開催・運営に関わってくださった全ての方々、そしてネット大会優勝者の同級生2人に感謝の言葉を述べたいと思います。ありがとうございました。





埼玉りそな銀行

RESONA

埼玉大会

11月18日(日)開催

主催 埼玉りそな銀行

参加校一覧 開智未来高等学校、西武学園文理高等学校、淑徳与野高等学校、栄東高等学校、昌平高等学校、早稲田大学本庄高等学院、川越東高等学校、埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、埼玉県立川越高等学校

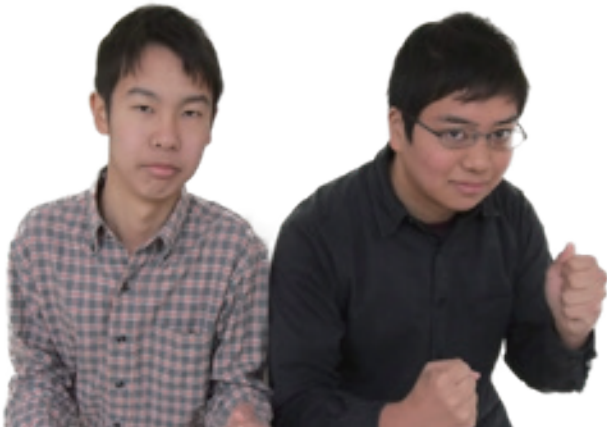
申し込みチーム数 35チーム(10校)

運営スタッフ感想 今回の埼玉大会には、35チーム70名の高校生の皆さんにご参加いただきました。早押しクイズでは、高校生の皆さんは事前準備がしっかりと行われていたこともあり、問読み中に回答してポイントを積み重ねるチームが複数いたことから、白熱した大会となりました。また、決勝ラウンドのビルトインスタビライザークイズでは問題の回答だけでなく、「弱肉強食」か「格差是正」のどちらをどのタイミングで選択するかについて各チーム同士で高度な駆け引きが行われていました。

結果として埼玉県立川越高等学校の「ignition」チームが、激戦を制し優勝しました。今後も、多くの高校生の皆さんにご参加いただき、金融経済の大切さについて楽しみながら学んでいただけるよう取り組んで参りたいと思います。

優勝チーム 埼玉県立川越高等学校
「ignition」





埼玉大会代表 埼玉県立川越高等学校 1年

小園 樹輝

1日目（移動、エコノミカ大会）

金曜日の午後、授業が終わるとすぐに私たちは大会に向けて出発しました。

会場に着き写真撮影をしたらエコノミカの会場に移動。大会の開始までは時間があつたので、相方と練習をしていました。私たちは二人ともブースターパックの内容を入れたオリジナル部門で出場。たくさん練習してきたので、勝てると思っていたのですが…、間違ったルールでゲームをしてきた事に試合開始2分後に気づいたのです…。結果はボロボロで、かなりショックを受けました。

エコノミカ大会の後は宿泊する部屋に移動しました。私たちは島根代表の2人と同じ部屋で、話が合うか不安がありましたが、意気投合して会話が弾みました。1日目はあつという間に過ぎてしまいました。

2日目（プレゼン、前夜祭）

少し眠い体をなんとか起こして朝食へ。バイキングだったので、朝から多く食べてしまいました。

朝食の後はユーグレナの社長である出雲さんの講話を聞きました。自らが起業家である出雲さんの苦労話や、考え方に強く心を動かされました。

その後はプレゼン大会が行われました。前日に引いたくじでチームを作り、課題に沿ったプレゼンを作り発表するというものです。私たちのチームは意見をとにかく言い合い、積極的に内容を決めていきました。プレゼン開始の時間までにしっかりと準備が整って、他のチームと戦う事が出来ました。

一回戦、二回戦を勝ち抜けてついに決勝へ。決勝戦は大きいホールで、色々な来賓の方の前で発表となり、チームのみんなが緊張しましたが、出来る限りの力をだした私たちは対象者のニーズを調べた事などが評価され、見事優勝しました。多くの人数で熱中して何かをするという体験はとても良いものになりました。

プレゼン大会の後は立食パーティーが開かれました。色々な都道府県の方と会話できて優雅な時間を過ごせた事が良かったです。立食パーティーも終わり、明日に備えて就寝…だと思ったのですが、なんといきなり筆記クイズが始まりました！満腹感や眠気と戦いながらクイズを解くの

は辛かったです…。また、問題がかなり難しく、呆然としながら就寝しました。

3日目（小ホールにて決勝大会）

さて、いよいよ3日目です。正直、2日目の内容が濃過ぎたため、3日目はさほど緊張しませんでした。朝食、部屋の片付けをして会場へ移動。第1ラウンドは早押しクイズでしたが、自分の勘違いで敗北。次の第2ラウンドも相方との作戦ミスで敗北と奮わない結果になってしまいました。悔しかったです。

全体の感想としては、かなり充実した3日間になって満足でした。仲間と一つの難題に挑んだり、面白いルールのクイズに挑んだり日常生活では得られない貴重な体験でした。後援していただいた多くの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。今年はかなり悔しい結果になってしまったのでまた来年リベンジしたいと思います。

埼玉大会代表 埼玉県立川越高等学校 1年

畠山 大成

今回、1年生のうちからこのエコノミクス甲子園の全国大会という大舞台に立つことができ、とても良い経験になったと思います。日々読んでいる新聞から得た知識や予習用教材として渡された冊子を熟読して、地方大会や全国大会に参加しました。しかし、ライバルたちは主に2年生たちで、勉強量の差もあり本番ではかなりの苦戦を強いられました。2日目のプレゼンテーションラウンドはグループ全体で1位通過と順調な結果を積んでいけましたが、2日目の前夜祭後の抜き打ちペーパーテストあたりから不安が頭の中をよぎり始め、3日目の本番は惨敗しました。来年度に向けてより一層しっかり勉強して行こうと心に誓いました。

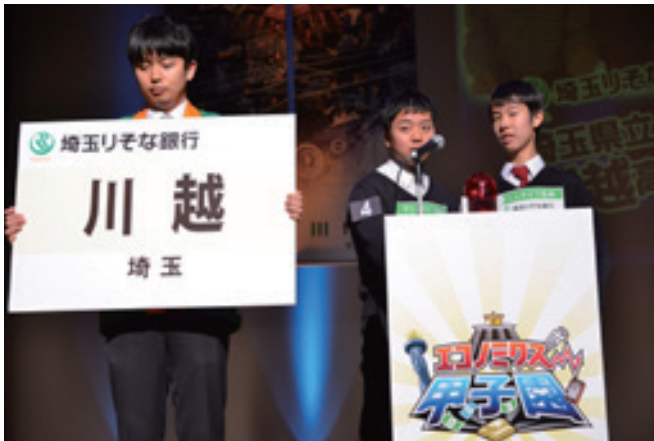
これまで、反省ばかり書いてきましたが、ここからは、このエコノミクス甲子園の全国大会で体験できた貴重な経験について書いていこうと思います。

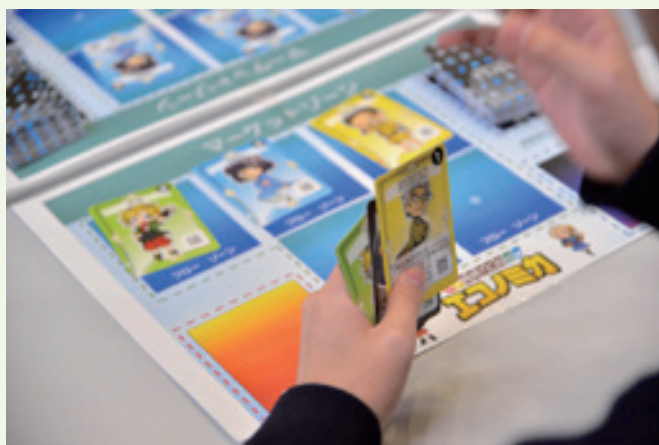
まずは1日目、1日目は夜にエコノミカ大会があり、一緒に出場した相手と練習した時に知らなかったルールやカードもありやや苦戦しましたが、とても楽しかったです。

2日目はまず基調講演として株式会社ユーグレナの代表取締役社長の出雲充さんの話を聴きました。よく経済番組等で見かける人で、とても参考になる話を聴くことができました。その後、プレゼンテーションラウンドがあり、難しい課題に対して、僕たちの「E班」は「Eゲーム」をいうものを提案してみましたが、この「Eゲーム」というアイデア自体はグループの他の人が出したアイデアですが、名前は鉄道の愛称として使われている「Fライナー」、「S-TRAIN」や「L特急」、「E電」などを参考に僕が考えました。意外とウケが良くて嬉しかったです。各部屋で行われた予選ラウンドも緊張しましたが、国際会議室で行われた決勝ラウンドでは原田義昭環境大臣をはじめとても偉い方々が来賓としていらっしゃっており、とても緊張しました。その中で1位という素晴らしい結果を残す事ができて本当に良かったです。そしてその後行われた前夜祭では、本格的な立食パーティを体験できて、とてもよい経験になりました。



最後に、このエコノミクス甲子園の全国大会を主催して下さった金融知力普及協会の方々、そして大会を運営して下さった大学生スタッフの方々、また、大会を支えて下さった銀行やスポンサーの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にこのような素晴らしい大会を開いてくださり、本当にありがとうございました。







千葉銀行 千葉興業銀行

千葉大会 ————— 12月16日(日)開催

主催 千葉銀行、千葉興業銀行

参加校一覧 渋谷教育学園幕張高等学校、柏日体高等学校、市川高等学校、専修大学松戸高等学校、千葉県立千葉高等学校、千葉県立佐倉高等学校、千葉市立稲毛高等学校

申し込みチーム数 22チーム (7校)

運営スタッフ感想 全国大会は13回目ですが、千葉大会は記念すべき10回目。多数の高校生に参加いただき、盛況のうちに終了しました。
決勝ラウンドは1位が1問ごとに入れ替わるような、最後までハラハラドキドキする展開となりました。
開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、参加してくれた高校生の皆さん、ありがとうございました。今後も千葉銀行と千葉興業銀行の2行で千葉大会を盛り上げていきたいと思います。

優勝チーム 渋谷教育学園幕張高等学校
「がんばろう日本」





千葉大会代表 渋谷教育学園幕張高等学校 2年
小野坂 太我

負け犬である。負け犬こそが社会を作る。勝者になるために足掻き、それでも負け、上に上にと進み続けるその力がなければ人類はとうに滅亡していただろう。まあ遠吠えではあるが。ただし今回の負けは納得がいくものではあった。情熱だ。勝ってやるぞ、という情熱が少なかったと今更ながらに思う。全国大会で出会った方々は本当によく勉強していた。その点において私は戦いの土俵にさえ立っていなかったのではないかとさえ思う。

出雲氏の基調講演にはいたく感動した。あれほど上手いプレゼンテーションを見たことがなかったし、何より世界の食糧危機を救う！という一途な情熱に心打たれた。自分も何か情熱をもって物事を進めたい。当面は受験勉強に情熱を傾けるしかないが。プレゼンテーションといえば、私もプレゼンをやらせて頂いたが、プレゼン後に何人かの方が私を憶えてくださっていたことに感動した。何の取り柄もない私ではあるが、少しでも印象に残ったと考えると嬉しくて興奮してくる。

全国の方々を知りあえたことで、これから踏み出してゆく世界に仲間が出来たように思うし、この仲間から成功者も現れる事であろう。この関係は大切にしていきたいと思っている。部屋は他県と相部屋で、明日戦う相手と部屋で歓談するというのは中々に楽しい経験であった。

脈絡のない感想文になりましたね、ごめんなさい。本番の雰囲気は分かんねえって？百聞は一見に如かず。皆さんにも是非経験して頂きたい、そう思います。

千葉大会代表 渋谷教育学園幕張高等学校 2年
成田 翔海

今大会を通して私が強く感じたことは、各都道府県代表の素晴らしさであった。

まずは、私自身の不勉強を反省せねばならない。これまでクイズに親しんでこなかったため、早押しはもちろんその他のクイズにおいても、耳で問題文を聞いて理解し、様々な形式で解答するという形式に苦戦してしまった。また、配布された3冊の資料には以前から知っていた内容も多く含まれており、この程度なら答えられるだろう、と高を括っ

てしまっていた。一方の他県代表は、特に2回目の全国大会出場ペアは自分達で参考書を何冊も購入し、一年間かけて勉強を重ねていたようだ。私たちが勝てるはずもない。

次に私が驚嘆させられたのは、コミュニケーション能力の高さである。相部屋となった宇都宮高校のお二人をはじめ、多くの方々が気軽に接してくれたおかげで、人見知りな私でも3日間という短い期間で打ち解けることができた。2日目には、お互い初対面の計8人で約5時間のうちにプレゼンテーションを作成するという課題が出されたが、グループ内で互いのアイデアを尊重し合い、時には意見をぶつけ合いつつ、何とか一つのプレゼンを完成させることができた。特にこのグループの方々とは、互いの価値観を共有し、一つのゴールに向けて協力したことで、より親しくなることができたのではないかと思う。様々な価値観を有する全国の高校生との交流は、この5年間学校内にしか友人を作ってこなかった私にとって新鮮で、とても有意義なものとなった。

最後となってしまったが、わずか3日間の全国大会の中で数多くの貴重な経験をすることができた。今大会での成績は全く振るわなかったが、大会を通して得た知識、教訓、繋がりを活かし、今後の人生をより豊かなものとしていきたい。





りそな銀行

RESONA

東京大会

11月18日(日)開催

主催 りそな銀行

参加校一覧 麻布高等学校、鷗友学園女子高等学校、高輪高等学校、開成高等学校、足立学園高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、立教女学院高等学校、東京都立青山高等学校、東京都立豊多摩高等学校、朋優学院高等学校、東京工業大学附属科学技術高等学校、早稲田高等学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、創価高等学校、日本学園高等学校、八王子学園八王子高等学校

申し込みチーム数 22チーム(16校)

運営スタッフ感想 今年の東京大会は、初めて東京都の後援をいただき、充実した大会となりました。

「国際金融都市・東京」クイズをご提供いただき出題しましたが、これがなかなかの難問。参加者には事前に資料を送付してはいましたが、正答できたのは半分程度。きっと、東京という都市をあらためて考えるいい機会になったと思います。

決勝ラウンドは1位からいきなり最下位に転落することもある順位変動の激しい展開となりましたが、問題の難易度に合わせた巧みな戦略で終盤首位に立ったチームが最後まで首位を守りきり優勝を決めました。優勝チームの一人は昨年覇者。ペアを代えて2連覇となりました。全国大会経験済という強みをもって、是非、今年こそニューヨーク研修旅行を勝ち取ってほしいと、スタッフ一同から応援のエールを送ります！

キャッシュレス社会への変化など、これからますます金融知力の重要性は高まると思います。来年もたくさんの高校生のチャレンジをお待ちしています。

優勝チーム 早稲田高等学校
「世田谷」





東京大会代表 早稲田高等学校 2年
平井 裕一

僕はペアの関根君にエコノミクス甲子園の参加を誘われエコノミクス甲子園への参加を決めた。地方大会で優勝することができて、ワクワクした気持ちで全国大会へと向かった。

1日目、エコノミカルールをあまり周知していなかった僕は負け越してしまったが、とても楽しい大会だった。

2日目はプレゼンテーション大会。初対面の人ということもあり最初は緊張したが、議論し合う間に距離も縮まり最後は皆仲良くなることが出来た。結果は良くなかったが、初めての経験でとてもためになった。

3日目、全国大会では敗者復活戦で最終戦まで残ったが惜しくも負けてしまった。その後、準決勝・決勝をみて他校の人の知識の多さに驚かされた。

この3日間を通して1番学んだことは、その場で対応できる臨機応変の重要さである。プレゼンテーションや全国大会の時も、突然提示されたテーマやルールに対していかにして対応していくのかというのが大切かということを感じた。これは、今後社会に出たあとも大切なことだと感じた。結果としては優勝を逃してしまい悔しい思いも残ったが、全体を通して非常に楽しい大会であった。

最後に、この大会の運営に関わった全ての関係者の方々、素晴らしい大会を開催していただき本当にありがとうございました。

東京大会代表 早稲田高等学校 2年
関根 詩人

私は昨年もエコノミクス甲子園の全国大会に出場しました。そこで全国の皆さんと交流をして大変な刺激を受けました。ただ経済の知識が豊富なだけでなく、プレゼンラウンドでの表現力やコミュニケーション能力…。多くの知識・能力を持ち、さらに志も高い出場者の方を見て圧倒されました。

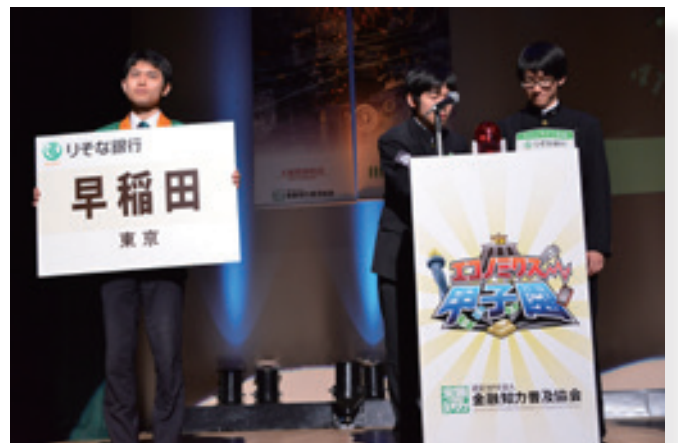
昨年、全国大会で受けた刺激を忘れることが出来ず、今年もエコノミクス甲子園への思いが少しずつ募っていきました。運よく地方大会で優勝を果たし、全国大会に出場することができました。

しかし昨年も今年も結果は微妙なものでした。それはただただ自分の努力不足にありました。思えば昨年も、大会終了後から勉強や部活で次第にエコノミクス甲子園のことは忘れていき、地方大会で優勝したのはいいものの、それからというもの明らかに勉強量が少なかったように思います。

大会を通して多くの経済界の方がおっしゃっていましたが、経済は日々進歩しています。また経済は、今回の環境問題との対応を考えるプレゼンテーションのテーマにもあるように、多くの分野と結びついています。なので、経済の勉強に終わりはありません。

思えば自分の経済の勉強はすぐに区切りをつけていたように思います。しかしそうではなく、区切りをつけずエコノミクス甲子園が終わっても私たちは学び続けなければならないと思いました。これからは日々継続的に経済の勉強を続けていきたいと思います。

最後に、このような素晴らしい大会を開催して頂いたスタッフの皆さま、経済・金融関係の皆さまに感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。





横浜銀行

神奈川大会

12月16日(日)開催

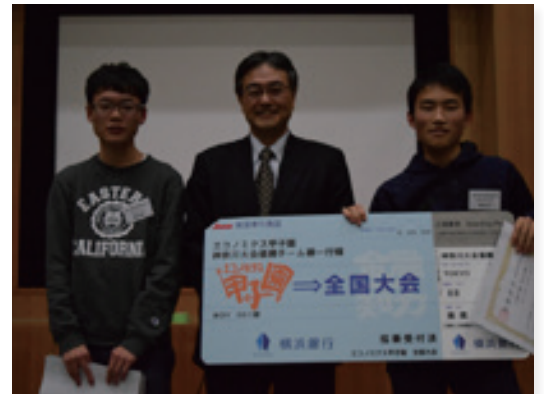
主催 横浜銀行

参加校一覧 藤嶺学園藤沢高等学校、聖光学院高等学校、神奈川県立荏田高等学校、神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立上鶴間高等学校、浅野高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、洗足学園高等学校、武相高等学校、横浜市立南高等学校、桐蔭学園高等学校、桐蔭学園中等教育学校、栄光学園高等学校、慶應義塾高等学校、カリタス女子高等学校

申し込みチーム数 40チーム(16校)

運営スタッフ感想 横浜銀行に集った高校生39チームが繰り広げた熱い戦い！
予選も決勝も、素晴らしい回答や驚くような逆転劇に時折思わず声を出しながら観戦してしまいました。
たくさん的高校生が金融、経済について一生懸命に学び、知識を競う姿に、運営している私たちも感動をいただきました！

優勝チーム 神奈川県立湘南高等学校
「ウトワージ」





神奈川大会代表 神奈川県立湘南高等学校 1年
曳地 航平

私は緊張と高揚の渦巻く感情を震える手に込めそっとボタンの上に置いた。問題が読まれる。自分の意志とは関係なく手が動く。私は耳から聴神経、運動神経から手の筋肉へ電気信号が伝わるのを感じた。単語を言う。間違っているのは分かっていた。ブーという音と共に相手への罪悪感が溢れだした。前を向けなかった。そのあとの記憶は断片的である。何か欠落したまま私のエコノミクス甲子園は終わった。

思い返せば地方大会、私は一切対策をしなかった。私達にあったのは学校の授業の現代社会の知識と相方が前日に10分で読んだ本の知識だけだった。いわば私達は地方の零細な本屋、ライバル達は都市の大本屋のようなものだ。だが、小さな本屋ほどどこに何があるか把握しているものだ。大本屋が本の検索に手間取る間に勝てたのだ。しかし、全国大会のライバルはネット本屋だった。蔵書量は無限大、本の検索は瞬間もなかった。勝てるはずがなかったのだ。

さて、1年後地方の赤字零細本屋はネットを導入できるだろうか。

神奈川大会代表 神奈川県立湘南高等学校 1年
藤田 直敬

私は、神奈川県代表として第13回エコノミクス甲子園全国大会に参加させていただきました。

正直、僕たちは、全国大会に出場することになるとは思っていませんでした。地方大会に出場した際には、ほとんど勉強をしていなかったのに優勝してしまい、「どうして？」となったのを覚えています。

そんな僕たちは、「全国大会に出場するなら」と、少しずつ勉強を始めました。渡された教材を読み、経済に関する用語や知識、考え方などを学んでいく上で、少しずつ、テレビのニュースなどの見方が変わっていったような気がします。具体的には、今までは株価などについてのニュースが流れている時、「なんか、株価って難しそうだね」くらいにしか捉えていませんでしたが、今では、株価が上がったりしていると、「なんで上がったのかな」と、少し気になるようになりました。僕にとってこの大会は、経済や金融に

興味を持つとても良い機会になったと思います。

そして迎えた全国大会、周りのレベルがとても高く、自分の準備不足、知識不足を思い知りました。何故地方大会の時からもっとしっかりと勉強をしなかったのかと、強く感じました。ですが、悔しいのと同時に、とても充実した3日間だったなと思いました。その理由は、何よりもまず、大会に参加し、プレゼンテーションや他県の代表の高校生との交流などを通して、なかなか得ることができない、貴重な体験を得ることができたからです。そして、この大会に向けての準備、そして大会本番を通して学んだことは、僕の人生にとってとても貴重なものだと感じたからです。

僕たちは、まだ高校1年生です。なので、まだチャンスはあります。来年、この全国大会の舞台に同じ二人で戻ってきて、今回よりも良い結果を残したいと思います。

最後になりますが、このような貴重な体験をさせてくださった皆様に感謝したいと思います。本当に、ありがとうございました。





第四銀行



北越銀行

新潟大会

12月9日(日)開催

主催 第四銀行、北越銀行

参加校一覧 新潟明訓高等学校、新潟清心女子高等学校、新潟県立三条高等学校、新潟県立五泉高等学校、新潟県立新潟商業高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟県立新発田商業高等学校、新潟青陵高等学校、新潟県立高田高等学校

30チーム(9校)

申し込みチーム数 第6回新潟大会では、29チーム58名の高校生にご参加いただきました。優勝した「eSwatini(エスワティニ)」は、昨年2位入賞のチームで惜しくも優勝を逃していましたが、今年見事に雪辱を果たし、全国の切符を手にしたチームです。全国大会で更なる飛躍を期待しています。そのほかの参加者からも、「またチャレンジしたい!」、「事前教材が充実していて、金融経済をもっと学びたい!」など、意欲溢れる感想を多くいただきました。これからも、新潟の未来を担う高校生の皆さんが、金融経済について楽しく学べる大会の運営を目指してまいります。

優勝チーム 新潟県立新潟高等学校
「eSwatini」





新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 2年
大野 悠樹

第13回エコノミクス甲子園全国大会を終えて、真っ先に思ったのは先輩・後輩・顧問の先生方・応援してくれていた級友、そして何よりも第四銀行の皆さまへの感謝、そして謝罪の気持ちだ。

過去の大会の様子をほんの少し教えていただいたり、地方大会終了から2ヶ月間サポートしてくれたり、廊下ですれ違う度に「エコ甲大丈夫か？優勝しろよ！」と激励していただいたり、「全国大会？！頑張って！」と声をかけてくれたり、地方大会を主催・運営し全国大会への出場機会をつくっていただいたりと、感謝してもしきれないほどの感情を抱いている。本当にありがとうございます。

そんな多大な期待のなかで、今回のように残念な結果で終わってしまったことを心の底から謝罪したい。1日目のエコノミカ大会では、あと1勝するだけで入賞したにも関わらず負けてしまった。2日目のプレゼンは、桜丘・灘・東大寺と、名門と呼ばれる高校とともに挑んだが、我々の力不足もあって1回戦目では敗北してしまった。2回戦ではしっかりと勝つことができたので良かったと思う。しかし、このプレゼンは2勝しないと意味のない戦いで、本戦にも大きく響いてきた。また、夜の筆記に関しては、準備不足と言わざるを得なかった。自らのおごりを深く反省している。3日目では「新潟高校」としての良い点を発揮することができなかった。相手に怖じ気づいたこともあるだろうが、一番は自分の勉強不足にある。心のなかで二者択一となり外してしまう、という事象が多発したからだ。しっかりと事前教材、あるいは経済に関連した本を読んで知識を深めておくべきだった。このように第10回大会での優勝校としてはあまり胸を張ることができないような結果であった。本当に申し訳ありませんでした。

さて、通常ならば今回の反省を自校の仲間と共有し、来年のエコ甲に備えるだろう。しかし、我々新潟高校生はそんなことはしない。私は後輩たちに三日間の経験を還元するつもりがない。先輩を頼りすぎて、自身での学びを減らしてほしくないからだ。彼らには彼らなりの方法で頂点を目指してほしい。ただ、可能な限りのサポートはしたいと思う。もちろん、受験勉強に差し支えない程度にはあるが。

最後に相方への感謝を述べたい。共に戦ってくれてありがとう！これからのクイズ生活も頑張ろう！

新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 2年
山田 諒太郎

全国大会に出場して何より感じたのは、全国大会のレベルの高さであった。

1日目、エコノミカ大会があった。この大会ではエコノミカを楽しむだけでなく、全国大会に出場する他の方々と談笑することもでき、大会の雰囲気になれる事ができたのではないと思う。

2日目は講演を受けたあと、プレゼンラウンドがあった。プレゼンで同じグループになった桜丘、灘、東大寺の方々の画期的な案の数々にはとても驚かされた。グループのメンバー全員で授業内のゲームの再現性について考えるなど、プレゼンの作成中は充実した時間を過ごすことができた。プレゼンラウンドは勝つことはできなかったが、高いレベルの方々の中で協力してプレゼンを作ることができ貴重な体験となった。プレゼンが終わり、前夜祭があった後に抜き打ちで筆記クイズがあった。この日の夜に最後の追い込みをしようとしていたので、完全に意表をつかれた形となった。クイズも地方大会よりとても難しく、出来はあまりよくなかった。

3日目ははいよいよクイズラウンドが行われた。第1ラウンドの早押しの相手はクイズ同好会の人で、私達が予選下位だった事もあって一問で負けてしまった。早押しで押し負けないように練習していたので非常に悔しかった。第2ラウンドと敗者復活戦も勝つことができず、敗退となってしまった。全国大会のレベルの高さを痛感した。

大会中の3日間で 結果を残す事ができなかったが、多くの人と関わることができ貴重な経験となった。最後にはなりますが、大会の運営をして頂いたスタッフの皆様、当日サポートして頂いた金融機関の方々に感謝申し上げます。





北陸銀行

富山大会

12月9日(日)開催

主催 北陸銀行

参加校一覧 富山県立富山高等学校、富山県立富山中部高等学校、富山県立滑川高等学校、富山県立雄山高等学校、富山県立高岡商業高等学校、富山県立高岡高等学校、富山県立魚津高等学校、片山学園高等学校、富山高等専門学校射水キャンパス、高岡向陵高等学校、高岡龍谷高等学校

申し込みチーム数 33チーム (11校)

運営スタッフ感想 今回は32チーム、64名の方に参加いただきました。僅差の予選ラウンドから波乱万丈の決勝ラウンドを経て、最後は「チームサーキット」が予選1位通過の実力をかせて優勝となりました。

金融経済の知識に加えて複雑なルールで戦略も大きなポイントとなった今回でしたが、高校生からは「決勝はルールが面白く、大変楽しめた」「経済のことを楽しい学びきっかけになった」「もっと勉強して来年は決勝ラウンドに進出したい」等、前向きなコメントが多数寄せられ、スタッフ一同喜ばしく思いました。

来年もより良い大会にできるよう、スタッフ一同取り組んで参ります。

優勝チーム 富山県立富山中部高等学校
「チームサーキット」





富山大会代表 富山県立富山中部高等学校 1年
鷲本 謙

私は初めてこのエコノミクス甲子園に参加したので、全国大会は3日間あると聞いて、3日間も何をするのだろう、ととても興奮していました。1日目のエコノミカ大会には参加しませんでした。オリエンテーションで各県代表が集ったときは、興奮が緊張に変わりました。初日の夜はなかなか眠れませんでしたし、自分がこれまで勉強してきたことが通用するのか不安になりました。しかし、2日目のプレゼンで他県の代表たちと試行錯誤しながら交流できたことで、緊張もほぐれました。3日目は早押しラウンドで瞬殺されてしまい自信を失いかけてしまいましたが、幸運にも敗者復活ラウンドで勝ち残ることができて初めて、全国大会を楽しもう、という気持ちになりました。準決勝、決勝の問題はとても難しく、決勝は最下位で少し悔しかったです。それでも8位という成績を修められたことには、とても満足しています。来年は更に上の順位を目指して頑張ろうという自信にもなりました。

また、この3日間を通して、金融知力の必要性や実生活、ビジネスのどのような場面において金融知力が役立つのか、ということやユウグレナ社長出雲氏や原田環境大臣などのお話などから深く学ぶことができました。金融経済がますます好きになったし、来年も絶対参加しようと思いました。私たちをサポートして下さったスタッフの方々にはとても感謝しています。将来私もスタッフになってエコノミクス甲子園に恩返ししたいと思っています。

北富山県大会代表 富山県立富山中部高校 1年
野崎 亮佑

僕はエコノミクス甲子園を通して、金融知力はもちろん、貴重な経験を、いくつもさせていただきました。

1日目、我々富山県チームは少し遅れて到着したのですが、会場ではエコノミカ大会をやっていました。見知らぬ優秀そうな高校生たちを目の前にし、自分は本当にここでやっていけるのだろうか、といきなり不安と緊張を感じました。

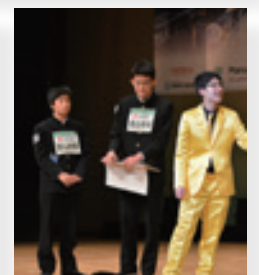
2日目は「環境と経済のつながり」という難しいテーマでプレゼンに臨んだのですが、2戦2敗となってしまい、

予選順位を大きく下げてしまいました。

そして、3日目。自信になる要素が全くなく、「どうなってしまうのか…」と思いながら迎えた早押しラウンドですが、相手の倉敷天城に一瞬で答えられてしまい、呆気にとられました。続く四択でも見せ場を全くつくれず、「これで終わりか」とがっかりしました。しかし、奇跡的に、敗者復活を果たせました！

準々決勝では派閥を組み、仲間と協力しながら裏切る時機を見計らう、という慣れない形式のクイズでしたが、最終問題で勝ち抜けることができ、運良く決勝に進めました。決勝は難問の連続で、手も足も出ませんでした。しかし、逆転に次ぐ逆転で全国8位までくることができたのは、非常に良い経験だったと感じます。エコ甲を通じて素晴らしい人々に出会い、面白い体験をすることができました。行く前に想像していたより、格段に楽しく、濃厚な3日間でした。

最後にはなりますが、大会を運営・支援していただいた金融知力普及協会や大学生スタッフの方々、金融機関の方々に、深く感謝申し上げます。





北國銀行

石川大会 ————— 12月16日(日)開催

主催 北國銀行

参加校一覧 金沢高等学校、石川県立金沢錦丘高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、石川県立金沢泉丘高等学校、石川県立金沢商業高等学校、日本航空高等学校石川

申し込みチーム数 32チーム (6校)

運営スタッフ感想 石川大会として過去最多の28チームが参加となりました。
決勝ラウンドでは、順位が目まぐるしく変わる中、1年生コンビの金沢大学附属高等学校「ユリウス」チームが抜け出し見事優勝！最後までどこが優勝するか分からない展開に会場も大いに盛り上がりました。
今年は女子生徒や1年生の参加も多く、例年以上に会場の雰囲気も良かったです。今後も地域の学生に向けた金融や経済の知識を得られる場を提供していきたいと思えます。

優勝チーム 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校「ユリウス」





石川大会代表
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 1年
岸 和 秀

私が、エコノミクス甲子園を通して印象に残っているのは2日目と3日目です。

2日目には基調講演とプレゼンテーション大会がありました。基調講演では、株式会社ユーグレナの代表取締役社長である出雲充様から、1番にこだわることや繰り返し努力することの大切さなどについてお話を伺うことができ、貴重な経験を得ることができました。プレゼンテーション大会では、経済活動と環境保護に関する授業案を作るというテーマで議論を行いました。出会ったばかりの他の県の代表と協力して意見をまとめることは難しく、チームにあまり貢献することができず、自分の実力不足を痛感させられました。これから社会に出ていく中で、他の人と共に何かを創り上げていく機会はたくさんあるので、今回の反省を糧にプレゼンスキルやコミュニケーション能力を高めていきたいです。

3日目には全国大会がありました。どのラウンドも出題形式が違い、他のチームと協力する場面もあれば戦う場面もあり楽しみながら取り組むことができました。特に、準決勝では最後の問題までどのチームが決勝に進めるかわからずハラハラしました。自分たちのチームは、運もあり決勝まで進むことができました。決勝では、他のチームとの知識の差が歴然としてあり7位という結果に終わってしまいました。来年は、より一層知識をつけて再挑戦し、全国優勝を目指したいと思っています。

今回の大会を通して様々なことを学び成長することができました。大会を運営して下さったスタッフの皆様、サポートして下さった皆様、ありがとうございました。

石川大会代表
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 1年
小田 祐輝

1日目・2日目は、初対面の人たちとさまざまな活動を通して親交を深めた。1日目のエコノミカ大会では、「どこからきたか」「出場は何回目か」など簡単な会話をしながらゲームを行った。時間を忘れて楽しむことができた。また、

抽選で Amazon ギフト券 1000 円を貰えたので有効に使いたい。

2日目はプレゼンをメインに行った。8人のような大人数でプレゼンをするのは初めてで、いい経験になった。また、経済だけでなく、環境や教育にも関係する内容になっていて、これから求められていく内容だろうと感じた。そして、他のいくつかのグループの発表を聞くことができ面白かった。前夜祭では金融機関の方々とビンゴ大会を行い、楽しむことができたうえ、お土産も貰えてよかった。

3日目は、クイズラウンドを行った。1回戦・3回戦・準決勝を、運が良かったこともあって勝ち残り、決勝に出場することができ、最終的には7位という結果に終わった。決勝の問題は今の自分にとって難しいものばかりで実力のなさを痛感した。だが、1年生で決勝まで経験できるとは思っていなかったので、嬉しくもあった。そしてなにより大会を楽しむことができた。今大会での経験と悔しさを次の大会にぶつけたい。

最後に、こんな貴重な経験ができたのは関係者の皆様のおかげなので、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。





北陸銀行

福井大会

12月16日(日)開催

主催 北陸銀行

参加校一覧 福井県立高志高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立若狭高等学校、福井県立羽水高等学校、福井県立武生高等学校、福井県立武生東高等学校、福井県立武生商業高等学校、福井県立坂井高等学校、福井工業高等専門学校、北陸高等学校、仁愛女子高等学校

申し込みチーム数 40チーム (11校)

運営スタッフ感想 今回は38チーム、76名の方に参加いただきました。僅差の予選ラウンドから波乱万丈の決勝ラウンドを経て、最終的には予選・決勝ともに最も正答数が多かった「ジンテーゼ」が昨年に引き続き連覇を果たしました。金融経済の知識に加えて複雑なルールで戦略も大きなポイントとなった今回でしたが、高校生からは「エコ甲を通じて経済や投資にも興味がわいた」「ニュース・新聞を見ることの大切さもわかった」「楽しんで学べるこのイベントは素晴らしいと思った、また参加したい」等、前向きなコメントが多数寄せられ、スタッフ一同喜ばしく思いました。来年もより良い大会にできるよう、スタッフ一同取り組んでまいります。

優勝チーム 福井県立藤島高等学校
「ジンテーゼ」





福井大会代表 福井県立藤島高等学校 2年
鷺田 樹音

2018年2月18日。第12回エコノミクス甲子園全国大会。準決勝を8位で敗退し、決勝戦を見終えた僕には「優勝」という2文字がどこか壮大で偉大なことに感じられた。

2019年2月17日。第13回エコノミクス甲子園全国大会。「優勝」の2文字を手にした僕はその2文字に対し、何の畏敬も覚えることはなく、むしろその軽さを知った。

この間の1年間は僕の人生の中で最も濃密であったと断言できる。でなければ、優勝が軽いなどとはとても思わなかっただろう。

僕にはある友人がいる。彼はすごい。僕が出会ってきた同じ年代の人間の中で、本当に才能があると思える人間だ。数々の賞を得ていて、認められている。彼は僕の中でとても遠い存在だ。だから僕はエコノミクス甲子園全国大会優勝の肩書きがあれば彼に並べるのではないかとそんなことを無意識に思いつつこの1年を過ごしたのだろう。けれど優勝という結果を得たとき、初めて気づいたのだ。優勝する前の自分と、優勝した後の自分は本質的には何も変わっていない。僕は優勝した瞬間に何も変わったわけではない。

僕は今までその友人のことを「賞」といった目に見えるものを通して尊敬していた。しかし彼も同様に賞を取った瞬間にすごくなった訳ではない。彼は賞を取っても取らなくても同様にすごいのだ。

僕はエコ甲で優勝した。もしこれが偶然であったなら無価値だっただろう。しかし、僕はこれが偶然の所産でないとと言える。僕は日本の高校生で最も経済や金融に秀でていると自負できるだけの勉強をした。そしてエコ甲を通して人間的にも多くのことを学んだ。だからもし仮に優勝していなかったとしても、その事実は変わらないし、優勝しても何も変わっていないのだ。「優勝」の2文字は軽い。心からそう思う。

これから僕は高校3年生になり、受験に挑む。しかしこれもまた「合格」の2文字は軽いだろう。僕は「優勝」や「合格」の2文字だけで、何かが変わった、いきなりその人が凄くなったようなかのように振舞ってみせる社会が嫌いだ。だから僕はその友人のように、「優勝」の2文字が無かったとしてもすごいと思ってもらえるような人間になりたい。

福井大会代表 福井県立藤島高等学校 2年
坪田 実那美

生まれて初めて持った優勝のトロフィーはとても重たくて、手から滑り落ちてしまいそうでした。それと同時に、今まで喉から手が出るほど欲しかった優勝は、案外ちっぴけで軽く、すぐ溶けて無くなりそうな心許ないものだと悟ってもしました。そして、この一年と少しで、優勝という事実よりも何かとても大きなものを得たのだという実感がひしひしと湧いてきました。

ここまで来られたのは紛れもなく相方のおかげです。ちょうど一年前、準決勝を8位で敗れ、リベンジを誓い合ったのを思い出します。それからこの一年、数え切れないほど意見が食い違ったり、口論したりもしました。しかし、時間の許す限り図書館にこもって金融や経済の本を貪るように読んだり、お互いのわからないところを持ち合っただけながらも解決したりと、勉強する過程において共に何か同じものに向かっているという実感はお互い感じていたように思います。けれどもそれと同時に、自分の未熟さを知りました。この一年と少し、彼から非常に多くのことを学びました。彼は自分に無いものをたくさん持っていました。有言実行の力、あらゆる分野に寛容になりながら知識を深めていこうとする貪欲さ、物事の本質を掴み自分に落とし込もうとする力、そして一度掲げた目標に対して責任と覚悟を持つこと。本当の勉強とは何か、そして何かを成し遂げようとするとはどういうことかを学びました。彼はある意味、自分にとっての「メンター」だったのかもしれません。

日本一経済の知識を持った高校生を目指して勉強してきたとはいえ、まだまだ知識量においては自分ないし自分たちより秀でている高校生はたくさんいるはずですが、エコ甲に優勝するとは、当然日本一クイズが出来るわけでもないし、日本一経済に関しての知識を持っているというわけでもありません。圧倒的な努力量由来の自信と運、最後まで信念を曲げない粘り強さ、多少の理不尽さも受け入れる覚悟、そして、もう二度と無いかもしれない全国の高校生との出会いを大切にしたい。知力という言葉では済ませられない、努力由来のあらゆる要素が折り重なりはじめて、エコ甲は自分たちを認めてくれて、優勝という称号を与えてくれるのだと実感しました。優勝を目的として勉強してきたものの、優勝というのは自分の未熟さを成長させてくれる機会に過ぎませんでした。むしろエコ甲優勝を経験してからが茨の道だったのです。

最後に、運営をしてくださった協会や金融機関の皆様、そして三日間苦楽を共にした高校生の皆さん、最高の思い出をありがとうございました。





ふれあい、さわやか

山梨中央銀行

山梨大会

12月16日(日)開催

主催 山梨中央銀行

参加校一覧 駿台甲府高等学校、山梨県立都留高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨県立山梨高等学校、山梨県立塩山高等学校、山梨学院高等学校

申し込みチーム数 18チーム (6校)

運営スタッフ感想 山梨大会は今回で8回目の開催となり、6校18チームに参加いただきました。

実力が伯仲するなか、白熱した戦いが繰り広げられ、大接戦の末、予選第5位で決勝ラウンドに進出した甲府南高校の1年生チーム「竜 AVERAGE」が優勝し、全国大会出場の切符を手に入れました。

今大会は、1年生の参加者も多く、大変盛り上がりました。また、参加者からは「金融経済を学ぶ良い機会になった」「新たな知識が身に付いて良かった」「来年も参加したい」などの感想をいただきました。

ご参加いただきました高校生の皆さま、開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、ありがとうございます。今後も、高校生の皆さまが金融経済について興味を持っていただくきっかけ作りの場として、山梨大会を開催していきたいと思えます。

優勝チーム 山梨県立甲府南高等学校
「竜 AVERAGE」





山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 1年
大野 息吹

正直私の結果は予想通りだった。そもそも勝てるわけがない、経済の勉強をたった4か月前に始めた新参者があんなに頭がよくていっぱい経済の勉強をしている人たちに。だから悔しいとは思いますが仕方のないことだし、自分の力不足が悪いのだと思う。

では、時系列に沿って話をしよう。

まず1日目。エコノミカは全くやってこなかったのが悪いのか1勝しかできなかった。私の相手も同じなのに4勝もしていた。これは来年への課題だ。

2日目。ユーグレナの話はいつも学校で聞いている話よりもこれからの生活に役立ちそうだ。5時間でプレゼンテーションを作るというのはかなりきつい。でも他校の人たちと議論して1つのものを作り上げる経験はたぶんこれからもそうあることではないだろう。夜のペーパーテストは散々としか言えない。

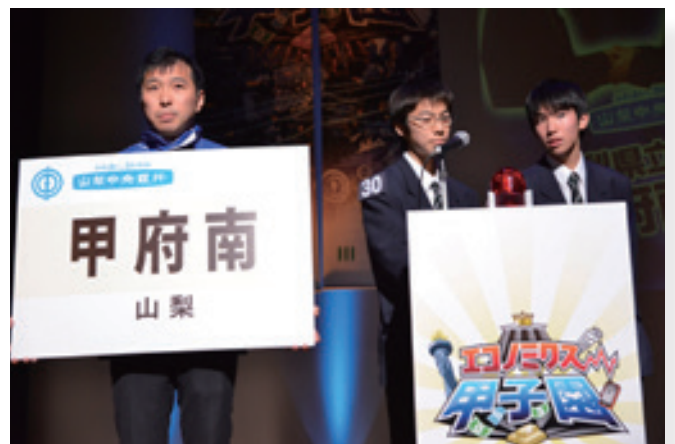
3日目。1Rでいきなり早押しに負ける。相手が強い。2Rでは私の相方に昨日教えたことがたまたま出て首の皮一枚、ぎりぎり残った。SFでまさかの不正解を出してしまい同じ派閥のほかのチームの人たちに一步遅れを取ることになり、最後までそれが影響して決勝に進めなかった。

今回はまた1年後。1年あれば決勝に行くような人たちと同じくらい勉強ができるだろう。来年こそは山梨に初優勝を持ち帰ることを目標に、またこの舞台に戻ってくる。最後に、この大会を開催して下さったスタッフの皆さん、地方大会を主催して下さった銀行の方々ありがとうございました。

山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 1年
徳良 潤哉

自分の無力さを実感するといった経験はあるでしょうか。先日私は自分が金融や経済についていかに無知であるかを思い知らされました。金融や経済についての知識は私たちが自立して生活していくには必要不可欠なものです。同時にそれを高校生のときから養っていくことも重要だと思います。その辺りは金融知力普及協会のおっしゃることと同じだと思います。この度のエコノミクス甲子園全国大会

を通して私はそれを痛感させられました。大会を通して得たものはそれだけではありませんでした。他県の方々との交流を深め、お互いの意見を交換して、互いの思考をより深化させられたことが最も大きな収穫だったと思います。その話題は金融、経済の範囲に留まらず、現代社会における様々な出来事についても意見を交わしました。金融知力普及協会の皆様が低コストで貴重な体験が出来る機会を与えてくださったお陰で、私は大きな収穫を得ることが出来ました。本当にありがとうございました。また来年会いたいと思います。





八十二銀行

長野大会

12月2日(日)開催

主催 八十二銀行

参加校一覧 長野県諏訪清陵高等学校、長野県松本深志高等学校、長野県屋代高等学校、長野清泉女学院高等学校、松本秀峰中等教育学校、佐久長聖高等学校

申し込みチーム数 19チーム (6校)

運営スタッフ感想 長野大会は今年で6回目を迎え、6校19チームの高校生が出場しました。

第一ラウンドから真剣に取り組む姿が見受けられ、この大会にける熱い思いを感じました。決勝ラウンドでは、順位が入れ替わる場面もあり、大変盛り上がる展開となりました。

最終的にチーム「まさし」が優勝し、松本深志高等学校は4連覇を成し遂げました。

今大会は昨年に続いて参加した高校生や、先輩から大会を教えてもらい参加した高校生が多く、エコノミクス甲子園の知名度、魅力が代々受け継がれていることを実感いたしました。

また、「来年も必ず参加します」、「金融経済について勉強を続けます」という声をいただき、スタッフも大変嬉しく感じます。

エコノミクス甲子園を通して、長野県の未来を担う高校生の皆さんを今後を支援して参りたいと思います。

参加していただいた高校生の皆さま、ご協力いただいた皆さまに感謝いたします。

優勝チーム 長野県松本深志高等学校
「まさし」





長野大会代表 長野県松本深志高等学校 2年
富田 玲史

このエコノミクス甲子園では3日間を通して素晴らしい経験をする事ができましたが、その中でも特に印象に残っているのは2日目のプレゼンテーションです。プレゼンを行うことは全くの初めてだったので、初対面の人達とコミュニケーションを取りながら、難しいテーマについてわずか数時間でプレゼンを作成するのはとても大変でした。しかし他県の優秀な高校生とレベルの高い話し合いをし、時にはぶつかりながら、同じ方向に向かっていくことはとても楽しく、刺激的で、今まで感じたことのない充実感をられました。プレゼンはこれからの人生でも生かせる貴重な体験でした。

また、3日間を通して金融知力について多くを学ぶとともに、自分の知識の浅さも実感しました。地方大会と全国大会のレベルの違いを痛感したことで、もっと普段から経済に触れ、金融について学びたいと思いました。この全国大会で自分は一回りも二回りも成長できました。先に述べたプレゼン力や金融知力だけでなく、ともに高め合える仲間や相手を追い抜こうとする意識など、得られたことは数え切れません。

最後となりましたが、金融知力普及協会の皆様、大会を援助して下さった皆様、大学生スタッフの皆様、そして八十二銀行の皆様、このような素晴らしい大会を催していただき本当に感謝しています。ありがとうございました。

長野大会代表 長野県松本深志高等学校 2年
守田 昌史

今回第13回エコノミクス甲子園全国大会に出場し、普段なかなかすることのできないような素晴らしい経験をさせていただきました。

2日目のプレゼン大会では、グループの人と与えられたテーマに対してプレゼンを作り上げる中で、初対面の人々と積極的に意見をぶつけ合ってそれを一つにまとめ上げることの難しさを感じました。このような経験はなかなか高校生のうちからすることができないものであり、また将来の仕事にも直接つながるものでもあるので、本当にいい経験ができたなあと思いました。

さて、肝心の3日目では自分のチームは早いうちに敗退してしまい、残りは席から壇上を眺めることになりました。準決勝や決勝の様子を見ていて自分の知識不足を痛感し、準決勝、決勝に勝ち進んだチームのレベルの高さに圧倒されました。

大会の結果自体は自分たちの思っていた通りにはいかず、悔しい結果になってしまいましたが、プレゼンや全国の高校生たちとの交流など本当に貴重な経験をさせていただき、とても楽しく充実した3日間を過ごすことができました。この大会をきっかけに得られた金融知力をこれからの生活にもぜひ活かしていきたいと思います。今回このような素晴らしい大会を開催して下さった方々にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。





岐阜県 岐阜地区予選

11月4日(日)開催

主催  **十六銀行**

参加校一覧 鶯谷高等学校、岐阜県立恵那高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立可児高等学校、多治見西高等学校

申し込みチーム数 12チーム(5校)

運営スタッフ感想 今回のエコノミクス甲子園岐阜地区予選は、5校12チーム24名にご参加いただき、大いに盛り上がりました。
近似値問題の結果を使用するほどの僅差で1位通過を決めたのは「ごじゅういちぱー」チームでした。
参加した高校生たちからは、「第2ラウンドの早押し問題では、もっと多くの問題に挑戦したかった」、「学校ではなかなかしっかりと学ぶ機会の少ない経済について、勉強する機会を与えてくれる素晴らしい大会だと思います。来年も挑戦したいです」等の言葉をいただき、大変嬉しく思っております。
今後も高校生の皆さんに楽しく金融知力への興味を持っていただけるよう、取り組んでまいります。

優勝チーム
岐阜県立岐阜高等学校
「ごじゅういちぱー」



岐阜県 飛騨地区予選

11月18日(日)開催

主催  **十六銀行**

参加校一覧 高山西高等学校、岐阜県立飛騨高山高等学校、岐阜県立斐太高等学校

申し込みチーム数 13チーム(3校)

運営スタッフ感想 今回のエコノミクス甲子園飛騨地区予選は、前年実績を上回る3校13チーム26名にご参加いただきました。
予選ラウンド、本選出場決定ラウンド共に白熱した戦いが繰り広げられ、1位通過のチームは「スタージョン」となりました。
前半のラウンドで学んだ知識を、後半のラウンドで即活用する姿や、「楽しかった」「もっと勉強する必要がある」「後輩にも勧めたい」等たくさんコメントをいただき、大変嬉しく思っております。
ベストパフォーマンス賞やファーストエントリー賞など、今年度から新しく取り入れた特別賞を受賞したチームは、他校のチームと景品を交換するなど、積極的に交流を図っている場も見られました。
今後も更なる金融知力の向上のため、楽しい大会の運営に努めて参ります。

優勝チーム
高山西高等学校
「スタージョン」







——いつも身近に——



岐阜大会

12月15日(土)開催

主催 十六銀行

参加校一覧 鶯谷高等学校、高山西高等学校、岐阜県立斐太高等学校、岐阜県立飛騨高山高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立可児高等学校、多治見西高等学校

申し込みチーム数 18チーム (7校)

運営スタッフ感想 岐阜県内2ヶ所で開催された地区予選大会には、総勢8校25チームにご参加いただき、白熱した戦いが繰り広げられ、見事勝ち抜いた17チームで岐阜県本選を開催しました。

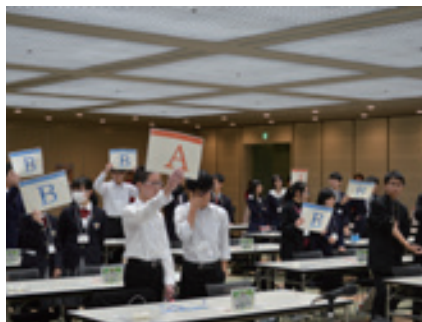
地区代表チームを応援しようと、遠方より先生方、ご家族の皆さまが会場に駆けつけくださり、会場は大いに盛り上がりました。

混戦状態だった決勝ラウンドを、見事勝ち抜き全国大会への切符を手にしたのは、昨年優勝チームの岐阜高校2年生「withTY」。

参加者からは、この大会をきっかけに金融経済に興味を持ち、今後も理解を深めていきたいとの声が多くあり、スタッフも大変嬉しく感じております。

最後になりましたが、岐阜大会開催にあたりご支援賜りました金融知力普及協会の皆さま、ご後援を賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。

優勝チーム 岐阜県立岐阜高等学校
[withTY]





岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 2年
今村 真輝

わたしは今、エコノミクス甲子園から帰る新幹線の中です。思い返すと、ものすごく長い2日半でした。去年の同じ時期、エコノミクス甲子園全国大会の表彰式で、「来年は絶対に今年よりも良い結果を残そう」と、相方と決意して勉強を続けてきました。また、ただ勉強するといっても勉強の仕方や内容を改善するとともに、プレゼンテーションに活かせるよう、常日頃から社会問題について自分の意見を持ち、その改善点を考えるようになりました。さらに去年のプレゼン大会では1年生ということもあり、なかなか自分の意見を言えず無力を感じた去年の悔しさがあるからこそ今回のプレゼン大会には特別な思いをもって取り組みました。

去年の経験を同じチームに伝え、そこから中心となって案を考え、発表の役まで進んで立候補しました。どのような工夫をすれば評価に繋がるか。どのように話せば聞く人の心を掴めるか。そういった細かい所まで考えた結果、2年連続プレゼン優勝を掴むことができて本当に嬉しかったです。

本戦では予選1位通過のアドバンテージがありながら実力不足で脱落してしまいましたが、2年連続出場仲間（岐阜高校、大阪星光学院、藤島高校）でプレゼン、筆記、総合の優勝ができたことに感動しました。特に藤島高校は並大抵でない努力をしてきたことがものすごく伝わってきました。同級生でここまで尊敬できる人は初めてです。

最後に、今年も適度な難易度でありながら非常に奥の深い素晴らしいラウンド作りや進行をくださったスタッフの皆様、そしてスポンサーの皆様、本当にありがとうございました。そしてエコノミクス甲子園を通して出会えた全国のみんな、たくさんの刺激をありがとう。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 2年
磯部 元政

私がエコノミクス甲子園で感じたことは大きく2つある。

1つ目は、あることで頂点をとるには、コミュニケーション能力、知識、勇気、忍耐力、体力、判断力、そして時の運が必要であるということだ。そして、エコノミクス甲子

園はこういった要素を総動員しなければ、頂点はとれない。私たちのチームは、いくつか足りていなかった。それはそれで悔しくて、反省点である。しかし、逆にこれからの生活で成功していくには、こうした要素を鍛えて、この悔しさを活かしていかなければならないと思う。

2つ目は、結果はどうであれ、この3日間は私の中で絶対にプラスになったということだ。中でも、プレゼンが最も心に残った。とにかく具体的に、独創的にすることを心掛けて、チームメンバーと協力して挑んだプレゼン。プレゼンで優勝できたのは自分にとって大きな自信となった。しかし、この成果は決して私だけで得られたわけではない。島根代表、埼玉代表、群馬代表、そして決勝プレゼンしてくれた今村君、本当にありがとう。最高の思い出になりました。

世の中にはすごい人がたくさんいる。そう思い知らされた3日間であった。優勝した藤島高校、こんなに面白い大会にしてくださったスタッフ、基調講演の出雲充様などなど…私も彼らのようなすごい人になりたい、という思いを強く持ち、前述の感じたことを胸に受け止め、これからの人生を歩んでいきたい。最後にこの大会に携わった全ての方に感謝したいです。本当にありがとうございました。





静岡銀行

静岡大会

12月16日(日)開催

主催 静岡銀行

参加校一覧 静岡雙葉高等学校、静岡県立葦山高等学校、静岡県立藤枝北高等学校、静岡県立沼津商業高等学校、静岡県立御殿場南高等学校、静岡県立島田商業高等学校、静岡北高等学校、静岡サレジオ高等学校、知徳高等学校、富士市立高等学校、加藤学園暁秀高等学校

申し込みチーム数 24チーム (11校)

運営スタッフ感想 8回目を迎えた静岡大会。今回は、初参加高校2校を迎えて、県内各地から22チーム44名の高校生がエントリーし、参加者同士はもちろん、スタッフとの活発な交流のもと楽しい大会となった。

決勝ラウンドは、複雑なルールのもと、問題ごとに首位が入り替わるなど白熱した戦いとなったものの、昨年に引き続き2回目の参加となった御殿場南高校の「九成宮醴泉名」チームが見事な戦いぶりで優勝に輝いた。全国大会では、静岡県からの代表校として、過去最高の順位となるよう2人の活躍を期待している。

優勝チーム 静岡県立御殿場南高等学校
「九成宮醴泉名」





静岡大会代表 静岡県立御殿場南高等学校 2年
稲 拓 真

1年前同じペアで挑戦した地方予選は見るも無残な結果を生み、酷く恥ずかしく悔しい思いをしました。その経験もあり今年は必ず全国に行くのだと、万全とは行かないまでも充実した対策が出来たと思います。

しかし、僕程度の努力が通用するのは地方予選が限界だったのか（地方予選ですらかなり運に恵まれていたと思いますが…）全国大会では、2日目のプレゼンラウンドからグループの皆に力添えが出来なかったことをかなり歯痒く感じました。そしてその後の筆記クイズや3日目の内容も…ちょっと落ち込んでしまう結果でした。と、かなりネガティブな事を思い出してしまいました。大会全体を通してみると本当に楽しくて他の代表の方々と沢山交流ができ、とても貴重な体験だったと思っています。ですが、それと同時に折角の舞台で何もできず自分の力不足を痛感し、もっと勉強していれば良かったと悔しい気持ちになるものもありました。他の代表者達のレベルの高さは事前に推して知るべしだったので、そのような大会に少しでも見合う実力をつける努力を怠るべきではなかったのかも知れないと思った訳です。

エコノミクス甲子園と関わらせて頂いたこの経験は自分の中で重大なものであり、きっとずっと忘れない思い出です。半ば無理矢理付き合わせてしまった相方、関わってくれた全国の高校生達、このような場を与えて下さったスタッフの皆様本当にありがとうございました。

静岡大会代表 静岡県立御殿場南高等学校 2年
鈴木 陽一

エコノミクス甲子園を終えて僕はとても疲れてしまいました。1年前に同級生の稲拓真君にクイズの大会にパートナーとして参加することを勧められた時と同じく、今年も参加だけとあまり勉強はせずに地方大会に望みました。稲君の早押し速さと知識力の高さに頼り見事に地方大会で優勝することができました。

全国大会も全く対策をしないで参加することになりました。2日目のプレゼンテーションは、僕にとって忘れてたくても忘れることのできないものでした。プレゼンテーショ

ン作成時、チームメイト達の発想力についていくことができず、僕自身の主張や提案は全くありませんでした。無力な僕は責任を感じて発表役に立候補しました。しかし、プレゼンテーションの本番で灘高校の生徒による進行のレベルの高さに圧倒され萎縮してしまいました。そして僕は緊張のあまりミスを多発してしまいチームメイトには迷惑をかけてしまいました。3日目のクイズでは、壇上に立っているだけで何もできずに終わってしまいました。

僕はエコノミクス甲子園を通して参加者との雲泥の差を実感しました。無知過ぎて恥ずかしいことばかりでしたが、学んだことは沢山ありました。また、2日目のユウグレナ社長 出雲充さんの講演では僕のマグロの養殖の夢も可能性を感じることができました。

最後に何の活躍もありませんでしたが、結果的にエコノミクス甲子園全国大会に参加することができて良かったです。こんな不甲斐ない僕をパートナーに選んでくれた稲君、また貴重な体験をさせて下さったスタッフの皆様に感謝します。





愛知大会

12月9日(日)開催

主催 愛知銀行

参加校一覧 海陽中等教育学校、愛知県立瑞陵高等学校、愛知県立江南高等学校、愛知県立旭丘高等学校、愛知県立日進西高等学校、愛知県立一宮西高等学校、愛知啓成高等学校、名古屋高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、南山高等学校

申し込みチーム数 19チーム (10校)

運営スタッフ感想 今回のエコノミクス甲子園愛知大会には、9校18チームが参加し、大いに盛り上がった大会となりました。参加した高校生たちは、本大会を通じて、戦友と金融知力を競い合うとともに多くの思い出がつくれたことと思います。来年はより多くの学校に参加していただき、エコノミクス甲子園の良さを幅広く知っていただくとともに、地元金融機関として高校生の金融リテラシー向上に貢献していきたいと思ひます。

優勝チーム 愛知県立旭丘高等学校
「アラビアンズ」





愛知大会代表 愛知県立旭丘高等学校 2年
岡田 弦大

「こんな世界があったのか」それが僕のエコノミクス甲子園に参加した感想です。

経済は小学生の頃から（金融とは少し分野が違うが）興味をもって学んできて、高校でクイズ研究部に所属している（最近あまり顔を出していないが）僕は、経済もクイズもそれなりに知り尽くしているつもりでした。定期試験と重なったこともあって、エコノミクス甲子園に向けた準備はあまりできていませんでしたが、意外と地の知識で勝てるかもしれないと期待したりもしていました。

しかし、3日目の本戦に挑んで、その期待は打ち砕かれました。出場者の、金融経済に関する知識（この大会でよく使われる言葉を借りれば「金融知力」）の量が段違いなのです。ろくに勉強もしていない不良参加者とは違い、この大会に向けて「金融知力」をひたすらに高めてきた人達がそこにいました。

また、2日目のプレゼンラウンドでは、多くのチームの大変素晴らしい発表に感嘆しました。まず発表の技術が大変高く、また内容も手を打って感嘆したくなるような独創的なアイデアが数多くありました。

エコノミクス甲子園は、その大会内容が素晴らしいのはもちろんですが、参加者の質が大変高いという点においても素晴らしい大会です。そうしたレベルの高い参加者達の存在を知り、またその一部と交流できたことが僕の本大会最大の収穫です。残念ながら僕自身はもう出場できませんが、ぜひ後輩にエコノミクス甲子園の良いところを伝え、また自分自身も経済やクイズについて精進して行きたいです。

愛知大会代表 愛知県立旭丘高等学校 2年
糸山 剛博

昨年は地方大会で準優勝という結果で、今年こそはという意気込みで臨んだ。とは言うもののエコノミカに関しては行きの新幹線で相方にルールを教えてもらうという怠惰ぶり。結果は2勝2敗。本戦への影響がなくて良かった。

プレゼンラウンドでは時間ギリギリに作り終わり、リハーサルなしの本番。皆が上手く立ち回ってくれた。そのまま

の勢いで決勝戦へ。総じて相方に頼っていた僕だが、最も活躍(?)したのがここでのプレゼンだったと思う。実は1週間前にアメリカでプレゼンをしてきたばかりで、その時の経験を生かして堂々と話すことを心がけた。最終的には2位で、気持ちよく終わることが出来た。

前日の頑張りにより予選順位は3位。優勝を狙いに行く構想が膨らむ。1Rの早押しは、クイズ界ではよく名前が知られている相手で不安だったが予選順位に助けられ勝利。3Rに進出した。3Rはインサイダー取引クイズという金融知力を語るうえで欠かせない（かもしれない）ルールに戸惑った。周りで2グループの談合が見られて面白かった。最初に藤島高校にヒントの交換を断られたときは焦った。しかし後から考えればこの時点で、彼らの実力は証明されていたのかもしれない。準決勝の派閥クイズでは、リーダーである我々の知識が足りないが故に同じ派閥のメンバーに迷惑をかけてしまった。抜けられたのは幸運としか言いようがない。決勝は純粋に金融知力が劣っていることを痛感した。一生 sustainable の綴りを間違えることはないだろう。

地域、年齢、経験が変われば考え方も変わる。だからこそコミュニケーションは価値があるものであり、この大会は有意義なものであった。その他にも様々な楽しめる要素を含ませながらも一番努力した者が勝つという大会構成は素晴らしく、是非運営側にも回ってみたいと思った。そんな大会を主催してくださった皆様、ありがとうございました。





百五銀行

FRONTIER BANKING

三重大会

12月9日(日)開催

主催 百五銀行

参加校一覧 セントヨゼフ女子学園高等学校、三重県立伊勢高等学校、
三重県立四日市商業高等学校、三重県立四日市高等学校、
三重県立川越高等学校、三重県立宇治山田商業高等学校、
三重県立松阪高等学校、三重県立津高等学校、暁高等学校、
桜丘高等学校、高田高等学校

申し込みチーム数 30チーム (11校)

運営スタッフ感想 三重大会も8回目となりました。本年も初出場に参加いただくなど、エコノミクス甲子園の認知度が、高まりつつあることを実感しました。大会当日は、筆記クイズから高校生のみさんの真剣な表情が見受けられ、早押しクイズ、決勝クイズと進むにつれ、高まりゆく会場の熱気を感じました。引き続き、三重県教育委員会さまをはじめ、学校関係者の皆さまに、多大なるご協力をいただき、大変感謝しております。観覧席でも親御さまや学校関係者から声援があるなど、これまでも増して大変活気のある大会となりました。また、年々参加される高校生の皆さんの金融知力の向上が見られることに驚かされます。今後も更なる金融知力の向上のため、楽しい大会の運営に努めて参ります。

優勝チーム 桜丘高等学校
La☆Salle





三重大会代表 桜丘高等学校 2年 東 問

参加者に訊きたい。なぜ君達はエコノミクス甲子園に参加したのか、と。

僕が入部したら・サール中高生クイズ研究部(以下LSQC)は、第1回エコノミクス甲子園(以下エコ甲)を優勝し、毎年エコ甲の季節になると部活の時間を削ってまでその対策をする程に重要視されている。事実、LSQCで公欠が認められるイベントは高校生クイズとエコ甲だけだ。クイズを始めた段階からそんな環境にいと、「なぜエコ甲に出たんですか?」と訊かれても、「先輩も出てたし、そういうものだと思っていた。」としか答えられない。

昨年は宿題をしなかった為に参加出来なかったエコ甲、今年は転校して三重県大会に臨んだ。初めてのエコ甲地区予選は前日の5時間程の対策で特攻。普段クイズしかしていない理系選択者の身からすると、会場にいる高校生は、きっとこの大会の為に1~2年間政治経済の授業を受講してきたその手のプロに見える。

果たして、三重県予選は普通に勝ててしまった。めちゃくちゃ頭が良い先輩達があれだけ対策しても他校に代表権を取られていたことを考えると、三重県は緩かったのかもしれない。

全国大会の開催期間中に競技クイズの大会の地区予選があり、一時はエコ甲全国辞退を考えたが思い留まる。やっぱり行こう。

そして全国大会。対策といえば、全国用に配られた青本は未読。家や寮で多少エコノミカを遊んだ程度だ。

金曜日のエコノミカ大会。2人して全勝を決めワンツーフィニッシュ。「意外と地頭でなんとかなるな」とか、「意外とみんな対策してないんだな」と。しかし後で気付く。皆、こんなこと対策に時間を費やしていないのだということ。

宿は札幌南高校と一緒に。半分知り合いみたいなもので、2晩楽しく過ごせた。

土曜日のプレゼンラウンド。前夜に「男子校、願わくば灘や東大寺と組みたい」などとほざいていたなら、まさかのその通りに。偏差値42の学校では出来なさそうなハイレベルでの話し合いの末、超絶面白いゲームを盛り込んだ授業案を作成したものの、初戦では似たような内容のプレゼ

ンに敗北。5分間の説明ではその真意が伝わらなかったようだ。

その後のペーパークイズ。勉強不足を実感し翌日への不安を抱くものの、予選順位を見た限りでは同チーム内では一番良く出来ていたようだ。

日曜日、いよいよ本戦。

1回戦の早押しはクイ研特有のイギリスラッシュを決めるも、薄氷を履む勝利。昨年までに比べプレゼン(予選)の比重が下がっていて良かった。ここで敗退チームが進む2回戦からも準決勝へ直接進めると聞き、疑問を抱く。クイズ大会として見ると理不尽なルールだ。

2回戦、推しの灘高校が勝ち上がり嬉しい。やはり、知識がモノを言う形式だ。

昼休み、3回戦に向けて様々な画策をする。こういう時間が一番楽しい、周りのレベルの高さを感じる。

3回戦、東大寺学園と共倒れになってしまった。勉強量があれば勝てたのかということ……。連合を組んだ宇都宮高校が勝ち上がってくれて嬉しい。やはり予選順位が大きく影響する。

準決勝、これまたルールが面白い。『LIAR GAME』ファンが作っているのでは?応援云々以前に、純粋に観戦を楽しんでいたが、9問目でこれまた推しの灘高校が一発かましてくれて拍手喝采大歓声。いいぞー!

決勝、藤島高校が強すぎる。例え僕らが決勝に進んで神プレイングを発揮したとしても、準優勝が関の山だろう、そう感じさせる横綱相撲だった。

大会終了後、避難訓練ばりの猛ダッシュ。しかし、僕ら東海勢はそこまで急ぐ必要はなかったようだ。帰りの新幹線で関西勢と歓談、春に同窓会?を開く話に。

その後日常に戻りTwitterを眺めていると、優勝した藤島高校のわっしーが「エコ甲に向けてこれだけ勉強した」と大量の書籍の写真をツイートしているのを見つける。そこには、僕がこれまでにクイズで読んだ文章量の相当倍はありそうな分厚い本が沢山。果たして、何が彼らをそこまでさせるのか。先輩から頂いた2000問ほどのエコ甲対策問題を読み込んでいた灘高校然り、エコ甲にヤバイほどの情熱を注ぐ奴らがいることに気付いた。

軽い気持ちで参加したエコ甲、例え受験が無くとも、来年の地区予選前に「自分に日本一を目指す資格があるのか?」と思い留まることになるかもしれない。

第14回大会、頂点を目指す者は、自覚を持って。

三重大会代表 桜丘高等学校 2年 東 言

エコノミクス甲子園全国大会参加にあたって提出が義務付けられていた感想文を書かせていただきます。

1日目、集合時間よりかなり早く代々木オリンピックセンターの最寄駅である参宮橋駅に着きました。そこに待ち構えるはボランティアのスタッフの方々。昼食さえ摂っていない我々に「夜ご飯は済ませましたか?」と。皆さん、ご飯はたくさん買っていきましょう。1日目の夜ご飯は持っていない限り一切食べられません。エコノミカ大会は運良く我々のペアが優勝と準優勝ということで、気分良く宿泊部屋に帰れました。夜は同室の札幌南高校と大富豪。金



融知力がないのでほとんど貧民でした。

2日目はプレゼンラウンド。その前に朝ごはんのカルピスソーダが美味しかったです。ミドリムシを愛する出雲先生の熱い基調講演を聞き感動に浸っていましたが、我々の戦いはこれからだということを思い出して今日の仲間と結集。明日の敵ですが、関西勢が多かったこともありすぐに打ち解けられました。しかしプレゼンは初戦で敗退。審査員の方による講評を頂きたかったです。この負けが翌日のクイズにとってもとても大きく響くとのことでしたが、まあとても楽しかったので特に落ち込むこともありませんでした。前夜祭のピンゴは当たらないのでご飯の確保に専念することをオススメします。

3日目、いよいよ本番です。ともかく待ち時間が長い！行員の方々の写真撮影などがあり、いよいよ放送開始。なにより事前にルールが公開されていないのが恐ろしいですね。クイズに勝つことが必ずしも勝利に近づくとは限らないという「果たして本当にクイズ大会なのか？」と疑いたくなるゲームバランスも見られましたが、まあバラエティだと思えば問題がまともなだけ十分納得できます。ということで3Rのわずか3問で敗退してしまいました。そのあとはプレゼンで同じチームだった灘高校を応援。しかし藤島高校が圧倒的金融知力によりニューヨーク研修旅行を手にし、大会は幕を下ろしました。終了後はただただクイズがしたかったです。

感想文というよりはいつものノリで振り返りの参戦記になってしまいましたが、ご容赦ください。時間に余裕があって人と関わることが好きな人は参加したらきっと楽しいと思います。







関西アーバン銀行

滋賀大会

11月25日(日)開催

主催 関西アーバン銀行

参加校一覧 滋賀県立虎姫高等学校、滋賀県立膳所高等学校、滋賀県立水口東高等学校、滋賀県立彦根翔西館高等学校、滋賀県立守山高等学校、滋賀県立国際情報高等学校、滋賀県立八日市高等学校、幸福の科学学園関西高等学校

申し込みチーム数 19チーム(8校)

運営スタッフ感想 滋賀大会も4回目を迎え、各チームの参加目的も昨年のリベンジ、クイズ好き、金融機関就職前の金融知識習得等、様々なことがうかがえた大会でした。決勝ラウンドはトップが何度も入れ替わる激しい戦いとなり、最後の1問まで勝負がもつれる展開となりました。熱戦を制し優勝したチームは、決勝ラウンドの複雑なルールを短い時間で良く分析しており、金融知識だけでなく判断力も問われる試合内容でした。優勝した2人は意気込みも十分。全国大会での活躍を期待しています。

優勝チーム 滋賀県立水口東高等学校
AQcel





滋賀代表 滋賀県立水口東高等学校 2年
神野 雄飛

正直、全国大会を通して学べるものはハイレベルな金融知識ぐらいだろうと思っていました。しかしいざ参加してみると、普段到底学べないようなことを学びました。

知識だけではありません。先人の考え方や人生観など、とても貴重なものを得られたと思います。

特に2日目の基調講演は、親や先生は伝えてくれないようなことをはっきり仰ってくださって、自分の中の考え方が大きく変化したと感じます。

私の周りの人はあまり「一番になれ」ということを伝えてくれません。

今回の講演で強く「一番になれ」と仰って、そこが一番印象に残っています。

エコノミカ大会やプレゼンを通じて同世代の方とも交流することができました。

金融・経済を勉強している同世代の方とは中々話す機会がないのですが、今回集まったのは全員がそういった知識を持った方なので、私とは違った視点で同世代から見た金融・経済のことについて聞くことができ考えが深まったと感じます。

全国から選りすぐられた方が集まっていますから、意見を交流出来て非常に得るものは大きかったと思います。プレゼンでは、発表の仕方であったり内容であったり質疑応答であったりと、とても学ぶ所が多かったです。これからプレゼンをする機会が確実に増えますが、今回こういった形で発表出来たのは凄く、価値があったと思います。

本戦の結果は3R敗退だったのですが、今回学んだことは自分の成長にとって大きくプラスであったと思います。

最後に、エコノミクス甲子園を開催して下さった方々、応援して下さいました方々に御礼申し上げます。

滋賀代表 滋賀県立水口東高等学校 2年
中井 裕哉

前回の地方大会で決勝ラウンドに進出するも優勝を逃しました。

その悔しさをバネにして、今大会では地方大会を優勝することができ、念願の全国大会出場を手にすることができました。

1日目：

エコノミカは新幹線で初めてルールを知り、相方と2回ほど実践練習をただけでしたが、2勝2敗という結果だったので満足しています。

エコノミカ大会では、ゲームに熱中するというよりも大会参加者と交流することの方が多かったです。そこで交流した子とその後の大会中もよく話していた印象があります。

1日目の終わりには予想だにしないトラブルが起こってしまったこともあり、疲れからすぐ就寝に至りました。

2日目：

早い起床でした。よく起きられたなと自分を褒めてあげたいです。そんな朝でした。

大会前から楽しみにしていたプレゼンでのチームメイトはみんな絡みやすく、すぐに打ち解けることができました。すごく楽しい時間でした。

うちのチームは内容に凝りすぎたあまり、プレゼンの方の練習が疎かになってしまいました。反省点です。

株式会社ユーグレナ代表の出雲さんのお話はとても面白い内容で、心に熱いものを感じました。

タイミングよく英語の時間にユーグレナに関する内容を勉強していたので、クラスメイトに自慢しました。

立食会では人と話すことに熱中してしまい、全然ご飯を食べることができなかったです。ビンゴ大会は当たっていたのですが、リーチにすらならなかったです。

今日1日いろんな体験をして疲れたなって思っているところで、筆記。疲れ切っていたので頭が回らなかったです。

3日目：

大会最終日にして、本番の日です。

形式が本番直前まで明かされないの、ルール把握に力を入れていました。

この日特に印象に残っているのが、第3ラウンドです。お昼休憩中に、たくさんの人と作戦会議を重ねました。結果は残念ながら敗退してしまいましたが、とても楽しかったです。

この大会での経験はとても貴重でした。

僕の人生に大きな影響を与えてくれました。

この大会を主催して下さいました方々には、心の底から感謝しています。





京都銀行

京都大会

12月16日(日)開催

主催 京都銀行

参加校一覧 洛南高等学校、東山高等学校、京都教育大学附属高等学校、京都府立福知山高等学校、京都府立洛北高等学校、京都府立南陽高等学校、京都府立京都すばる高等学校、京都市立紫野高等学校、京都市立堀川高等学校

申し込みチーム数 24チーム (9校)

運営スタッフ感想 3回目の開催となる「京都大会」は、過去最多の24チーム48名に参加いただき、盛大に開催することができました。筆記クイズは、開始直前まで真剣な表情で勉強する高校生の姿も見られ、大会にかける意気込みを感じましたし、決勝ラウンドでは、一発逆転の可能性もある展開に、歓声が湧き上がっていました。参加者からは「金融・経済について学びきっかけになった」「仲間と勉強した時間はとても楽しく、かけがえのないものとなった」「決勝に行けず悔しかったので、来年リベンジしたい」という熱い声を聞くことができました。

最後に、参加いただいた高校生の皆さま、開催にご協力いただいた関係各所の皆さまに感謝申し上げます。

優勝チーム 京都府立洛北高等学校
「洛北チーム A」





京都大会代表 京都府立洛北高等学校 1年
嶋村 悠

準備は結構してきたつもりだった。あの青い事前教材にも何遍も目を通したし、経済学の本も読んでいた。

でも、そんな生半可な対策では通用しなかった。一秒でも長く解答権へのアクセスを確保しておきたかったのだが、第三ラウンドで敗退してしまった。

しかも僕らに解答権のまわってくる直前に四チーム目が正解してしまうという展開で。あの時は悔しかったし、自分の実力不足に腹が立った。

1つの優勝校の下には45の負けた高校があるのだという事実も、頭では分かっていたが受け入れられなかった。ひょっとするとあえて普通の問題は、不正解にするの方が良かったのかもしれないと思うと、それも悔しかった。でも後で考えれば考えるほど、僕達は強いヒントをもらっていたし、もう少し冷静に考えていれば2周目で正解することだってできた。「運が悪かった」では片付けられない。僕らにはチャンスがあったのだ。

それから僕らは客席でクイズの進行を見ていた。何度あの場所に立ちたいと思ったことか。でももう手遅れ。決勝の「平成を駆け抜けろ！クイズ」の「サーキットブレーカー」や「リフレ政策」も分かったけれども書くことはできなかった。

地方大会の時には、「1年生の自分が」と萎縮していたが今ではただただ悔しい。救いを求めるならば、僕らはまだ1年生だと言うことだ。

まだチャンスはある。後はそのチャンスを逃さぬよう、努力をたゆまず続けるだけだ。

京都大会代表 京都府立洛北高等学校 1年
川本 青汰

エコノミクス甲子園を通して学んだことは、金融知力の重要性、経済の面白さです。人並な感想の様ですが、この段階で経済に関心を持てたことは、大きな成果となったと思います。これまで僕は、経済をどこか遠いものとしてらえていました。投資などというものは、専門家がするもので、個人が手を出すべきものではないと思っていました。しかしなぜか、エコノミクス甲子園に向けて勉強を始めたとき

に、真っ先に興味を持ったのは投資でした。今回勉強した中で、運用報告書や目論見書も読めるようになりました。「アメリカなどの金融先進国とは違い、日本では大会参加前の僕のように投資を自分とは関係ないものと思っている人が多く、個人資産に占める投資の割合は極めて低い。」この事実を知って、自分の資産形成のためにも、近年低い経済成長を維持する日本のさらなる経済成長のためにも、また高度に情報化する世界の中で日本が後れを取ることがないためにも、僕のようにエコノミクス甲子園という極めて幸運な機会を得た人が、まずは率先して投資に関心を持ち、その輪を周りにも広げていくことが、重要であり、またこのような機会を得たものとしての責任なのではなかろうかと思いました。

また、大会期間中には、全国の同世代の高校生と交流する機会を得ることができました。普段観光などで旅行することがあっても、旅行先の人と対等に交流しあう機会はほとんどありませんし、まして同世代となるとそのような機会は全くと言っていいほどありません。そんな中、エコノミクス甲子園では全国ほとんどの都道府県の高校生が一堂に会し、僕の話す関西弁をはじめ、全国各地の方言も聞こえてきますし、顔を合わす人はみなそれぞれに異なる文化、県民性を背景に持っていました。そういう環境の中で、エコノミクス甲子園は日本の中での自分の立ち位置のようなものを実感する機会になったと思います。





近畿大阪銀行 RESONA リそな銀行 RESONA

大阪大会 12月16日(日)開催

主催 近畿大阪銀行、リそな銀行

参加校一覧 開明高等学校、清風高等学校、清風南海高等学校、大阪星光学院高等学校、大阪教育大学附属高等学校 天王寺校舎、大阪府立茨木高等学校、大阪府立北野高等学校、大阪信愛女学院高等学校、四天王寺高等学校、四天王寺学園高等学校

申し込みチーム数 28チーム (10校)

運営スタッフ感想 年々参加チーム数が増え、今回の大阪大会は計24チーム48名の高校生たちに参加いただきました。今年は昨年からのリベンジ組も多く、予選ラウンドから気合が入っていました。強豪6チームによる決勝ラウンドは、これまでの大会で最高レベルと言えるもので、最後までハラハラドキドキの展開でした。見事優勝したのは大阪星光学院高等学校の「SG65K」、何と昨年の大阪大会に続く2連覇となりました。過去の12回の全国大会で大阪代表はまだ優勝をしていません。「SG65K」チームには大阪代表として初の全国優勝をしていただきたいと思います。

優勝チーム 大阪星光学院高等学校「SG65K」





大阪大会代表 大阪星光学院高等学校 2年
尾崎 巧基

悔しさと嬉しさが同時に存在する大会でした。2年連続の参加で、去年は運良く6位入賞することができて今回もうまく行かなくとも思っていました。しかし、現実はその甘くはありませんでした。入賞すらできずとても悔しかったですが、2年連続で出場でき、かつ筆記で1位を取れたことはとても誇りに思っています。

僕はエコ甲には2つの良さがあると思いました。(実際はもっとあります。ここでは2つ書きます。)1つ目は、交流です。エコ甲には全国から優秀で面白く個性を持った人がいっぱい集まります。また、普段なかなか合うことのできない方々もいます。そのような人たちと交流できる機会はなかなかありません。交流することで様々な刺激を貰うことができました。去年はぼっちを極めました。今年はたくさんの人としゃべることができ、自分のコミュニケーション能力の進化を感じました。2つ目は生きる力を身につけてくれることです。学校では教えてくれないお金の知識を学ぶことができますし、仲間と協力することの大切さや社会へ興味と関心を持つことの重要性を教えてくださいました。頭でわかっている、実際に経験してみないとわからないことがたくさんありますが、エコ甲はそれを教えてくれました。

この大会に参加できてとても良かったです。地方大会を開催して下さった皆様、スポンサー企業の皆様、学生スタッフの皆様、金融知力普及協会の皆様、大会を支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。

大阪大会代表 大阪聖光学院高等学校 2年
木村 秀太

昨年にもこの大会に参加し、プレゼン部門2位を足がかりに予選順位で終始優位を取り、最終的に全国6位という成績を収めました。「来年は勝つ！」という思いを胸に1年が経ちました。正直、高1以上に多忙な日々で、僕自身勉強が不十分で、去年の成績に対するおごりもありました。相方にはかなり申し訳ないことしてしまったけど、それでもそんな日々の中でも、競技クイズを嗜んでいる者として

のアドバンテージを反映させようとして、自分なりに多少の対策をして当日を迎えました。

1日目の夜に、昨年SFの藤島高校と同じプレゼンチームだとわかり、これはプレゼン優勝を狙うのみと思って2日目を迎えました。

午前の基調講演のテーマは「イノベーション」。これまでの人生で最も聴いていて感銘を受けたプレゼンテーションでした。そして、今年のプレゼンラウンドが開始。案を作っているうちは良い案だと思っていたけど、正直なところ、まさに「イノベーション」が全くなかったように思います。現実的な路線を模索しすぎた。加えて、細かい部分が全然詰まっていなかったのも響き、昨年2位だったプレゼンは最低評価に…。途方にくれて、夜の筆記ラウンドを終えて、2日目終了しました。

3日目の初めに、予選順位が通達。結果は26位、苦い。去年は予選5位でQFシードだったので、すこぶる美味しい思いをしましたが、今年は真逆の苦しい立ち上がり。早押しは2年目でついにクイ研らしい押しを決めて3R進出。もう予選順位は関係ないと安心して自分がいました。全くそんなことなかった。3Rは予選順位とヒントの引きの悪さが響き、ほぼ勝機がないまま無残な敗退。一矢報いようと臨んだ敗者復活でしたが、その差わずか0.4%で敗れました。ここまで厳しい現実が続くと苦笑いしかなかった。悔しがる相方の姿が辛かった。2年間ずっと僕を引っ張ってきてくれただけに、こんな思いをさせたくなかったな。

優勝は藤島高校でした。初日から「今年も勝つのは2年連続勢だ」と励ましあっていたので、とても嬉しかったです。同時に、自分たちも勝ちたかったという思いがこみ上げてきました。ただ、僕らも1つ爪痕を残せました。筆記ラウンドが1位。相方が大活躍でした。少しながら、僕も協力できたと思います。最後の最後で表彰されて、チームの実力だけは見せつけて大阪に帰れたと思います。

ここまで、「クイズ大会」としての振り返りにこだわってやってみました。僕が2年間のエコ甲で学んだのは「勝負の世界」というものです。何があるかわからない。少しの慢心や不運で状況が一転する。それは、金融においても同じではないでしょうか？このような深いことに気づけたのは、僕にとっての大きな財産です。この感想文の拙さに見てとれるように、まだ自分の中で消化しきれていない部分も多いですが、それを今後の人生で噛み砕いていきたいと思っています。最後に、相方の尾崎には感謝しかありません。2年間本当にありがとう。そして、スタッフの皆さん、地方銀行の皆さんをはじめ、このエコノミクス甲子園に携わっている全ての方への感謝の言葉とともに、筆を置かせていただきます。





池田泉州銀行

S I H D

兵庫大会

12月16日(日)開催

主催 池田泉州銀行

参加校一覧 兵庫県立三田祥雲館高等学校、兵庫県立御影高等学校、明石工業高等専門学校、灘高等学校、白陵高等学校、神戸女学院高等学部、賢明女子学院高等学校、関西学院高等部、雲雀丘学園高等学校、須磨学園高等学校

申し込みチーム数 20チーム(10校)

運営スタッフ感想 今回で4回となる兵庫大会は昨年度から連続参加も含め19チーム38名が参加しました。

予選ラウンドでは司会者が参加者の緊張を解きほぐし大いに会場を盛り上げる中、同じ高校のライバルチームに「がんばれ!!」とエールを送る姿もあり、終始和やかな雰囲気が進んでいきました。

決勝ラウンドでは金融の知識だけではなく瞬時の判断力を必要とし、大きな順位変動も有り得る厳しいルールにも関わらず、前回のリベンジに燃える灘高等学校の「stormers」が他を寄せ付けない戦いぶりを見せ、見事に優勝を飾りました。

参加生徒から「楽しみながら経済への理解を深めることができました」という声もいただきました。今後も高校生の皆さんがエコノミクス甲子園を通して、楽しく金融経済について学べるよう取り組んでいきたいと思ひます。

優勝チーム 灘高等学校
[stormers]





兵庫県大会代表 灘高等学校 2年
松原 利明

決勝ラウンドまで進出するも、4位に終わり悔しさが募る結果となった。もとはここまで進出できるとは思ってなかったとはいえ、勝つと頂上まで目指さなければ意味がない。相方や惜しめない声援を送ってくれた人たちの期待を裏切る結果となってしまい申し訳なさも感じる。そこには負けてしまえば何も残らないという事実が横たわっているわけだが、それらを帳消しにするほどの有意義な時間を過ごすことができた。その点について2つ述べたいと思う。

1つ目は、金融知力がこの大会を通して上昇したこと。地方大会で優勝してからの2か月間満身に時間を取れたとは言えないものの経済についての見識を深めることができた。はじめのうちは慣れ内部用語に戸惑うことも多かったが、勉強していくにつれてニュースが理解できるといった実用的な側面からも成長を感じられて嬉しく思う。

2つ目は、勝負の世界を肌感覚でひしひしと感じ取れたこと。万全の態勢で挑んだはずのプレゼンテーションで、1回戦で敗北したり、早押しクイズで解るはずの問題が緊張で飛んでしまったりと勝負の難しさを経験させられた。対して、準決勝ラウンドでの他チームを出し抜いて勝利を収める戦略が成功したときには、勝負の楽しさを全身で受けることができた。真剣に取り組むことの重要性を再確認させられることとなった。

最後にこの場を借りてエコノミクス甲子園に携わったすべての方々に感謝の気持ちを述べて締めたい。本当に楽しかったです、ありがとうございました。

兵庫県大会代表 灘高等学校 2年
島田 学

全国大会という場に出ること自体が初めてだった僕にとって、エコノミクス甲子園全国大会の3日間は本当に濃く、実り多いものでした。

1日目のエコノミカで打ち解けたのちの2日目、プレゼンラウンドでは、他校のチームと侃々諤々の議論をしながらもより良い企画を作り上げていくという過程から、コミュニケーションの重要性を学び、また全員が積極的に議論に

参加する集団の面白さを肌で感じました。残念ながら敗れてしまったものの、同じ班になった学校の人とは強固な友情が生まれたと思います。

その後の筆記では勉強量の不足から点が伸びず、非常に不安な心持ちで迎えた3日目。28位からの幸先悪いスタートでしたが、第2ラウンドを勝ち抜け準決勝に進めた最大の要因は推理力だったのではないのでしょうか。

準決勝は知識と機転の両方が問われるような形式となっていて、今思い返すとそれはまさに金融知力の本質を表していたのではないかと感じます。周囲を自らのために利用しながら、全チームで唯一の全問正解で勝ち抜けられたことは最高の思い出となりました。

そして迎えた決勝での順位は第4位。最後にはやはり知識が足りず、勉強不足を痛感させられる結果となりました。優勝した藤島高校のペアは僕らとは比べ物にならないほどの勉強量を積んできたそうで、実力の差が如実に現れたといったところでしょうか。悔しいですが仕方ありません。この結果に納得しています。

このエコノミクス甲子園で、金融知力を鍛えて地方大会を勝ち抜き、全国からやってきた同年代の高校生たちと、議論し、協力し、時には競い、そして笑いあうという貴重な経験をして、衝撃を受けながらも本当に楽しかったです。僕は非常に多くのことを学ばせていただき、また友人の輪も大きく広がりました。できることなら来年も出場したいところですが、あいにく受験が控えていて厳しそうなので、学校の下級生に積極的な参加を勧めたいと思います。ありがとうございました。





NANTO 南都銀行

奈良大会

12月16日(日)開催

主催 南都銀行

優勝チーム 東大寺学園高等学校
「ねこ」

参加校一覧 西大和学園高等学校、東大寺学園高等学校、
智辯学園高等学校、智辯学園奈良カレッジ高等部、
帝塚山高等学校、奈良県立青翔高等学校、
奈良県立畷傍高等学校

申し込みチーム数 15チーム(7校)

運営スタッフ感想 今回は7校15組30名での対戦となりました。
決勝ラウンドでは、順位入れ替えが激しく、最後までハラハラドキドキする戦いが繰り広げられ、大いに盛り上がりました。高校生の皆さまの一生懸命に取り組む姿に、スタッフ一同、今年も感動しました。
ご参加いただきました高校生の皆さま、また、ご尽力いただきました関係各所の皆さま、ご協力ありがとうございました。





奈良大会代表 東大寺学園高等学校 2年
澁谷 篤広

私は去年、高校1年生の時に初めてエコノミクス甲子園に参加しました。残念ながら昨年は地方大会を勝ち抜くことが出来ませんでした。今年は見事地方大会優勝を果たし全国大会に参加することが出来ました。全国大会では実に様々な刺激的な体験をすることが出来ました。

まず東京に来て最初のイベントは1日目のエコノミクス大会でした。私は残念ながら1勝もすることはできませんでした。正直なところこのカードゲームはカードの引き運要素が強すぎて勝つことは半ば諦めてのですが、優勝された方の強さは圧倒的で、何事も文句を言うよりも真面目にやってみるものだなあと感じました。

そして一夜明けた2日目はプレゼンテーションラウンド&筆記クイズの予選です。プレゼンテーションでは同じチームの灘高校、桜丘高校、新潟高校の皆さんとともに、体験型プログラムを用いた環境と経済に関する授業案を作成しました。残念ながらあまり良い結果とはなりませんでしたが、優勝チームのプレゼンは圧倒的なクオリティでした。今後、プレゼンをする機会は増えてくると思いますので、参考にして自分のスキルを高めていきたいです。そのプレゼンが終わった後には前夜祭を挟み、サプライズで突然の筆記クイズがありました。去年の報告書などで私たちは筆記クイズがあることは知っていました。もしこれを読んでいる来年の参加者の方がいたら、2日目の夜にスタッフが茶番交じりの筆記クイズサプライズをしてくれるので、全力で驚いてあげてください。

さて、3日目はいよいよ全国大会本番です。とにかく自分の知識不足を感じた1日でした。第1ラウンドの相対早押しクイズでは予選順位が相手より低いかかなり不利な状態から勝利できたのは良かったものの、その後の第3ラウンドでは勝ち抜け問題の答えは分かったものの解答権が得られないという大変もどかしい状態での敗退となりました。もし正解していたら準決勝に進めた問題の答え「ファンド・オブ・ファンズ (FOF)」はこの先も忘れることはないと思います。

かなりハードなスケジュールの怒涛の3日間でしたが、終わってみればとても楽しい大会でした。最後になりましたが、金融知力普及協会の皆様、各企業の皆様、そして大

学生ボランティアの皆様をはじめエコノミクス甲子園を作り上げてくださった皆様、本当にありがとうございました。

奈良大会代表 東大寺学園高等学校 2年
武田 一真

第13回エコノミクス甲子園の純粋な感想を記したいと思います。

まず1日目、学校を早退し新幹線で東京につくと直ぐにエコノミクス大会がありました。カードゲームを個人的にやっていることもあり勝ち越すことは出来たのですが、優勝には遠く及びませんでした。上位陣の勝ち点が以上に多く試合数から差をつけられていることに加えて、優勝・準優勝が兄弟であることにも大変驚きました。また商品がAmazonギフト券であり、さすがよく分かっているなあと感じました。

一夜あけて2日目はプレゼンテーションラウンドと筆記クイズによる予選の日でした。プレゼンのチーム分けでは全国随一の進学校である灘高校、エコノミクス大会優勝準優勝である兄弟の桜丘高校、新潟テレビが密着していた新潟高校という個性豊かで刺激ある良いチームに恵まれました。プレゼンテーマは「経済と環境の両立の難しさを中学生が自発的に学べる授業案を作成せよ」というものでした。結果は予選敗退でした。私達は授業案自体の構想に時間を使いすぎてしまい、肝心の「プレゼンのわかり易さ」という点で負けてしまったと思います。が、あのメンバーで作った授業案は本当に面白く、実際に行えば1位であろうと今も確信しています。その後、ホールを使って行われた上位3組のプレゼンは非常にうまく、特に1位のチームは本当に別格でした。そして立食形式の前夜祭のあと、抜き打ち(という茶番のもと)で筆記テストが行われました。内容は非常に難しく、正直なところ半点を取ることにすら不可能なように見え、結果はボロボロでしたが、後で聞くと7割以上得点していた組もあると聞き、あらためて出場者の熱意を感じました。

そしていよいよ、全国大会本番である3日目です。第1ラウンドのクイズラウンドは相方のおかげで無事抜けることが出来ましたが、その次の第3ラウンドでは知識不足で問題に正解できず、無念の敗退となってしまいました。正直なところ、この時点で僕は

①ランダムにチーム分けされるプレゼンラウンドのウェイトが非常に高い予選順位による有利不利の大きさ

②第3ラウンドの運要素の強さ

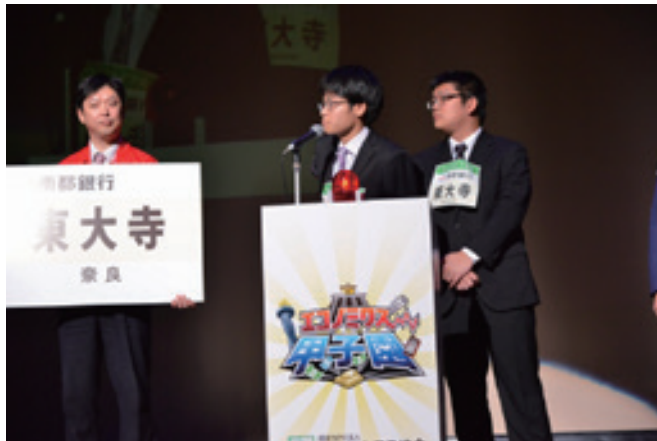
から少し思うところがありました。しかし本戦ファイナルラウンドは多少のゲーム性はあるものの根幹は王道のパネルクイズで、優勝された藤島高校が2年連続の参加で、圧倒的な勉強量から優勝候補とされており、また予選ラウンドの順位も低かった(詳しくは覚えていないが46組中30番代であったと思う)こともあり、ある程度全員に勝ち進むチャンスがあるというランダム性と、知識によって打破できるという王道性のバランスの良さに、過去の全国大会経験者である学生スタッフを含めた運営の方々の凄さを感じました。

結果としては惨敗でありましたが、全国の仲間と交流できたエコノミクス甲子園は非常に有意義な経験でした。来



年は受験生となるため参加できそうにはありませんが、無事受験に受かった際には是非、学生スタッフをしてみたいと思っています。

最後になりましたが、本大会の主催である金融知力普及協会の皆様、スポンサーの各企業様、地方大会を主催して下さった各地方銀行の皆様、そしてボランティアである学生スタッフの方々、こんなにも素晴らしい大会を開催していただき本当にありがとうございました。







和歌山大会

12月16日(日)開催

主催 紀陽銀行

参加校一覧 智辯学園和歌山高等学校、和歌山県立田辺高等学校、和歌山県立橋本高等学校、和歌山県立向陽高等学校、和歌山信愛高等学校

申し込みチーム数 18チーム (5校)

運営スタッフ感想 2回目の開催となった和歌山大会では、申込数と同じ18チーム36名が参加してくれました。当日は開場後すぐに全チームが集まり、大会開始まで熱心に勉強している姿が印象的でした。18チーム中13チーム女子チームでしたので、和歌山県の女子高生の積極性に嬉しさを感じる一方、男子チームも負けじと奮闘し、決勝ラウンドにもたくさんの男子チームが残り、県内高校生の頼もしさを感じられる大会となりました。

決勝ラウンドでは、最後までどのチームが優勝するか分からない展開が続きましたが、優勝した「レッドスマール」チームは、前回僅差で準優勝という悔しさをバネに、状況が不利になっても最後まで諦めない粘り強さで見事優勝を勝ち取ることができました。

来年以降も多くの高校生に参加してもらえよう、楽しい和歌山大会づくりを進めていきます。

優勝チーム 智辯学園和歌山高等学校
「レッドスマール」





和歌山大会代表 智辯学園和歌山高等学校 2年
小嶋 美早紀

私はエコノミクス甲子園全国大会に初めて出場し、想像以上の貴重な体験をさせていただき、たくさんのことを学ぶことができました。

私たちのチームは前回大会で初めて地方予選に参加しました。2人ともクイズ研究会に所属していたため、クイズ大会だからと、気軽な気持ちでエントリーしたものの、送られてきた知らないことだらけの事前学習教材を前にして、驚いたことを覚えています。前回大会では地方大会で破れ、今回は全国大会に出場しましたが、ここでも様々なことに圧倒されました。

一番強く感じたことは、エコノミクス甲子園とはただのクイズ大会ではなかったことです。まず、全国大会2日目ではプレゼンテーション能力も問われました。その日に組まれたグループでテーマに沿ったプレゼンテーションを制作し、各グループでプレゼンテーションの出来を競う際、私はプレゼンテーション経験もありませんでしたし、柔軟な発想能力もなかったので、周囲のレベルの高いメンバーと話し合う中で、私に不足している能力を痛感させられました。共にプレゼンテーションを作り上げてくれたメンバーには感謝しています。そして、大勢のスタッフの皆様によって大会が進行されていることにも驚きました。3日間の大会中、本当に楽しむことができました。ありがとうございました。

私はエコノミクス甲子園で、多くのことを学びました。その中で金融に興味を持ち、将来、金融関係に進みたいと思ったことは一番の大きな収穫でした。和歌山大会はまだ2回目ですが、ちょっとしたきっかけでエコノミクス甲子園を知り、エントリーし、全国大会で優勝される日を楽しみにしています。

最後になりましたが、この大会に関わってくださったすべての皆様に感謝いたします。

和歌山大会代表 智辯学園和歌山高等学校 2年
赤井 遥

今回のエコノミクス甲子園に参加した3日間は、私の高校生活の中で一番刺激的な日々でした。

1日目

1日目のエコノミカ大会では、1勝もあげられませんが、他校の高校生とゲームを通してコミュニケーションをとることができました。初心者でも楽しめました。

2日目

プレゼンテーションでは今まで一度も本格的なプレゼンを経験したことがなかったので、限られた時間の中で課題にどう対処するのか、どうやって相手に自分たちの言いたいことを伝えるかがいかに難しいことなのかを、実感することができました。正直、一番不安に思っていた部分でしたが、実際、チームで協力して一つのものを作り上げるのはとても楽しく、充実した時間でした。困難をチームで乗り越えられた時、確実に成長できた、という実感を得られました。

3日目

本大会では、今まで経験したことがない様々な形式のクイズが出題され、本当に楽しかったです。そして、6位入賞という結果を残すことができました。高校1年生の時の地方大会で僅差で負けた悔しさがあったからこそその結果だと思えます。

また、私は、奨学金を受け取らせて頂くことになりました。この奨学金のおかげで、将来の幅を狭めることなく、自らの進みたい道をより多くの選択肢の中から選ぶことができます。今回のエコ甲に向けて一心不乱に経済について勉強したように、奨学生として不断の努力を続けたいと思います。

最後になりましたが、この大会に関わってくださった全ての方々に感謝を申し上げます。

本当にありがとう





山陰合同銀行

鳥取大会

12月8日(土)開催

主催 山陰合同銀行

参加校一覧 湯梨浜高等学校、青翔開智高等学校、鳥取城北高等学校、鳥取県立倉吉総合産業高等学校、鳥取県立鳥取商業高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、鳥取県立鳥取西高等学校

申し込みチーム数 17チーム (7校)

運営スタッフ感想 7回目となる鳥取大会には、17チームが参加しました。開始までテキストを開いて真剣に勉強する高校生を見て、この大会にかける熱い思いを感じました。決勝ラウンド「ビルトインスタビライザークイズ」では、最終問題まで優勝チームが予測できない手に汗握る展開となり、大いに盛り上がりました。接戦の末、青翔開智高等学校の一年生チーム「咳をしても一人」が全国の切符を手に入れました。鳥取大会代表として、全国での活躍をスタッフ一同楽しみにしております。ご参加いただきました高校生の皆さま、関係者の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

優勝チーム 青翔開智高等学校
「咳をしても一人」





鳥取大会代表 青翔開智高等学校 1年

田口 響生

オリンピックセンターには早めに着き過ぎてしまった。ずっと楽しみにしていたエコノミクス甲子園全国大会の舞台についた。いくら楽しみとはいえ、3日前からずっと眠れなかったのは初めての経験だった。

1日目は、エコノミカ大会が開催された。大会が始まるまで指定された席で待っている最中、隣の席に座っていたチームの人と仲良くなった。とてもフレンドリーに話しかけてくれて、全国大会がより楽しみになってきた。エコノミカ大会の結果は1勝しかできなかったが、全国各地からきた人達と知り合いになることができ、とても有意義な会だった。

2日目は、プレゼンラウンドと立食パーティー、筆記試験が行われた。お題は、「経済発展と環境保護の両立の難しさを、中学生に分かりやすく、身近に感じられるような授業プラン提案せよ」だった。私たちのチームは、自分の学校の特徴ある授業からヒントをもらいながら、授業プランを考えていくことにした。私が通っている学校は週に3回探究の授業があるので、参考になる提案ができるのではないかと考えたが、一緒にグループだった人達が通っている学校も非常に特徴的で面白い授業を行っていて、とても勉強になった。グループ内では、本当に活発な議論が行われていて、素晴らしい案も多くあった。しかし、その事が逆に仇となり、どの案を採用するか、その意思決定に多くの時間を割いてしまい、時間ギリギリでようやく完成した。1回戦目は、同じチームだった人のプレゼン能力が高かったこともあり、勝利することができた。しかし2回戦目は、審査員の評価が分かれ、惜しくも負けてしまった。2回戦目は自分がプレゼン発表に参加した事もあり悔しさと申し訳ない気持ちでいっぱいだった。プレゼンラウンドは、悔いが残る結果となった。

プレゼンラウンドの決勝戦が終わった後、立食パーティーが行われた。私は経済学志望なので、銀行員の方や各金融機関の方と、資本主義について話してみたいという思いがあった。そこで、来賓の方に、思い切って経済の話聞いてみると、とても快く答えてくださった。その方のお話は自分が今まで持っていた知識では全てを理解することは難しく、自分の知識のなさを痛感したが、それと同時に、自

分の夢である「誰にでも平等なチャンスがある社会を作る」という目標につながるお話も多くあり、自信にもなった。

3日目は、エコノミクス甲子園本戦が行われた。第1ラウンドは、1対1の相対早押しクイズだった。予選順位が相手チームよりも高かったため、有利な条件ではあったが、1問目を相手にとられてしまったことで焦ってしまい、2問目で大変な間違いをしてしまって、負けてしまった。続く第2ラウンドも敗北してしまい、敗者復活戦に進む事になった。敗者復活戦では、近似値問題が出された。運が味方した事もあり、最後の4人まで残ったが、ラスト1問で0・5の差で負けてしまった。

その後準決勝、決勝を観戦したが、とてもハイレベルな戦いで、自分は負けるべくして負けたのだと実感した。しかし、ここで終わるつもりはない。来年も地方大会を優勝して、またこの舞台に戻って来ようと思う。そして、来年こそは優勝したい。

最後になりましたが、エコノミクス甲子園開催にあたり、主催団体の皆様、協賛団体の皆様、そして運営・進行を担当して下さった大学生ボランティアスタッフの皆様、本当にありがとうございました。来年も必ず参加しますので、よろしくお願いします。

鳥取大会代表 青翔開智高等学校 1年

坂田 利通

はじめに金融知力普及協会・地方金融機関ほか主催団体の皆様、協賛団体の皆様、そして運営・進行を担当して下さった我々の先輩方である大学生・スタッフの皆様に対し、本大会、地方予選を主催して下さったことに厚く御礼申し上げます。

今回エコノミクス甲子園全国大会に出場したことは私にとって興味深い経験となりました。定期的に受験する模試で全国の高校生と(数値的に)競うことはありますが、一堂に会した全国の高校生と面と向かって自らの知力を競い合うという経験の方が遥かに自分に及ぼした影響が大きいに感じました。

まず1つ目に、人との関わりです。3日間を通して、全国の高校生と実際に話をすることができたこと、前夜祭で実際に世界の金融機関で活躍する方々のお話を伺うことで大きな刺激を受けました。特に、基調講演として2日目にいらっしゃった株式会社ユーグレナの代表取締役社長である出雲充様のお話は、そのめげない信念もさることながら、その信念に裏打ちされた話力にも目を見張るものがありました。2つ目は、経験の重要性です。全国大会に出場したことで現在の自分を客観的に見つめる契機になりました。投資・保険・貯金等の金融に関する知識は言うまでもなく、将来への考えや意識を持たせてくれたことは日々の生活や勉強に打ち込む為の糧となりました。大会を終えて勉強の為机に向かっていると、ふとこんな言葉が頭に浮かびました。

「百聞不如一見」

簡単に言って”聞くよりも見ろ”そんな意味のことわざです。中国の古典にはこれだけなのですが、日本ではこれ



に続く言葉があるのを思い出したのです。

「百見不如一考
百考不如一行
百行不如一果」

私は、この言葉は知識だけでなく経験を積み、それらの経験を踏まえて考えるという一連のプロセスからこそ成果を生み出すことができる、ということを表している様に感じられました。この大会でも、人生の先輩の経験、そして私達の近くで頑張っておられる大学生の皆さんの姿から、学び、同じ仲間たちと考える、そうすることで、大学で、社会で自分なりの意見と信念を強めていくことができるでしょう。

最後に、大会を運営して頂いた皆様に重ねてお礼を言わせて頂きます。ありがとうございました。来年、大学生でも運営として参加させて頂きます。よろしくお願いします。







山陰合同銀行

島根大会

12月9日(日)開催

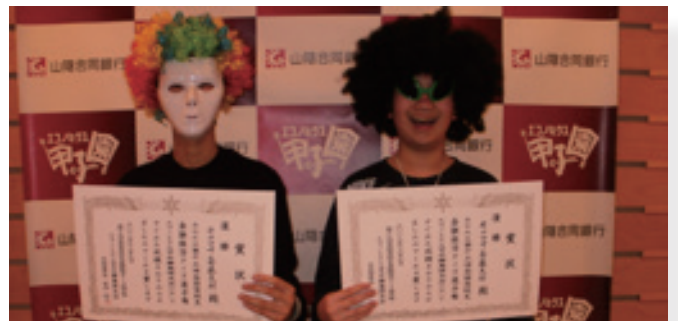
主催 山陰合同銀行

参加校一覧 島根県立出雲高等学校、島根県立大田高等学校、島根県立平田高等学校、島根県立松江北高等学校、島根県立松江商業高等学校、島根県立浜田高等学校、松江工業高等専門学校、益田東高等学校、開星高等学校

申し込みチーム数 30チーム(9校)

運営スタッフ感想 7回目となる島根大会には、23チームが参加しました。開始までテキストを開いて真剣に勉強する高校生を見て、この大会にかける熱い思いを感じました。決勝ラウンド「ビルトインスタビライザークイズ」では、最終問題まで優勝チームが予測できない手に汗握る展開となり、大いに盛り上がりました。接戦の末、松江工業高等専門学校の一年生チーム「モロマサ齋藤反射」が全国の切符を手にしました。島根大会代表として、全国での活躍をスタッフ一同楽しみにしております。ご参加いただきました高校生の皆さま、関係者の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

優勝チーム 松江工業高等専門学校
「モロマサ齋藤反射」





島根大会代表 松江工業高等専門学校 1年

小松原 慧

片田舎島根から遙々、大都会東京へ発った。晴天が続いていた島根に反して、東京では雪がちらついていたことに驚いた。

会場についてすぐ、エコノミカ大会が行われた。付け焼き刃で覚えたルールでは戦えるはずもなかった。一方、一夜で計 15000 円の Amazon ギフト券を獲得してしまう東兄弟には、さすがとしか言いようがない。脱帽。

2 日目はプレゼンテーション大会だった。いきなり初対面の人と議論することに新鮮さを感じつつ、意識の高い人と充実した会話ができる喜びを噛み締めていた。午前中は具体性に欠けていた案も、昼食を過ぎた頃から徐々にまとまっていき、完成へと近づいていった。結果 1 位になれたのも、良さ班員に恵まれたからだ。感謝感激雨霰。議論を通して、昨今話題のコミュニケーション能力も養われたと思う。続いて行われた前夜祭で全国の高校生との交流を満喫していたのも束の間、その後のペーパークイズでは、あまりにも歯が立たず、意気消沈。

3 日目、ついに迎えた本戦。第 1R の早押しでは、1 問も答えることなく第 3R へと駒を進めた。予選順位がここで活きた。第 3R では、解答権を得る間もなく、他チームに次々と抜かれてしまい、不完全燃焼に終わった。敗退後、観客席からステージでのハイレベルな戦いを目の当たりにした私は、虚無感に包まれていた。悔しさと言うよりは、土俵にすら上がることができなかった自らの実力不足から、自責の念に苛まれた。

今回、第 13 回エコノミクス甲子園全国大会に参加し、多くの刺激を受けることができた。それとともに、自分の至らなさを痛感した。この思いをバネにして来年は実力と自信をつけてこの大会に戻ってくる所存である。

最後になりましたが、今大会の企画・運営にあたり、多大なるご尽力をいただきました、金融知力普及協会のスタッフの皆様、大学生有志の方々、そして、共に戦ってくれた相方、大会を通して私たちを見守って下さった山陰合同銀行の高橋様に感謝の意を表したいと思います。本大会が今後益々発展することを祈念しつつ、ここで筆を置かせていただきます。

島根大会代表 松江工業高等専門学校 1年

佐々木 涼太郎

松江高専クイズ研究会は今年の 10 月に立ち上げたばかりのクイズ研究会です。

仲の良い友達とクイズ研究会を立ち上げ、いろんな大会に参加して経験を積もう、全国大会出場というブランドを身に付けたい、そんな思いで見つけたのがこのエコノミクス甲子園だったので。

事前教材を一通り勉強した僕達は県予選を勝ち抜けることができ、僕達はあの夢にまで見た全国ブランドを手に入れ、ギフト券 10000 円も頂き僕達はホクホク顔でした。

初日は「大都会東京」を満喫しました。原宿でクレープを食べハットクを食べワッフルを食べハチ公前で写真を撮り都庁に登り表参道のカフェで夕食にカルボナーラを食べ。そしてホテルにチェックインしました。施設内にはコンビニもあり思っていたより快適でした。

受付を済ますとすぐにエコノミカ大会が開催されました。全くルールを理解していなかったため対戦相手に教えてもらいながらのプレイになりましたが辛うじて 1 勝できました。

同部屋の川越高校の 2 人と打ち解けあい、その日は移動と観光の疲れからかすぐに眠ってしまいました。

2 日目の朝、朝食が全体的に美味しかったです。寒天フルーツらしきデザートは薬のような味がして悲しかったです。

この日の最初は株式会社ユーグレナの社長、出雲さんによる基調講演でした。成功者のリアルな体験談はなかなか聞けないですし、波瀾万丈の人生を送ってこれられてとても面白く貴重な体験になりました。

その後いよいよ大会予選に突入。予選プレゼンテーション部門では岐阜高校、中央中等教育学校、川越高校の人とチームになりました。

僕は発表のスライドを作り、メンバーと交代で発表と質疑応答をしました。

みんなと協力できた甲斐もあって見事優勝することができました。

そして立食パーティーが行われました。食べまくりました。人物ビンゴでは京都のかえでパイが当たりました。楽しい気持ちで眠れるかと思いきや唐突なペーパーテストが開催され何も勉強していなかったため 4 割取れているかどうかという散々な結果になり、落ち込みつつ明日のクイズに備えて勉強しようとするも寝てしまいました。

3 日目、最終日がやって来ました。プレゼン優勝のおかげで、46 チーム中 7 位で予選通過することができました。1R は早押しクイズ、相手は弘前高校でした。どちらも 3 年生でとても強いチームということは知っていました。ですが運良く同点に終わり結果的に予選結果の上だった僕達は 2R ではなく 3R に進出しました。

3R はヒントを集めてそのヒントから連想されるものを答えられれば勝ち抜けというものでした。事前に水口東高校やラ・サール高等学校の人たちと交換を拒否されない様にコミュニティを作ったり一緒に作戦を練ったりしていました。

1 周目に渡される最初のヒントが「世界規模の金融危機



が起こった」で当たりを引いた！と思いましたがなんと出
 国税が出てこず交換、解答権も得られませんでした。しか
 し交換で「これをきっかけに金融市場がマヒし」が回って
 きて答えは「リーマンショック」だ！と確信を持ちました。
 しかし2周目も睡眠預金が答えられず解答権すら獲得でき
 ないまま勝ち抜け枠が埋まり敗退しました。共に作戦を練っ
 たりしたコミュニティはあまり本領を発揮することなくラ
 ウンドが終わってしまいました。悔しいです。

敗者復活戦では全然違う%を叩き出し即退場してしま
 いました。

問題運は割とあったのに全く次ラウンドに進めず、しか
 も知っていたはずの言葉が出てこずうろ覚えで回答する
 という完全な勉強不足を痛感しました。

ですが、最初思っていたよりもとても楽しく、大会その
 ものもすごく豪華なもので驚きました。また、たくさん
 の高校の人たちと交流できたことも大会に参加した大きな
 メリットだったと思います。

引率に来てくださった山陰合同銀行の方に来年も絶対
 に県予選突破するので一緒に全国行きましようかと約束をしま
 した。

来年はきちんと身につくまで勉強して絶対にリベンジし
 ます。

絶対に、優勝します。







中国銀行

岡山大会

12月16日(日)開催

主催 中国銀行

参加校一覧 清心女子高等学校、明誠学院高等学校、岡山高等学校、岡山県立西大寺高等学校、岡山県立笠岡商業高等学校、岡山県立岡山操山高等学校、岡山県立岡山南高等学校、岡山県立倉敷鷺羽高等学校、岡山県立倉敷青陵高等学校、岡山県立倉敷天城高等学校、岡山県立倉敷商業高等学校、岡山県立倉敷古城池高等学校、岡山県立倉敷南高等学校、岡山県立井原高等学校、岡山白陵高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山商科大学附属高等学校、山陽女子高等学校、創志学園高等学校、倉敷市立精思高等学校

申し込みチーム数 57チーム (20校)

運営スタッフ感想 県下20の高校から57のエントリーがあり、今年も大いに盛り上がり、楽しく金融経済について学んでもらえたのではないかと感じています。

早押しラウンドでは、高校生が退屈しないよう、岡山大会恒例となりました全員参加の「チャレンジクイズ」を実施しました。次回も高校生が楽しみながら金融知力を高めることができる大会にしたいと思います。

優勝チーム 岡山県立倉敷天城高等学校
「味噌汁メロン」





岡山大会代表 岡山県立倉敷天城高等学校 1年
濱田 美和

感想文を書いて下さい、とのことなので、私の感想を書きます。

悔しい。

—終—

この一言に尽きますが、そうもいかないのでもう少し詳しく書きます。

私達のエコノミクス甲子園は、予選第3ラウンド敗退という悔しい結果でした。全国出場、できれば全国優勝を目標として地方大会へ出たので、県で53チームの中で優勝し、全国が決まった時は嬉しかったのですが、完全に自分の知識不足で敗退したので、東京から帰宅後は悔しさでいっぱいでした。ですが、この悔しさを糧に来年頑張ろうという気持ちに今はなっています。

初日のエコノミカ大会では、楽しくお話できた方もいたので、緊張を少しほぐせました。また、スターターデッキ部門の1位2位を、高クイ優勝の双子のお二方がかささっていったのを見て恐れおののきました。

2日目のプレゼンは班のメンバーの方のアイデアの幅の広さに驚きました。本当に助けられました。

3日目の本番については、結果が結果なので、悔しさばかり残りますが、新しい知識に沢山触られました。私達は早押しは良かったのですが、その後が悔しいです。「出国税」が出てこず敗退でした。いや、早押しで「トリクルダウン理論」が分かって出国税分からなんて、と自分が対策の順番を間違えたことに気づきました。その後決勝を見ていると他の方々の凄さを痛感しました。

悔しいですが、それ以上に他県の方と交流したりアドバイスを頂けたりしたことが良かったです。来年絶対出てリベンジします！

岡山大会代表 岡山県立倉敷天城高等学校 1年
中村 茜里

私は相方の濱田さんに誘われて、エコノミクス甲子園に参加しました。私は経済には元々あまり興味がなく、知識もほとんどありませんでした。しかし、本当に一緒に出る相手がいなかったようで、私に声をかけてくれました。

「将来的に勉強しておいたほうが良いことだから、ちょっとやってみよう。」くらいの軽い気持ちでエントリーしました。

正直、地方大会のときは全国大会のことは考えてすらいませんでした。しかし、濱田さんの圧倒的な知識でなんと優勝してしまいました！私は地方大会でまったく役に立てず、こんな調子で全国大会なんて大丈夫なんだろうか、とかなり不安になりました。

そんな状態で挑んだ全国大会。日本各地から猛者たちが集まっており、1日目のエコノミカ大会の時点ですでにとつもない場違い感を感じました。

そして2日目のプレゼンテーションでは、同じグループの方々の知識と発想力と思考力にただただ驚きました。年齢はあまり変わらないのに、この頭の出来の違いはなんなのかと。

2日目の夜にあった筆記クイズでは、濱田さんの知識量に救われました。私は事前学習教材を勉強していなかったわけではなかったのですが、頭にはあまり入っていませんでした。自分が恥ずかしくなりました。

そして最終日の3日目の早押しクイズでは、第3ラウンドで敗退となってしまいました。私があつたとき「出国税」を思い出せていたなら、と思わずにはいられません。

私は今回エコノミクス甲子園に参加したことで初めて金融について学びました。将来、何かしらの形で役に立つことがあるかもしれないので、エコノミクス甲子園は終わってしまいましたがこれからも少しずつ勉強していきたいと思えます。

最後になりましたが、この大会を運営してくださった金融知力普及協会をはじめとする関係者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





もみじ銀行

広島大会

11月11日(日)開催

主催 もみじ銀行

参加校一覧 福山市立福山高等学校、広島県立総合技術高等学校、広島県立福山商業高等学校、広島県立広島高等学校、広島県立広島商業高等学校、広島県立因島高等学校、広島県立呉商業高等学校、広島市立広島商業高等学校、広島市立基町高等学校、広島学院高等学校、広島女学院高等学校、広島大学附属高等学校、崇徳高等学校、安田女子高等学校、ノートルダム清心高等学校、AICJ 高等学校

申し込みチーム数 29チーム (16校)

運営スタッフ感想 今年の広島大会は15校26チームの参加があり、県内の高校生にエコノミクス甲子園が浸透してきたと感じました。早押しクイズでは、高校生、観客、そしてスタッフまでもがクイズや応援に熱くなり会場は熱気に溢れていました。また、今年の決勝ラウンドは、過去2回の優勝を誇る広島学院高等学校が優勝し、全国大会でも上位を狙う意気込みがうかがえました。大会が終わり高校生たちからは「こんなに楽しい大会とは思わなかった!」「来年も絶対に参加します」と沢山の声を聞くことができ、私たちスタッフも達成感に満ちています。

優勝チーム 広島学院高等学校
[Magis]





広島大会代表 広島学院高等学校 1年
西谷 光太郎

全国大会に出場すること自体、かなりの幸運だったように思います。地方大会は、圧倒的知識量を持った2年生をおさえての勝利でした。そして全国大会。明らかな準備不足でありました。筆記クイズはボロボロ。相方と共に打ちのめされました。

プレゼンラウンドは面白い試合でした。しかしながら、面白くても伝わらなかったら、意味がないんですよね。アイデアは面白い！でも、伝わらない！今考えてみると、プレゼンのグループは顕著に対立していたように思います。僕と相方の仲は元々悪かったのですが、それも分かりやすく憂き目に出てしまいました。プレゼンは他のメンバーとの調和が大切でした。簡単には行かず、プレゼンラウンド最下位。これが一番の敗因と言えるでしょう。

筆記は改善できる。楽勝です。今年の問題はストックしています。では、プレゼンは？イギリスの詩人 William Wordsworth の言葉に次のようなものがあります。You must love him ,before to you,he will seem worthy of your love. (考える前に愛せよ。)知っている人もいるかもしれませんが。好きな言葉なのに忘れていました。相方とのチームワークを、改善して、来年も出場するつもりです。簡単ではないと思いますが、全国でリベンジ！

尚、今年の大大会で3日目に答えた問題は全て正解できたので、誇りを持って、来年に臨みたいと思います。

終わりにになりましたが、大会運営に関わった全ての方々、特に水谷さんともみじ銀行の前川さんには感謝と敬意を込めて、ここでご挨拶をさせていただきます。

広島大会代表 広島学院高等学校 1年
上野 泰佳

【感想文未提出】





山口大会

11月18日(日)開催

主催 山口銀行

参加校一覧 聖光高等学校、早鞆高等学校、慶進高等学校、山口県立防府商工高等学校、山口県立西京高等学校、山口県立山口高等学校、山口県立下関西高等学校、宇部工業高等専門学校、下関市立下関商業高等学校

申し込みチーム数 23チーム(9校)

運営スタッフ感想 今回で7回目となる山口大会は、9校23チームの高校生に参加いただきました。昨年のリベンジに燃えるチームや、初出場で優勝を狙うチームなどによる熱い戦いが繰り広げられました！

白熱の決勝ラウンドを制したのは、山口県立山口高等学校「Ultimate」！

筆記クイズは1番の成績、決勝は2位スタート。決勝ラスト1問では上位2チームによる接戦の末、見事優勝を収めました。弓道部の先輩&後輩チームで初出場の「Ultimate」。弓道で培われたチームワークと集中力、戦略的な攻防で全国大会での活躍を期待しています！

参加者の皆さん、保護者・高校関係者の皆さま、山口大会にご協力いただきありがとうございました。

優勝チーム 山口県立山口高等学校
[Ultimate]





山口大会代表 山口県立山口高等学校 1年
田中 凜

私はエコノミクス甲子園に参加してとても多くの新鮮な体験をすることができました。

今年度、エコノミクス甲子園には初出場でも右も左も分からないまま、同じ弓道部の部活の國崎先輩と一緒に山口県大会に出場しました。今まで私が所属している山口高校からは全国大会に出場した経験がなかったので、「僕たちが全国大会に出てやるんだ!」というフレッシュな気持ちで挑むことができました。結果は日々の学習で積み上げた知識や普段から新聞やテレビなどから取り入れた知識を用いて筆記を1位で通過し、見事優勝することができました。

県大会優勝後、どのような形式の全国大会なのか過去の映像などを見ながら考えている時間は、とても楽しい時間でした。

山口県大会は参加チームが25チーム程度の比較的小さな大会でした。なので、全国大会に出場し、全国から厳しい地方大会を勝ち抜いてきたであろう高校生の実力に圧倒され、自らの勉強不足を感じました。相方の先輩にも私の勉強不足のせいで無理をさせてしまったと思います。最初の基調講演では今まで触れたことのない考え方を発見することができたり、プレゼンでは様々な地方の高校生と意見を出し合いよりよい発表ができるよう努力することができたりしました。このように出会ったばかりの仲間とディスカッションしていくことはあまり日常生活にはなく、楽しいものとなりました。3日目の本戦では3rd止まりであまり良い結果とは言えませんが、必ず将来役に立つであろう金融知力を楽しく学ぶことができ、全国の高校生と交流もすることができて、エコノミクス甲子園に参加でき良かったです。

来年も必ずこの全国大会に戻ってきたいと思います!

山口大会代表 山口県立山口高等学校 2年
國崎 優佑

先輩に誘われて金融に関して勉強を始めてから4ヶ月になって、このエコノミクス甲子園の全国大会を迎えました。僕たちは、2日目からの参加ということでした。2日目のプレゼンでは、全国から集まったいろいろな人た

ちの、自分とは全く違った考え方を学びました。「経済発展の環境対策の両立に関する授業案」という、1つのテーマに関しても、本当にさまざまなとらえ方があるのだと、自分の見識の狭さを思い知らされました。

3日目のクイズラウンドでは、地方大会よりも難度の高い問題に苦戦しました。しかし、このクイズの中でまだ知らなかったことを多く学ぶことができ、大会の中でも、自らの知識をつけることが出来ました。また、クイズの形式も多様で、その時々でルールに対応して作戦を考えることが楽しかったです。

この、エコノミクス甲子園では、それまでほとんど深くは勉強してこなかった金融に関して、勉強する機会を与えていただきました。身近な事ではありながら、本格的に勉強していくと、なかなか難しいものであるということも実感しました。しかし、この機会があったおかげで、これからはさらに金融知力をつけたいと感じるようになりました。今回のこの機会がこれからの生活に生かされるよう、勉強を続けていきたいと思いました。また、今回出会ったレベルの高い学生から受けた刺激を忘れず、自らの能力を高めることが出来るよう、頑張っていきたいと思いました。





阿波銀行

徳島大会

12月15日(土)開催

主催 阿波銀行

参加校一覧 徳島県立脇町高等学校、徳島県立川島高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城南高等学校、徳島県立城内高等学校、徳島市立高等学校

申し込みチーム数 12チーム(6校)

運営スタッフ感想 今年は初出場のチームに加え、昨年のリベンジに燃えるチームも多く参加しました。本大会に向けて、テキストの勉強だけではなく、テレビや新聞を見て時事問題を勉強するなど、参加者の意気込みが感じられました。熱戦の中優勝したのは、昨年のリベンジに燃える「ヘリファルテ」でした。

終了後は、他のチームから「おめでとう」という言葉がかけられており、ライバルでもありながら、お互いを尊敬しあう姿に感銘を受けました。今後もエコノミクス甲子園を通して、楽しく金融知力を身に付ける機会を提供し、将来の力につなげる支援を行いたいと思います。最後になりましたが、本大会の開催においてご支援を賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。

優勝チーム 徳島県立城東高等学校
「ヘリファルテ」





徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 2年
武市 隼

エコノミクス甲子園全国大会は、かつてないほど刺激を受けることができた3日間でした。2日目のプレゼンラウンドでは、同じグループになった他の都道府県の代表の方が主体的・積極的に活動する様子を目の当たりにし、圧倒されました。1日という限られた時間の中でプレゼンテーションを作るという経験は初めてでしたが、グループでとことん意見を交わし合い、完成させることができた達成感は何物にも代え難いものでした。他のグループの発表には、自分では思いつかなかった発想や工夫があり、多くのことを吸収できました。3日目は第3ラウンド敗退という結果になりましたが、準決勝・決勝進出チームには全国大会のレベルの高さを実感させられました。また、クイズの形式は見ている側も楽しく学べる内容で、大会期間中にさらに金融知力を身につけることができたのではないかと思います。

今回、全国大会出場にあたり放課後や休日に相棒と対策をしましたが、金融・経済に関するたくさんの知識やリテラシーを身につけることができました。さらに金融知力を身に付け、然るべきときに使いこなせるようにしていきたいです。そして一層これからの高校生活に邁進していきたいと思います。

最後になりましたが、第13回エコノミクス甲子園に関わってくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。

徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 2年
田中 俊輔

エコノミクス甲子園に参加して私が感じたことをここに記そうと思う。

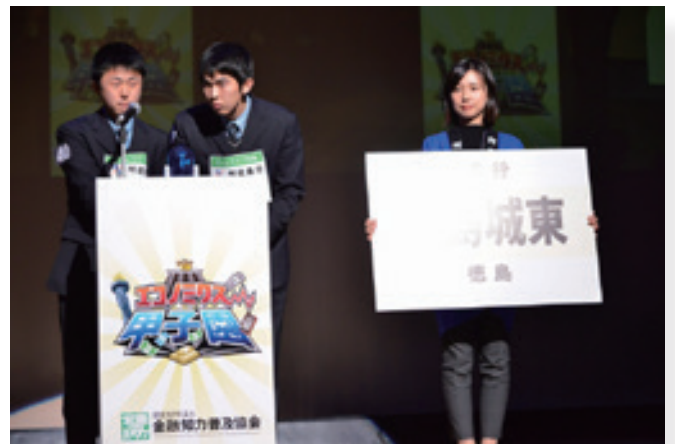
1日目、エコノミカ大会が行われ、全国の猛者たちと親睦を深めることができたと思う。

2日目、株式会社ユーグレナの代表出雲充さんの講演を基調としてプレゼンラウンドが行われた。結果としては負けてしまったが、出会って間もない他のチームと意見を戦わせて与えられたプレゼンのテーマに対する1つの解決策を提示するというプロセスは私にとって新鮮で貴重な体験

であった。この後、抜き打ち(?)で筆記ラウンドが行われた。表を用いた計算問題や記述問題など表層の知識のみでは解けず、我々の経済についての体系的な理解が問われた。対策はしてきたつもりであったが、自分の知識不足を痛感させられた。

3日目、我々は1stラウンドで不利な状況に立たされながらも何とか突破し、3rdラウンドへ進むことができた。しかし、3rdラウンドは単純に知識を問われるのではなく、経済に絡めたルールが設定され、数手先を読む能力と戦略が必要とし、他チームに及ばず敗退してしまった。決勝戦を観覧していたのだが、難問揃いで優勝者の知の幅広さと深さに感服した。

エコノミクス甲子園を開催していただいた関係者各位に感謝を申し上げたい。本格的なクイズをなかなか体験できない中で、このような貴重な経験が出来たということは、私の今後の人生の糧になり、私がクイズを続ける上での原動力になっていくであろう。





いい出会い ふくらむ未来

百十四銀行

香川大会

12月9日(日)開催

主催 百十四銀行

参加校一覧 高松第一高等学校、香川誠陵高等学校、香川県藤井高等学校、香川県立高松高等学校、香川県立高松西高等学校、香川県立香川中央高等学校、香川県立観音寺第一高等学校、香川県立小豆島中央高等学校、香川県立丸亀高等学校

申し込みチーム数 28チーム (9校)

運営スタッフ感想 今年の香川大会は9校28チームの高校生にご参加いただきました。昨年のリベンジに燃える高校生も多く、早押しクイズは特に盛り上がりました。

決勝ラウンドでは、予選を1位で通過した高松高校の「ユークリッド」チームがその力を存分に発揮。なんと10問中9問正解で見事優勝を果たしました。

昨年も参加していただいた同チームは、暇があればテキストを熟読していたそうで、その姿勢にとっても感心しました。是非、全国大会では優勝目指してがんばっていただきたいと思います。

また来年も高校生が「参加してよかった」、「楽しかった」と思っただけのような大会にしたいと思います。

優勝チーム 香川県立高松高等学校
「ユークリッド」





香川大会代表 香川県立高松高等学校 2年
兼光 佑輔

1日目、新幹線で東京へ。東京には何度か来たことがありますが、今回ほど緊張感のある上京は初めてでした。エコノミカ大会には参加しませんが、オリエンテーションで全国から集まったライバルたちと顔を合わせて強い熱気を感じ、もう勝負は始まっているのだと感じました。

2日目のアクティビティ。エコノミクス甲子園で勝ち抜くためには、発想力やコミュニケーション能力も必要となることを思い知り、「これぞエコ甲」というところをまざまざと感じさせられました。プレゼンラウンドでは、短い時間の中で難しいテーマについて考え、話し合ってみて、質の高いプレゼンをするという、とても高度な能力が私たちに求められているのだと思いました。

プレゼンラウンド後には、前夜祭が開催されました。その中で、自分が交流した人たちの名前を記入した紙をビンゴカードとして使う、全国特産品争奪ビンゴ大会が行われました。初対面の人と話をするというのはあまり得意ではありませんが、ルールのおかげもあってか多くの方々とお話をすることができました。頑張っカードを準備した甲斐あって最後の商品（マニュアル生命様からのメープルクッキー！）を見事獲得することができ、とても嬉しく思いました。

前夜祭の後の本番前オリエンテーションでは、唐突に筆記クイズの実施が宣言されました。1日目のオリエンテーションでの説明から、筆記クイズは3日目の朝にするのかなとぼんやり思っていたので、今から筆記クイズをする、といわれた時には、ちょっと驚きました。スタッフの皆さんもバタバタしていて、運営する方々にとってもエコ甲は戦いなのだと思いました。

3日目。クイズラウンドは、地方大会より格段に難しいクイズ、難しいルールのオンパレードでした。第1ラウンドで勝ったものの、第3ラウンドではそのルールの特殊性をうまく利用することができず、むしろ苦しめられてしまいました。敗者復活ラウンドでも記憶違いからあえなく敗退し、そのあとは観戦する側になりましたが、面白いルールと難しいクイズの数々に、金融経済の奥深さを改めて実感しました。様々な行事も重なり、全国大会に十分な知識を備えて臨むことができなかつたことが非常に悔しいです

が、この3日間は非常に貴重な経験となりました。これからも経済については強く関心を持ち、金融知力をつけたいと思います。

最後になりましたが、大会を主催・運営してくださいました金融知力普及協会様、スポンサーの皆様、ならびに大学生スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

僕は今回エコノミクス甲子園全国大会に参加して全国レベルの戦いの厳しさを身をもって知ることとなりました。特に準決勝や決勝の問題は事前教材にも乗っていないものばかりだったため、ほとんど分からず、主体的に調べ学習をして勝ち進んできた皆さんには本当に頭が下がる思いでいっぱいでした。

また前日に行われたプレゼンテーション大会においては、「環境問題と経済を結びつける授業を提案する」という難しいテーマに苦戦しました。学校の授業でもプレゼンテーションを行うことはありますが今回は制限が多く、その中で独創的なアイデアを生み出すことは新鮮な経験となりました。その上で、一番大切なことは提案の内容よりもむしろいかにうまく自分の考えを伝えられるかということだということも学びました。自分の発表では一番の売りだった点について質問されてしまった一方で、決勝でプレゼンテーションをしていた班の方々は全員が提案の特徴と利点を交互にテンポ良く紹介している様子が印象的だったからです。

最後に、今回このような貴重な経験を積むことができたことへの感謝を述べたいと思います。加えて、これからはこの経験から得た教訓を糧に、自分が興味を持つ数学と経済を一層勉強して、両者の橋渡しをすることができる仕事を目指して精進していきたいと思います。

香川大会代表 香川県立高松高等学校 2年
阪上 俊介

僕は今回エコノミクス甲子園全国大会に参加して全国レベルの戦いの厳しさを身をもって知ることとなりました。特に準決勝や決勝の問題は事前教材にも乗っていないものばかりだったため、ほとんど分からず、主体的に調べ学習をして勝ち進んできた皆さんには本当に頭が下がる思いでいっぱいでした。

また前日に行われたプレゼンテーション大会においては、「環境問題と経済を結びつける授業を提案する」という難しいテーマに苦戦しました。学校の授業でもプレゼンテーションを行うことはありますが今回は制限が多く、その中で独創的なアイデアを生み出すことは新鮮な経験となりました。その上で、一番大切なことは提案の内容よりもむしろいかにうまく自分の考えを伝えられるかということだということも学びました。自分の発表では一番の売りだった点について質問されてしまった一方で、決勝でプレゼンテーションをしていた班の方々は全員が提案の特徴と利点を交互にテンポ良く紹介している様子が印象的だったからです。

最後に、今回このような貴重な経験を積むことができたことへの感謝を述べたいと思います。加えて、これからはこの経験から得た教訓を糧に、自分が興味を持つ数学と経済を一層勉強して、両者の橋渡しをすることができる仕事を目指して精進していきたいと思います。



伊予銀行

愛媛大会

12月9日(日)開催

主催 伊予銀行

参加校一覧 済美高等学校、松山東雲高等学校、愛媛県立松山西中等教育学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛県立松山工業高等学校、愛媛県立松山商業高等学校、愛媛県立松山南高等学校、愛媛県立小松高等学校、愛媛県立宇和島東高等学校、愛媛県立宇和島南中等教育学校、愛媛県立大洲高等学校、愛媛県立土居高等学校、愛媛県立南宇和高等学校、愛媛県立今治西高等学校、愛媛県立三崎高等学校、愛媛大学附属高等学校、愛光高等学校

申し込みチーム数 30チーム(17校)

運営スタッフ感想 愛媛大会の開催開始から今年で11回目を迎え、参加校も年々増え、高校生たちの金融・経済に対する興味・関心・知識が高まっているように毎回肌で感じています。特に今回は決勝ラウンドの所持金変動が複雑で、正直なところ「高校生たちはすぐに理解をできるのか」と思っておりました。しかし、蓋を開けてみると私たちが考えているよりもはるかに高校生たちの理解力は高く、そして真剣に金融や経済に向き合っており、とても感銘を受けました。毎回、参加生徒を募集する際にはもう少し知名度が上がればと思っておりますが、私たちも、高校生により身近な方法を模索しつつ、さらに「エコノミクス甲子園」を広められるように邁進してまいります。本大会を共催してくださった金融知力普及協会の皆さま、全国の地方大会の運営でたくさんのアイデアをくださった各行の皆さま、そして、第13回エコノミクス甲子園に参加してくれた愛媛県内の高校生の皆さま、本当にありがとうございました。

優勝チーム 松山東雲高等学校
「東雲α」





愛媛大会代表 松山東雲高等学校 2年
毛利 佳乃

いったいどんな人たちが集まっているんだろう一期待と不安を抱えた大会1日目の2月15日。除雪作業のため40分遅れて到着した飛行機に乗り、急いで会場に向かいました。残念ながらエコノミクス大会には間に合いませんでしたが、温かい湯船につかり、ゆっくり体を休めることができました。

2日目はおよそ半日に及ぶプレゼン大会があり、栃木と鳥取の高校生と仲良くなることができました。時間ギリギリまで考え抜いて作ったプレゼンでしたが、惜しくもファイナルステージには進出することができませんでした。その後に行われた前夜祭では、美味しい料理を食べながら、たくさんの来賓の方々や金融機関の方々、そして高校生たちと交流することができました。ピンゴ大会では、最後に沖縄の紅いもタルトを獲得することができて、とても嬉しかったです。

3日目、小ホールで催された大会では、前日のプレゼン結果と筆記クイズの得点を加味した予選順位がとても重要な役割を果たしました。第1ラウンドでは敗退してしまったものの、第2ラウンドで挽回し、準決勝に勝ち残ることができました。決勝に進むことはできませんでしたが、観客として楽しむことができました。やはり決勝戦はハイレベルで、どの高校も知識量がものすごく豊富であることに気づかされました。

来年は受験生なので参加することはできませんが、今回のエコノミクス甲子園では良い経験をすることができました。今まで支えてくれた相方、応援に来てくださった先生、銀行員の方、そして家族に感謝したいと思います。これからも金融・経済の勉強により一層力を入れて、尽力していきたいと思っています。

愛媛大会代表 松山東雲高等学校 2年
岡 しづか

「エコノミクス甲子園は、夢の舞台です。(中略)まさに夢のような体験が、待っています。」

この言葉は、第11回大会報告書のスタッフサブリーダーさんのご挨拶に書かれていたものです。昨年度の地方大会

前に読んだ時は正直あまりピンとこなかったのですが、2度の地方大会と今回の全国大会を通して、その言葉の意味を実感しました。

ただただ楽しかった初めての地方大会、そこから勝ちたいと思って努力し、優勝した2度目の地方大会。これだけでも夢のような体験でしたが、全国大会はさらに凄いものでした。

2日目のプレゼンテーション。並木中等、青翔開智のみなさんのコミュニケーション能力、リーダーシップ、論理的思考、発想力、そのすべてに圧倒され、終始受け身になってしまいました。何もできなかった申し訳なさ、悔しさは、忘れることのできないものです。それも含めて、仲間と議論し、これだと思ふ一つのものを作り上げることができた経験は、私の一生の財産になりました。並木中等、青翔開智のみなさん、本当にありがとうございました。

全国レベルを思い知らされた筆記テストを終え、迎えた3日目。運にも助けられ、準決勝まで進めたことは素直に嬉しかったです。2年間で身に付いたものが少しはあるんだなと感慨深かった一方で、分からない問題、知らない知識がまだまだあることも実感しました。

とある病気によってかなり訳ありな状態の私が、「エコノミクス甲子園の夢」を体感できたのは、応援してくださった先生方やクラスメイト、そして誰よりペアの毛利さんの存在があってこそです。本当に感謝しかありません。

これにて「エコノミクス甲子園の夢」は完結…、ではないと私は思っています。第11回大会のスタッフサブリーダーさんのご挨拶にもありました。「エコノミクス甲子園の夢は、スタッフになってからも続きます。」と。病気を治し、無事大学生になることができた暁には、私もスタッフとしてエコノミクス甲子園に恩返しができればと思っています。

最後に、「エコノミクス甲子園の夢」を作り上げてくださった金融知力普及協会の皆様、大学生スタッフの皆様、スポンサーの皆様、伊予銀行の皆様に、心より感謝申し上げます。





四国銀行

高知大会 12月9日(日)開催

主催 四国銀行

参加校一覧 高知県立高知西高等学校、高知県立高知小津高等学校、高知県立山田高等学校、高知県立安芸高等学校、高知市立高知商業高等学校、高知学芸高等学校、土佐塾高等学校

申し込みチーム数 22チーム(7校)

運営スタッフ感想 本年は18チーム36名が参加し、予選から決勝ラウンドまで熱戦が繰り広げられました。決勝ラウンドでは予選2位の土佐塾高校「フェニルアラニン」が優勝を成し遂げ、全国大会の切符を手に入れました。当日の様子は高知ケーブルテレビの年末30分番組で10回放映いただく他、地元新聞の記事にも掲載いただきました。

参加者の感想では「本大会への参加をきっかけにもっと社会や経済のことに興味を持ち、学んでいきたい」、「金融について興味がわいた」、「参加できて楽しかった」、「次回も参加したい」といった感想をいただき、スタッフも大変嬉しく感じております。今後もさらに多くの高校生に参加いただけるような大会にできるように趣向をこらしていきたいと思っております。

優勝チーム 土佐塾高等学校
「フェニルアラニン」





高知大会代表 土佐塾高等学校 3年
宮本 竜也

エコノミクス甲子園全国大会 1日目はエコノミカ大会でした。カード本体は事前に配られていたにもかかわらずここで初めてプレイしました。エコノミカは楽しいのはもちろん、金融経済の大切な考え方が自然にわかるようになっていて、同時に感心もしていました。結果は3戦2勝1敗で、抽選で景品もいただけたので満足です。

2日目にはプレゼンラウンドと筆記試験がありました。プレゼンラウンドではあるお題に沿ったプレゼンを制作しました。結果から言ってしまうと2敗してしまったのですが、そこからプレゼンとチームで物事を動かしていくことに関するとても良い知見や教訓を得たので個人的には良い体験になったと思っています。筆記試験はとても難しく、自分の勉強不足を思い知りました。

3日目にはクイズラウンドを行いました。第1ラウンドでは予選下位で不利なのにもかかわらず勝利し、第三ラウンドでも運と実力で勝ち準決勝に進むことができました。残念ながら準決勝では敗退してしまったのですが、自分より学年が下の優秀な高校生を見ることができて、自分ももっと精進せねばと自らを見つめ直すきっかけにもなりました。

全国大会では全国の優秀な高校生と交流してとても楽しく、それなりの実績も残すことができて満足です。そして地方大会、全国大会ともにいえることは金融経済の知識を深める大きなきっかけになったということです。金融経済の知識はどのような分野に進んだとしても必要になってくるとは思われますが、この大会をきっかけにして学んだ知識はこの先の人生でとても役に立つと思います。

高知大会代表 土佐塾高等学校 3年
籠尾 健太郎

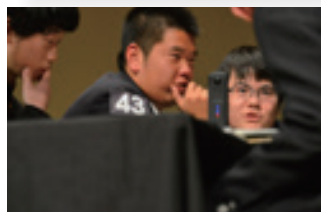
私が今回のエコノミクス甲子園に参加したきっかけは少し特殊で、友人の代理として出場してくれと打診されたことでした。私は元々政治・経済という教科が得意だったこともあり、2年ほど前からこの大会の存在を知っていましたが、部活に打ち込んでいた当時の私に出場するという考えは思い浮かびませんでした。しかし部活を引退した今な

ら、実力を発揮出来るのとは思い二つ返事で了承しました。緊張とワクワクが入り混じったような気分で出発し、何とかルールを覚えて1日目のエコノミカ大会に参加しました。私は運動部として全国大会に出場した経験があったのですが、そこには全く違った努力した人々がいてとても新鮮に映りました。

2日目は良い成績は残せませんでした。同じ四国勢の徳島城東高校や後に優勝する藤島高校、筆記1位の大阪星光学院と、レベルの高いプレゼン班で良い刺激を受けることができました。前夜祭の後の筆記試験では全国大会のレベルに衝撃を受けました。

遂に最終日の3日目、予選順位は43位だったので思い切って答えようと心がけると、運が回ってきたのか実力か、あれよあれよと言う間に準決勝に進出しました。2日目に続いてそこでもレベルの高さに打ちのめされた気分で結果も出せませんでした。楽しかったです。

私は今大会全体を通して、金融と経済をこの時期に深く学ぶことは人生に良い影響を与えると感じました。既に高校を卒業しており、エコノミクス甲子園には出場出来ませんが、身近な人に大会を知ってもらうなど金融知力の普及に貢献したいと思っています。





北九州銀行

福岡大会

12月9日(日)開催

主催 北九州銀行

参加校一覧 久留米信愛女学院高等学校、久留米大学附設高等学校、大牟田高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、福岡県立修猷館高等学校、東福岡高等学校、福岡県立小倉高等学校、福岡県立東筑高等学校、福岡県立福岡高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校、福岡雙葉高等学校、筑陽学園高等学校

申し込みチーム数 30チーム(12校)

運営スタッフ感想 過去最多の13校、30チームの参加をいただきました。学生たちの熱気が激しく、盛り上がりも過去最高でした。

優勝チーム 福岡県立福岡高等学校
「ザ・普通の人達」





福岡大会代表 福岡県立福岡高等学校 2年

向 俊 介

今回エコノミクス甲子園に参加して、きちんと勉強することや周りとの協力して問題解決に取り組むことの重要性を痛感した。

なぜこのように感じたか、それは準決勝敗退の理由と大きく重なる。もっと勉強して紙で点を稼げたら、プレゼンラウンドでももう少し協力していいものを作っていたら、判定で決勝に進めたかもしれない。そもそも正解にたどりつき最後の一枚を失わなかったかもしれない。一度きりの大会、あのときはあまり気にしていなかったが、後になって少し後悔してしまった。もし後輩がまた地方大会に挑戦するならば、この点を強調して伝えたいと思う。

問題の難易度だが、紙では自分の理解の甘さをひしひしと感じ、全体通してはとれる問題もあり楽しかった。より金融知力を深めて、来年大会中継があれば全問取れるような知識を手に入れたいと思った。

他に、大会全体を通して、他県の優秀な学生の皆さんと短い間ではあったものの共に過ごすことが出来、色々な刺激を受けた。自分より考えるのが早い人、論理的に物事を組み立てられる人、素早く要点を見抜く人など、枚挙に暇がない。今回感じたことを糧にして、これから一年間自分の進路実現に向けて努力していきたい。

福岡大会代表 福岡県立福岡高等学校 2年

中 川 隼 太

「世間は広いし、強い人は無限にいる。」これがエコノミクス甲子園 1 日目に参戦しての感想を一言に凝縮したものである。私は全国大会には出場できたものの、相方に依存している部分が非常に多かったため実際のところ大した能力はない。ところが、到着してみると周りにいるのは名だたる高校の精強なライバル達で、練り広げられている会話も非常に高度なものであった。また、ボランティアスタッフの方々の名札を見ても東京大学を筆頭に名門とされる学校名ばかりが目についた。この時点で私はかなり気圧された。それと同時に「劣っているなりにできる限りのことをしよう。」という決意も固めた。移動の疲れもあったので、予定していた勉強は取りやめて早めに入浴、就寝した。

そして迎えた 2 日目。同室が福井県代表だったのである程度何が行われるかは把握していたので心の準備はできていたが、いざやってみるとなると初対面のチームで 1 つのものをつくることは非常に難しかった。残念ながらくじ運には恵まれず、グループの半分はほとんど何もしないような有様であったので勝利は絶望的だった。実際にプレゼンはグダグダになってしまい、目も当てられない惨状であった。敗因はプレゼンを担当した 2 組が話し合いの内容を全くと言っていいほど理解していないことだった。旗判定で 2 試合とも大敗を喫したが、相手チームへの質問と審査員からの質疑応答で 1 本だけ旗がとれたので個人的にはやるべきことはやった感すらあった。まあ、負けは負けなのだけれども。

ホールに移動してからの 1 番の驚きは環境大臣の登場であった。政府系の来賓があること自体は予測していたがまさか現役の閣僚が来ることまでは読めておらず、啞然とすると同時にそのために大会役員の皆様方が費やした労力を想像し、感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。そして、いざ大臣が登壇して有り難いご挨拶が始まったのだが、その長いことといたらそんじょそこの校長先生の比ではない。内容自体は午前中に聞いたユーグレナ社長による基調講演とは対照的に薄っぺらく、要点もはっきりせず、普段生中継中に居眠りをしている国会議員の味わっている感覚を疑似体験できるなかなか貴重な機会ではあった。立場的に誰も話を止めることができない状況の中で延々と喋り続ける大臣からは、自分を客観的に見つめて「今どうあるべきか」を考えることの大切さを学んだ。決勝のプレゼンに関しては優勝チームの発表が明らかに飛び抜けたクオリティであったので予想通り、といった感があった。我々のチームが割愛した計画の詳細までしっかりと構成されており、率直にすごいと思った。


その後ドタバタで始まったパーティーは、コミュ障の私にはなかなか辛いものがあったが、なんとか何組かのチームと顔見知りになる程度の交流はできたのでホッとした。ビンゴ大会で青島せんべいが当たり、相方も「かるかん」と書かれたパッケージに入った「どら焼き」を当てたので割合愉快的気分ですべてを終えることができた。この日の夜はなかなか眠れなかったと記憶している。

同室の福井代表は日付を跨いで勉強しており、私もそれに合わせてガラガラと起きていた。2 度目の修学旅行のようでなかなか楽しい時間であった。

そして迎えた最終日。無事に寝坊を回避し、手早く出発の準備を済ませてある程度余裕をもって行動していた我々は精神的には割合安定していたように思える。

予選第 1 ラウンドは、前半の組の問題が簡単だったので楽勝かと思われたが、我々の組では少し難易度の高い問題が出題され、焦った。ただ、相方のファインプレーによって 2 問とも回収できたのでホッとした。続く第 2 ラウンドに関しては前半の組の正解が日経平均株価だったので、易問であるという予想が見事に当たり、また運も味方して何とかクリアできた。他のチームは昼食休憩の間に同盟を組もうと交渉しており、我がチームはそれに参加しておらず若干の不安要素もあったのだが、結果的にその同盟がかえって我々に味方したので世の中とはなかなか皮肉なものであると感じた。



このまちで、あなたと
 **佐賀銀行**

佐賀大会

12月1日(土)開催

主催 佐賀銀行

参加校一覧 弘学館高等学校、佐賀県立鳥栖商業高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、佐賀県立佐賀商業高等学校、佐賀清和高等学校、佐賀学園高等学校

申し込みチーム数 9チーム (6校)

運営スタッフ感想 参加チーム数は8と少なかったものの、観覧者や応援の方々多く、大変盛り上がりしました。また優勝した「えこのみ焼き」チームは予選・決勝ともに他を寄せ付けない戦いぶりや参加者やギャラリーから驚きと感心の声があがっていました。さらに、当日誕生日の参加者にはサプライズでケーキが用意され、記憶に残る大会となったと思います。
 「問題が難しかった」との感想がいくつか見受けられましたが、だからこそ「勉強をしなければ」と感じた参加者も多く、金融知力に対する興味関心を喚起するきっかけ作りとしてぴったりの大会でした。
 次回は多くの高校生に参加いただき、楽しくて為になる大会に作り上げていきます。

優勝チーム 弘学館高等学校
 「えこのみ焼き」





佐賀大会代表 弘学館高等学校 2年 城 正 人

今回僕はエコノミクス甲子園に参加し、多くのことを体験できました。

中でも特に衝撃を受けた事は、準決勝においての、派閥闘争しつつ、仲間と騙し合う出世競争ゲームです。

第9問目、僕の得意分野である相場に関する問題が…その時自分のチームの持ちイースは一つ、栃木県チームを追い落とす必要がありました。栃木県チームの回答を誤解答に誘導し、第10問目に正解すれば、決勝目前！でした、しかし、10問目選択肢がよくわからず不正解、共倒れしてしまいました。

栃木県チームさん、騙してごめんなさい(笑)

去年も出場したこの大会去年の悔しさをから、1年かけて準備した結果、地方大会では完全に他チームをオーバーキルしての圧倒的勝利優勝にはかなり自信があったので第10問目の選択肢が分かっていたら…と今でも悔しさを感じます。

今回出場して、2回目ということもあり大学生スタッフさんと、もちろん他の参加者とも沢山喋らせていただきました。今回のエコノミクス甲子園において日頃の学校生活では体験し得ない貴重な経験を積ませて頂きました。

引率していただいた佐賀銀行の宮崎さん、協賛各社の皆様、大学生スタッフの先輩方このような貴重な機会を設けていただきありがとうございました。

これからの生活に金融知力を生かしていきたいと感じました。



佐賀大会代表 弘学館高等学校 2年 前 山 佑 樹

【感想文未提出】





18ank 十八銀行

長崎大会 ————— 12月2日(日)開催

主 催 十八銀行

参加校一覧 長崎県立諫早高等学校、長崎県立口加高等学校、長崎県立五島高等学校、長崎市立長崎商業高等学校、長崎南山高等学校、精道三川台高等学校

申し込みチーム数 11チーム (6校)

運営スタッフ感想 今回で9回目となる長崎大会は、精道三川台高等学校「とーふ」が優勝しました。「期末テストの勉強をしながら取り組んだ」という高校生が多い中、筆記クイズから高得点の争いが見られました。決勝ラウンドでは、デッドヒートを繰り広げ、逆転に次ぐ逆転で白熱した試合展開となりました。「弱肉強食」「格差是正」の選択による獲得点数が表示されると、決勝ラウンド進出チームは一喜一憂し、会場も大いに盛り上がりました。高校生のみなさんはもちろんのこと、当行スタッフにとっても、楽しい大会となりました。今後もさらに多くのチームに参加いただき、盛り上げていきたいと思ひます。

優勝チーム 精道三川台高等学校
「とーふ」





長崎大会代表 精道三川台高等学校 2年
ティアニー レジー 潔

私は、この度の第13回エコノミクス甲子園に長崎代表として参加させていただきました。昨年の地方大会では他の高校に圧倒的な力の差を見せつけられなす術なく敗退してしまいました。この経験を踏まえ今回の大会ではしっかりと下準備を行いました。その結果、地方大会で優勝することができました。

全国大会を通じて「社会」や「経済」の理解を深めることができたように思います。

全国大会で特に印象に残っている2つあります。1つ目は、2日目のプレゼンテーションです。プレゼンの中で「自分の未熟さ」や「コミュニケーションの無さ」を痛感しました。意見があるのになかなか自分の言葉で言い表せないことや焦りなどでなかなか考えがまとまらず悔しいも思いをしました。プレゼンの決勝を見ている時、「どうしたらあんなアイデアが思いつくんだろう。」と思いました。

もう1つは、3日目に行われた第2ラウンドです。そこで自分のチームは準決勝に上がることができるノルマは達成したものの、筆記とプレゼンテーションの総合得点で相手に負けておりこれが反映されたことで敗退してしまいました。この時僕は、これこそが「全国大会の壁」というものにおち当たった気がしました。

結果は残念だったけれど、全国大会に出場できて本当に良かったです。これからの人生にも今回学んだこと、経験したことを生かしていきたいです。大会運営に携わってくれた方々本当にありがとうございました。

長崎大会代表 精道三川台高等学校 2年
小川 貴文

今回のエコノミクス甲子園、相方の相方が地方大会に出場できなかったため、私とその代理として出ることになり、地方大会決勝のルールと問題の順番がうまくかみ合わさって全国に出場する事ができ、大変幸運だったと思う（が、おそらくこの時運を使い果たした）。

しかし、出場のきっかけが前述の通りだったため、私は経済に関して勉強しようという気があまり起こらず、準備不十分なまま全国を迎えたが、いざ始まると私は自らの過

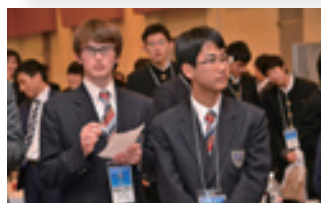
去の行動を悔やんだ。

全国大会1日目、学校を早退できる喜びをかみしめながら飛行機に乗り、エコノミカ大会で早くもぼこぼこにされながらもワクワクしており、2日目、出雲社長による見事な基調講演までその気持ちは続いていたのだが、プレゼンテーションで自らの無力さをかみしめ、その後の前夜祭で少し気持ちがほぐれたものの、さらにその後、よくこれで全国に行けたな、と思うほどボロボロな筆記を終え、自分は今まで何をしていたのだろうと過去の自分を殴りたくなった。胃がキリキリと痛んでいた。

という事で、知識を求めようとしない、真っ先に詐欺にあいそうな人間であったことを2日目の終わりに後悔し、そして、ここまで来たら、と開き直り、3日目のクイズに臨んだが、どのラウンドも、もう少し勉強をしていたら…と悔やむ内容となり、全国大会を終えた。

これを書いている今でも地団太を踏みたくくなるような悔しさに満ち溢れているが、予選〇〇位（書けない…）を挽回するためにも、是非、来年度も出たいと思う。

一緒に戦いあった選手の方々、あなた方のおかげで目標を持つことができた、ありがとう。そして最後となったが、このような機会を設けてくれた協会の方やスタッフの方々、スポンサーの方々、十八銀行さんに心からの御礼を申し上げます。





明日の夢 人から人へ
宮崎銀行



輝き ふれあい

宮崎太陽銀行

宮崎大会

11月18日(日)開催

主催 宮崎銀行、宮崎太陽銀行

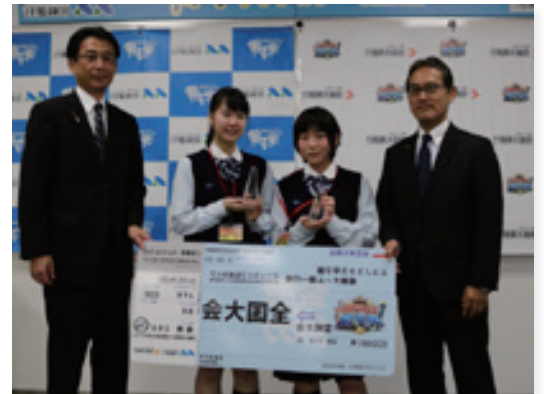
参加校一覧 宮崎第一高等学校、宮崎県立都城西高等学校、宮崎県立小林高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、宮崎県立宮崎商業高等学校、宮崎県立宮崎南高等学校、宮崎県立宮崎北高等学校、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

申し込みチーム数 24チーム (8校)

運営スタッフ感想 今回で7回目となる宮崎大会は、前回は上回る22チームが参加しました。予選から決勝ラウンドまで、白熱した試合展開となり、今年も大いに会場を沸かせました。優勝チームは、宮崎第一高校2年生チーム「チームCEO」。泣いて抱き合う優勝チームの姿に、何とも言えない充足感を感じました。

参加いただいた高校生、見守っていただいた観覧者、そして、司会のアナウンスやスタッフのサポートにより、手作り感あふれる大会になりました。

優勝チーム 宮崎第一高等学校
「チームCEO」





宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 2年
松岡知優

自分の成長に繋がる、とても充実した3日間でした。11月に宮崎大会で優勝し、勝った喜びに浸る間もなく全国大会への準備を始めました。さらに選手宣誓をするという今後一切無いだろう有難い機会を頂きました。そのまま月日は流れ大会当日、期待がありつつも不安と緊張でいっぱいなまま、東京へと向かいました。

1日目はエコノミカ大会で全国から集まった高校生と親睦を深めました。気さくに話しかけてくれた代表の皆さんには本当に感謝しています。

2日目は貴重な講演を聞いた後、プレゼン作成、前夜祭に参加しました。プレゼン作成では課題の本質を捉えることに時間を使ってしまい、プレゼン内容に十分な満足感を得られず悔しい部分がありました。ですが、人と協力し、評価されるものを作っていき楽しさを感じ、また、新たな視点を身につけることができました。この経験は今後必ず生きていくと信じています。前夜祭では金融機関の第一線で活躍されている方々とお話することができ、大変刺激を受けました。また、高校生限らず、様々な方と親睦を深めることができました。高校生の皆さんと3日目の本戦で敵同士になるのかと思うと少し胸が痛いように感じました。プレゼンに前夜祭と盛り沢山な2日目でしたが、疲れもピークに達した夜に筆記クイズという、恐るべし全国大会。準備不足もあり、プレゼン同様、これまた満足できない結果になってしまいました。

そして3日目。早押しクイズラウンドでは奇跡的に湘南高校に勝つことができ、3ラウンドに進むことが出来ました。3ラウンドでは勝負所で攻めることが出来ず、敗退となりました。大会が終わった今でも、あのときああしておけば...と思うところが尽きません。各ラウンドで正解を重ね続けるチームを見て、自分の力不足に情けなく、相手にも申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、失敗をしたからこそ、負けたからこそ得たものがあります。そしてそれらは私にとってかけがえのないものになりました。今からの私の役目は、得たものを後輩に繋げることです。私の学校には期待できる後輩がたくさんいます。だからこそ、私が持っているもの全てを利用して欲しい、そう思います。

最後になりましたが、この大会に出場出来たのも、地方

大会を開催してくださった皆様をはじめ、エコノミクス甲子園スタッフさん、応援してくださった皆様のおかげです。心から御礼申し上げます、ありがとうございました。

宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 2年
酒井慎季

今回、私がエコノミクス甲子園に参加して思ったことを挙げていきます。

1つ目に、この大会は経済を学びたいと思っている人にすごく良い大会だと思います。地方大会でも全国大会でも良質な事前学習教材が配布され、大会では普段入れない金融施設に入れます。全国の経済に興味のある人、詳しい人にも会えます。私自身大会に参加する前の1年生の頃は経済のことを一切知りませんでした。しかしこの大会で多くの経済の知識を得ることが出来ました。

2つ目に、学生スタッフの方がすごく面白くて優しく、熱心に活動されている印象を受けました。SNSで学生がボランティアで運営に携わっていることは知っていましたが、過去に大会に参加した先輩方とは知りませんでした。先輩方のてきぱきと動く姿や楽しく協力して働く姿を見て、私も大学生になったらこのような先輩みたいにスタッフをしたいと思いました。

3つ目に経済とは関係ありませんが全国に面白い友達が出来ます。エコノミカ大会や立食パーティーなどたくさん話す機会があって学校では会えないような興味深い人に会えました。もし将来経営をしたいという人がいたら経済に詳しく頭のきれる友達を作る絶好のチャンスだと思うのでこの大会に参加して友達をたくさん作ることをおすすめします。

最後に、エコノミクス甲子園に出場することでたくさんのものを得ることが出来ました。エコノミクス甲子園を開催してくださった方々本当にありがとうございました。





はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行

Kagoshima Bank

鹿児島大会

12月16日(日)開催

主催 鹿児島銀行

参加校一覧 鹿児島第一高等学校、鹿児島県立鹿屋高等学校、鹿児島県立鹿屋工業高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、鹿児島県立明桜館高等学校、鹿児島県立川内高等学校、鹿児島工業高等専門学校、霧島市立国分中央高等学校、ラ・サール高等学校

申し込みチーム数 18チーム (9校)

運営スタッフ感想 初参加校が3校あり、盛り上げてくれた。特に鹿児島第一高校「ちりめんざこ」は準優勝と大健闘であった。初参加予定であった鹿屋工業高校の女子チームが体調不良のため不参加となったのは残念であった。決勝ラウンドはラ・サール高校3チームとそれ以外の勝負となり盛り上がった。順位が再三入れ替わりながら、最後はラ・サール高校「オロナミン」が逃げ切った。昨年の全国3位の先輩の雪辱を晴らすべく、既に気合十分のチームだ。

優勝チーム ラ・サール高等学校
「オロナミン」





鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 2年
崎田 浩太郎

今回、第13回エコノミクス甲子園全国大会に参加出来たことをとても嬉しく思います。感想文ということですが、振り返りを交えながら感想を述べていただきます。

僕らは当然、他の方々も同じでしょうが、優勝を目指して東京に乗り込みました。

プレゼンテーションラウンドでは、札幌南高校、山形東高校、水口東高校の方々とともにプレゼンテーションを作成しました。初対面の人と共同作業をすることはとても斬新で、初めは緊張したものの打ち溶けて楽しく制作できました。しかし、結果は初戦敗退。幸先の悪いスタートを切りました。

プレゼンテーションラウンドの決勝では環境大臣がいらっしゃるなどと豪華なゲストに驚きました。その後の立食パーティーではエルサルバドル出身インターナショナルスクールの先生に話しかけたりと、他校の人だけでなく、証券会社や銀行員の方々とも話すことができ、多くの得るものがありました。

ペーパーは点数があまり思うように取れませんでした。プレゼンテーションラウンドの巻き返しを図ったものの失敗してしまいます。

1Rでは、今年の高校生クイズで一緒した松本深志高校のペアと早押しとの対戦ができるという事で楽しみにしていました。結果は僕らが「フランス語で『なすに任せよ』』という押しで「レッセフェール」と正解。いつものクイズ研究会での活動のような押しを決めることができ、興奮しました。

2R、僕らは客席から見ていたのですが、これで抜けたら準決勝行けるんだったら3Rではなくこっちに参戦したいと思いました。また、このラウンドを抜けて決勝に進んだチームがあったとしても、パワーバランスに大きな差が出るのではないかと心配もしました。

3R、昼食を食べながらルールを知ったとき、正直、早押し負けたほうが簡単に準決勝行けるんだなって思いました。これまでのエコ甲では正解すればするほどアドバンテージも貰えるルールのようなので驚きました。僕らに回ってきた3つのヒントは「この呼称は日本以外では通用しない」「同時期にメルリンチ社も買収された」「ある企業の

名前からこう呼ばれる」というもの。抽象的でありダイレクトにキーワードにたどり着けるヒントではありませんでした。2問目の僕らの選択段階で勝ち抜け枠のうち3つが埋まっていて僕らは確信できる答えは分かっていませんでしたが強引に解答、僕らは不正解、他チームの正解、僕らの敗退といった流れでした。他チームは「住宅ローン」などについてのヒントが入った神クジもあったようで、運を引き寄せられなかった事を非常に悔しく思っています。

準決勝では、灘高校が他のチームを欺くプレイで決勝進出を決め、とてもカッコよかったことをよく覚えています。世間との競争もあり、また個人同士での競争もあるというルールはとても興味深くプレイしたかったです。また、問題を聞いて分からないものも何題もあり、難易度は決勝より高いものではなかったでしょうか。

決勝。とても見ていて辛いものがありました。

「自分たちが客席から見ていて分かる問題を落とす決勝進出チームを、何も出来ず見ているだけという状態」

「何故48チーム中の8チームに僕らが入っていないのか」モヤモヤを抱え、半ば苛つきながら決勝を観戦していました。

来年またリベンジとしてエコノミクス甲子園に参加したいところではありますが、この体験をもとに、これから頑張っていこうと思います。

この度はこの様な貴重な体験ができる場を設けていただき、誠にありがとうございます。まだまだ書きたいことは山ほどあるのですが、ここで筆を置かせてもらうことにします。

大学に入った暁にはスタッフとしてエコ甲に関われたらと思っていますので、その時はまたよろしくお願ひします。

鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 2年

高山 祐輝

1日目、ついに来るべき日が来た。

私たち2人が2学期と冬休み、1月を全て掛けて準備してきたエコノミクス甲子園へ出発する日だ。この日をどれだけ心待ちにしたことか、話し出すと文字数が足りないので割愛する。

昨年、先輩方が出場なさるといのでなんとなく出てみたエコノミクス甲子園。結果は地方大会4位というものであった。その後、先輩方は全国3位まで進み、私達が教材を受け継いだ。優勝への期待とともに。

1、2学期は高校生クイズなどに気がとられうまく勉強できなかったが11月頃から徐々にスイッチを入れ、12月16日の地方大会、最後に判断ミスをしてしまったがなんとか優勝、全国大会へのキップを手に入れた。

冬休みは、一日4時間ほどを費やして勉強した。やり過ぎていやになるほどだった。大会側からの教材、ifinance(金融系の単語が多く乗ったインターネット上の事典。全6468語)などをやった。そうして苦しいながらも準備してきた。行きの飛行機の中でそのようなことを考えていた。

その後、会場に到着。エコノミカ大会。たった20分で作った急造デッキでまさか準優勝できるとは思わずうれい限りであった。

その後、オリエンテーションを受けて宿泊施設へ。私達



は岐阜高校と相部屋であった。

2日目、午前6時30分起床。今日はエコノミクス甲子園の結果がほとんど決まると言っただけのプレゼンテーションラウンドだ。緊張感のなか集合する。まず、ユウグレナの出雲さんの講演があった、目標の実現には大量の試行回数が必要であり、これを実現するにはメンター×メンターとの約束によって決まるという貴重なお話を頂いた。今思うと、ここで質問するほどの度胸があったらと思う。その後プレゼンテーションラウンドへ。

私達はFグループで札幌南、水口東（滋賀）、山形南高校と共同であった。今回のテーマは「中学生に経済と環境の両立の難しさを伝える授業案」というもの。率直な感想としては難しい。互いに議論をしながら案を練っていく。案を練りに練ったので練習もできないまま本番へ行った。悲しい。悲しいことに負けてしまった。しかし悔いは無い。なぜなら協力するだけで意見も出せるだけ出したからだ。

プレゼンの決勝は審査員が、予選の銀行員から、会社の社長などへ変更、その中に環境大臣がいらっしゃいました。貴重なお話しありがとうございます。

決勝のプレゼンはD,E,Hの三班。形は整っていて見やすかった。その後、金融機関の方々と立食パーティー。その中で大和証券の方とお話をする機会を頂いたり（日本人の金融リテラシーのなさを嘆いていました。皆さん、勉強しましょう。）、ミッションスクールの先生とお話をしたりしました。宴も酣のころ、私達はオリエンテーションと称して移動させられ、筆記試験を受けた。例年と傾向が変わってかなり悲惨な難易度でボロボロ。そして、その沈んだ心の中オリエンテーションを受けて解散。眠ったのは24時過ぎ。

3日目、最終日。世間一般では休日。エコノミクス甲子園最終日。今日結果が決まる。朝ご飯もおいしく食べて開場へ。集合写真を撮って廊下に待機させられ、対戦相手の松本深志高校と話をしながら開会の瞬間を待ち、ついに開幕。

第1ラウンドは早押し。刻一刻とほかの高校が呼ばれている中緊張して待ちます。

そして、ついに私達の番。レッセフェールを答えて何とか通過。ギリギリの早押しであった。3回戦進出。お昼ご飯の前に2回戦を観戦。1回戦の敗退校が進出した2回戦の観戦を終え、昼食へ。

昼食中に3回戦のルール発表。囲い込んだ方が有利なルールなので囲い込みと根回しが始まった。今思うと、自分たちさえ勝てればいいと言った狭い考え方で身内だけの囲い込みをしたことが神の怒りに触れたのだろう。なぜ、独占禁止法があるのか考えるべきであった。

3回戦。運が着いていなくて敗退。やってきたヒントの難易度が高すぎた。とても悔しい。しかし、しょうがないと思う。

私たちはここで敗退してしまいましたが、後輩たちには是非とも優勝して欲しいと思う。

こんなことを帰宅途中のバスの中 一 周りは暗い。10時30分頃だし当たり前か 一 で考えた。

最後になりますがこのような素晴らしい大会をありがとうございます。これからも経済を勉強して行きたいです。







沖繩銀行

沖繩大会

12月8日(土)開催

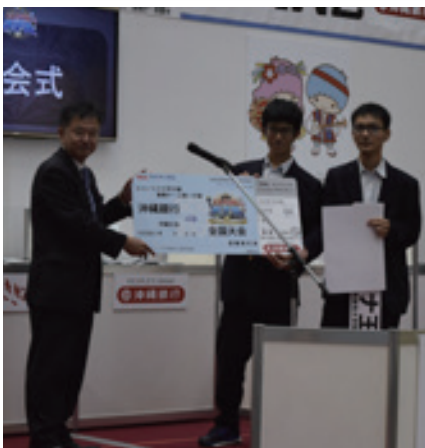
主催 沖繩銀行

参加校一覧 昭和薬科大学附属高等学校、沖縄尚学高等学校、沖縄県立具志川商業高等学校、沖縄県立具志川高等学校、沖縄県立向陽高等学校、沖縄県立小禄高等学校、沖縄県立球陽高等学校、沖縄県立豊見城高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄県立開邦高等学校

申し込みチーム数 47チーム(10校)

運営スタッフ感想 当日の参加は10校42チームでした。早押しクイズではどのチームも積極的に早押しのボタンを押し一生懸命答えている姿が印象的でした。決勝ラウンドの「ビルトインスタビライザークイズ」では、正解したとしても他のチームが全て正解していると一気に得点がマイナスになる等、得点の変動が激しく知識だけではなく戦略も必要であり大変盛り上がりました。ショッピングセンターにて開催したということもあり、参加している高校生のご家族や友人等多くの方が観覧しており、会場は熱気に包まれていました。優勝したチームは昨年に続き2回目の出場で見事全国大会への切符を手に入れました。参加された皆様、ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。次回の大会も盛り上がる仕掛けを考えて多くの方が楽しんで参加いただける地方大会運営を目指します。

優勝チーム 昭和薬科大学附属高等学校
「モナ王軍団」





沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 2年
高良 厚公

「エコノミクスって経済って意味だっけ？」大会に初めて参加した高1の自分はその程度の認識でした。その時の大会の結果は芳しくなく、来年こそは全国大会に出ると決意しました。そして、今回参加できたことを嬉しく思います。

全国大会初日、学校を休み飛行機で東京へ行き、東京証券取引所の見学。テレビでおなじみの光景にテンションがあがりました。そのテンションのまま会場に到着し、エコノミカ大会が始まりました。そこそこ勝てたので、もしかしたら賞品が貰えるのでは、と期待するも入賞には遠く及ばず…。けれど、ここで大会の雰囲気を感じて良かったです。緊張がほぐれました。

2日目、この日はユーグレナの社長さんの講演会と自分達のプレゼンをしました。プレゼンはなかなか案が出せず、チームで奮戦するもよい結果は残せず。プレゼン決勝グループの発表は素晴らしく、同じ高校生とはとても思えなかったです…。その後すぐ夕食に。夕食と並行してビンゴ大会をやるも、当選せず落ち込みました。夕食後、急遽ペーパークイズを実施。難しくて全く歯が立たず、全国大会の厳しさを知り、焦りが出てきました。

3日目。第1ラウンドの早押しで敗れるも、第2ラウンドで予習してきた内容が出題され何とか勝ち抜け。準決勝へ。準決勝の問題はかなり難しく、そもそも聞いたことがない単語ばかり。決勝へは実力が足りず進めなかったです。優勝チームの知識量の多さを見て、まだまだ勉強が足りない実感しました。この3日間は今まで経験したことが無いことばかりで、凄く楽しかったです。相手と来年リベンジしたいと思います。

沖縄大会代表 昭和薬科大学附属高等学校 2年
伊 礼 漢

エコノミクス甲子園全国大会を通して、私が学んだことは2つある。

1つ目は、高校生は主体性を身につける必要があるということだ。今回、周りが初対面の人ばかりだという人が大半だったと思う。しかし、それに動揺している人はほとんどいなかった。質問時間では積極的に手を挙げ、プレゼン

制作では自分の意見を前面に押し出し、発表の時は自信に満ち溢れているように見えた。中には、休み時間にいろいろな高校生に声をかけて、大きなネットワークを作ろうとしている人もいた。これらの高校生に共通することは、「恥」を全く見せていないということだろう。人から注目されることに対して何も気にしていなかった。これが私と違うところだ。たかが学校でも発表できないのが馬鹿らしかった。日本中の高校生の前で喋れる高校生がいるなら、自分もできないとおかしい、そう思わせてくれた。

2つ目は、金融知力がどれほど大切かということだ。私はこのクイズ大会に参加する前まで、経済＝投資というイメージが強かった。確かに投資の面も広いことは事実だが、しかし経済とはそれだけではなかった。預金をしたり、保険に入ったり、クレジットカードを使ったり、身近にあるがまだ経験したことない経済が多く存在する。それらはもうすぐ私たちにも直接的に関係してくる。そのために、今からでも経済のことを学ぶ必要は十分にあるのだ。理由はそれだけではない。視点を世界に向ければ、経済の知識が不可欠だということはすぐ理解できる。これらも全てこのエコノミクス甲子園を通して学んだことだ。

高校生だからといってまだしなくて良いなどということはない。自ら主体的に行動する基礎を作ったり、将来必要な知識を身につけたり、今からでもできることは沢山ある。それらを達成すべく、全国の高校生に負けずに私も努力しようと思えた3日間だった。





住信SBIネット銀行

インターネット大会 ————— 12月16日(日)開催

主催 住友SBIネット銀行

参加校一覧 鹿島学園高等学校、鶯谷高等学校、静岡県立御殿場南高等学校、青雲高等学校、開成高等学校、豊島岡女子学園高等学校、西武学園文理高等学校、茨城県立竹園高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、群馬県立中央中等教育学校、福井県立敦賀高等学校、熊本県立熊本高等学校、熊本県立八代高等学校、江戸川学園取手高等学校、栃木県立那須拓陽高等学校、暁高等学校、和歌山県立新宮高等学校、名古屋高等学校、北陸高等学校、八王子学園八王子高等学校、佐賀県立唐津東高等学校、京都明德高等学校、三重県立伊勢高等学校

申し込みチーム数 29チーム (23校)

運営スタッフ感想 今回で7回目の開催となるインターネット大会では、マイナス金利や他業種からの銀行業界参入など現在の金融業界を取り巻く環境について幅広く出題いたしました。インターネットを通じての大会ですので、他の大会と違って非対面での開催となりますが、皆さんの高レベルな解答を見て、熱心に取り組まれている皆さんの姿が目につかぶようでした。この大会をきっかけに金融経済に興味を持って理解を深めて頂ければ、大会実施者として大変嬉しく思います。

ご参加いただいた高校生の皆さま、開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、本当にありがとうございました。

優勝チーム 群馬県立中央中等教育学校
「Yukichi」

全国出場チーム 茨城県立竹園高等学校
「まだし」

※優勝した群馬県立中央中等教育学校は、群馬大会の優勝校でしたので、規定により準優勝の茨城県立竹園高等学校「まだし」チームが全国大会出場となりました。

1位	群馬県立中央中等教育学校 <small>(177点)</small>	151pt
2位	茨城県立竹園高等学校 <small>(167点)</small>	125pt
3位	豊島岡女子学園高等学校 <small>(157点)</small>	115pt
4位	三重県立伊勢高等学校 <small>(150点)</small>	106pt
5位	栃木県立那須拓陽高等学校 <small>(147点)</small>	100pt





ネット大会代表 茨城県立竹園高等学校 2年
林坂 勇希

昨年は茨城県の地方大会においてあっさり予選落ちしてしまい、その悔しさから、今年こそ！と、まずは地方大会に申し込もうとしました。しかし同時に申し込みをした同じ学校のもう1チームの方でちょうど締め切られてしまい、私達はインターネット大会で参加しました。そして、そのもう1チームと切磋琢磨して経済の勉強をしてそれぞれの大会に臨みました。インターネット大会では、事前に3つの小論文が課され、そして早押し4択クイズ50問の合計点で競いました。他の地方大会とは異なり非対面で行われたため、果たして全国の舞台でどれだけ通用するのか不安でした。

1日目のエコノミカ大会。実は昨年エコノミカの大会に出場していました（なんと相手は抽選で高額なカメラを当てました）。結果はさておき、出場者の方々と楽しく交流することができました。2日目、プレゼンテーション大会では自分の不甲斐なさからチームの足を引っ張ってしまいました。他の代表の方々を見ると、リーダーシップがあり、しっかりした意見や独創的なアイデアを持っており、自分は素直に感心するばかりでした。とても落ち込みましたが、社会に出ると必須であろう自分の主張力やプレゼン力の無さに反省しました。また出雲氏のご講演や環境大臣のお話も含め、学ぶことが多々ありました。立食パーティーでは、同じつくば市の並木中等教育学校含め多くの方々と交流する貴重な機会になりました。その後の筆記クイズは非常に難しく、私達は全国に出場したとはいえまだまだ金融知力を身につけていく必要があると感じました。3日目、遂に迎えた本戦ではボタンを押すこともなく敗退してしまいました。それからは客席に座り、全国大会のハイレベルな戦いにひたすら圧倒されていました。他のクイズ大会にはないようなユニークなルールで、見ていた側も非常に楽しめました。

私達は何も結果を残せず非常に悔しい思いをしましたが、この大会で得た経験と悔しさが自分を向上させたと思います。そして今後更に金融知力を身につけ、将来においてアドバンテージとなるよう精進して参ります。この大会で私は金融経済についてだけでなく、仲間と協力する大切さや自分が欠けている能力を知ることができ、非常に良い刺激

を受けました。長いようであっという間の充実した3日間でした。出場者の皆様、スポンサー他関係者の皆様、そして大会を主催してくださったスタッフの皆様、大変貴重で素晴らしい経験をさせてくださり本当にありがとうございました。

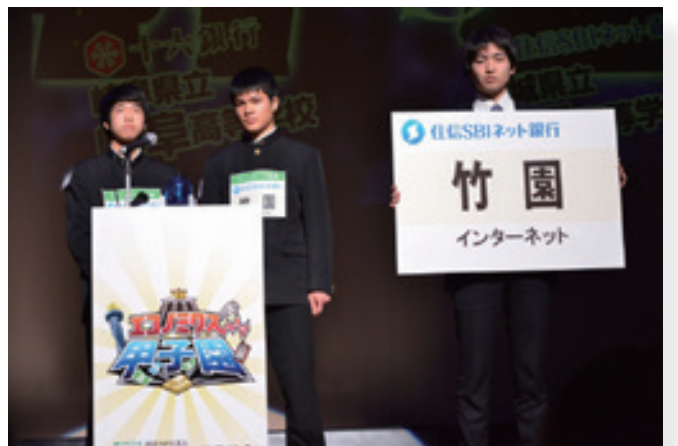
ネット大会代表 茨城県立竹園高等学校 2年
蓮野 佑基

昨年度は茨城大会で予選落ちをしてしまい、悔しい思いをした。今年はインターネット大会に出場し、結果は2位だったが、幸運にも全国大会に出場することが出来た。

そして迎えた全国大会。期末考査明けだったためもあり、勉強不足は否めなかったが、参加して得たものは大きかったと感じている。1日目のエコノミカ大会では、全国の高校生と楽しく交流することが出来た。2日目は株式会社ユーグレナ社長の出雲氏による講演を受け、志を忘れず挑戦し続けたという話に感動した。プレゼンでは他校による堂々とした発表に刺激を受け、コミュニケーション能力の重要性を改めて感じさせられた。3日目の本戦では、早々に敗退してしまい、経済の知識がまだまだ不十分であると実感させられた。

振り返ってみると、2日目、私はチーム内での議論に積極的に参加することが出来なかった。しかし、コミュニケーション能力は社会に出たときに不可欠なスキルであるので、身に付けることが出来るよう努力していきたい。私はプレゼンの発表では上がってしまい、不甲斐ない結果を残してしまった。しかし、いつまでも出来ないままではいられないので、克服できるよう努力したい。

私はこの大会を機に、経済にも興味を持つようになり、これからは新聞の経済面にも目を通そうと思うようになった。最後に、今まで興味がなかった経済に興味を持つきっかけを作ってくれたエコノミクス甲子園の開催に携わった方全てに感謝したい。





1 日目

エコノミカ大会

2月15日金曜日、全国各地から集まった各都道府県・ネット代表の高校生たちは、「経済トレーディングカードゲーム エコノミカ」の大会に参加しました。

エコノミカは、デフレや円安といった経済・社会の変動が、日本株やドルなどの個人資産にどのような影響を与えるのかを学べる優れた対戦型カードゲームであり、実際の資産運用に必要な合理的思考力や状況分析力を養うことができます。

上位入賞者には賞品も用意され、参加した高校生たちは優勝目指して戦いながら、親睦を深めました。

2 日目

■ プレゼンテーションラウンド「環境×経済×教育」

プレゼンテーションラウンドは、くじで決められた学校ごとにグループを組んで、テーマに沿ってプランの構想を練り、プレゼンテーションを行うラウンドです。

今年のプレゼンテーションラウンドでは、初めに 株式会社ユーグレナ 代表取締役社長の出雲充様より基調講演をいただきました。この基調講演を参考に高校生たちは、中学生を対象に、環境と経済のつながりを学べる授業案を作成しました。また、今年度は環境省から後援をいただいております、午前中に行われたトーナメントを勝ち進んだ3グループによる決勝プレゼンでは、原田義昭環境大臣をはじめとする審査員や高校生、地方大会主催金融機関の方々を前にプレゼンテーションを行いました。

見ず知らずの高校生同士でグループとなり議論することに加えて、どのような授業が中学生に親しみやすいものになるか苦心していたグループが多かったようですが、どのグループの発表もとても高校生がわずかな時間で考えたとは思えないほどのクオリティーに仕上がっていました。

決勝プレゼンの審査の結果、VR技術を活用したゲームによる授業を提案した中央中等、川越、岐阜、松江高専の4校からなるEグループが優勝を掴みました。

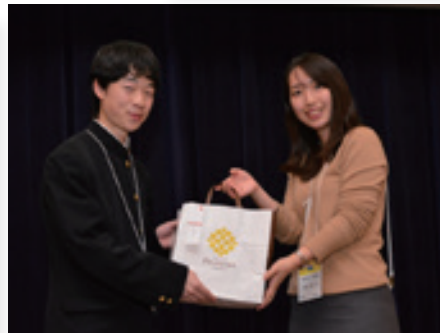




■ 前夜祭

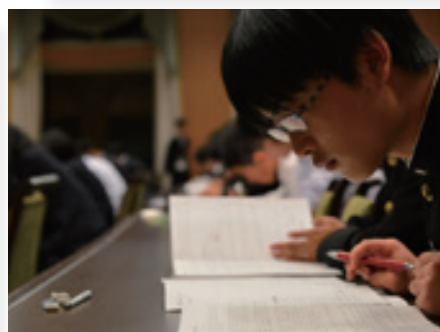
プレゼンテーションラウンドが終わると間も無く前夜祭が行われました。前夜祭には高校生、地方大会主催金融機関の方々、ご来賓の方々が参加し、高校生がご来賓の方々と交流する様子などが見られ、終始和やかな雰囲気で行われました。

前夜祭ではスポンサーや地方大会主催金融機関の方々が出品した特産品が当せんするビンゴ大会が行われました。ビンゴシートのマス目に、参加者が互いの氏名・出身地を記入し合うもので、高校生と来賓の方々が歓談し、抽選が始まってからは出品者と当せん者で写真撮影を行うなど、交流を深めました。



■ 筆記クイズ

楽しい前夜祭の後は筆記クイズです。マークシート式の問題の他、地方大会には無い記述・論述式の問題、複雑な計算を要する問題など、難易度の高いものが出題されました。40分という厳しい時間制約の中、ペアの2人が、互いに得意な分野を解いたり、相談したりして、必死に協力して取り組んでいました。





3 日目

■ 第1ラウンド「先手必勝！先行者利益クイズ」

今年の第1ラウンドも毎年恒例の早押しクイズですが、今年は1対1で対決し、勝者は第3ラウンド、敗者は第2ラウンドに進出する形式へと大きく変わりました。各組2問出題で、正解数の多いチームが勝利となります。同点の際は、プレゼンラウンドと筆記クイズで決まる予選順位が上位のチームが勝利となる、予選上位が有利なルールでしたが、予選下位のチームが2問連続正解で勝利する対決も多くみられました。

また、クイズ研究会同士での対決を希望したチームによる対決も行われ、もの数秒でボタンを押して正解するなど驚異的な早押しも多数みられ、盛り上がりました。



勝利チーム（第3ラウンド進出）

藤島、金大附属、土佐塾、福岡、智辯和歌山、旭丘、宇都宮、洛北、城東、東大寺、水口東、広島学院、倉敷天城、ラ・サール、山口、桜丘、大阪星光、岐阜、高松、福島、宮崎第一、札幌南、松江高専

■ 第2ラウンド「歩み寄れ！商談成立クイズ」

第1ラウンドで負けてしまったチームで行う第2ラウンドは、4択クイズでした。舞台の両端にチームの2人がそれぞれ立って個別に解答し、正解すると中央に向かって移動、2人合わせて5問正解するとペアと隣り合って勝ち抜けるといふもので、チームの2人とも正解できないと勝ち抜けが厳しい形式でした。2組に分かれて行い、それぞれ3チームが勝ち抜けで、最短3問で勝ち抜けとなりますが、正答率がとても高く、2組とも4問目までには決着がつくというハイレベルな戦いとなりました。

準決勝ラウンド進出チーム

灘、山形南、昭薬大附、弘学館、松山東雲、甲府南





■ 第3ラウンド「情報を収集せよ！インサイダークイズ」

第1ラウンドの勝者を2組に分けて行う第3ラウンドはボードに解答を記入するクイズ。このラウンドの勝利条件は「勝ち抜け問題」に正解することですが、この「勝ち抜け問題」は12分割されており、ラウンドの初めに各チームに分割された問題文が1つ配られます。その後通常のボードに解答するクイズが出題され、正解すると、他のチームと分割された問題文を交換することを申し込むか、「勝ち抜け問題」に解答することができます。「勝ち抜け問題」を早く正解した各組4チームが準決勝に進出します。

第1ラウンドで勝利した高校生のレベルはとて高く、1組目は3問で、2組目はわずか2問で決着がつきました。予選上位のチームほど早く勝ち抜け問題に解答することができるので、予選順位が大きく影響した結果となりました。



準決勝ラウンド進出チーム

藤島、金大附属、土佐塾、福岡、智辯和歌山、旭丘、宇都宮、中央中等

■ 敗者復活ラウンド「生き残れ！セーフティネットクイズ」

第2ラウンド、および第3ラウンドで敗退した32チームで行う敗者復活ラウンド。ここでは、数値が答えとなる問題に解答し、正解の値に近い数値を書いた方を勝利とする1対1の近似値クイズが行われました。負けたら敗退確定、4連勝した2チームのみが準決勝進出となるトーナメント方式の厳しいルールです。

「日本の家計の金融資産に占める『現金、預金』の割合」「現時点での円ドル為替レート」など、金融知識を使って正しい値を推測する力を問う問題が計4問出題され、高校生たちは最後のチャンスをものにしようと必死に値を絞り出していました。

準決勝ラウンド進出チーム

富山中部、並木中等





■ 準決勝ラウンド「派閥対抗！出世の椅子取りクイズ」

16チームから8チームが勝ち抜ける準決勝ラウンドは4つの派閥に4チームずつが分かれて行う4択クイズ。各派閥は最初椅子を2つ持っており、椅子の数がその派閥から抜けられるチーム数を表しています。解答はチームごとに行い、1問ごとに正解チームが一番少ない派閥から一番多い派閥に椅子が一つ移動します。また、正解したチームにはポイントが入り、10問終了時に、各派閥が持っている椅子の数だけ、その派閥の中からポイントが多いチームが勝ち抜けます。シンキングタイムが長く、派閥内で相談ができるので、正解がわからなければ解答を派閥内で分散させるなどの戦略をとれます。

このように戦略性があるルールでしたが、高校生の知識量はスタッフの想定より遥かに多く、8問目までは3つ以上の派閥で全チームが正解し、少しのミスで椅子が動くことになりました。しかし、9問目は1つの派閥が全チーム正解した以外は派閥内で解答が分かれる展開になり、また、派閥内の他のチームとポイントで差をつけるために正解を知っていてもあえて教えないなど頭脳プレイも見られました。そして10問目、2チーム正解の派閥が2つ、全チーム不正解の派閥が2つと全派閥から椅子が移動することとなり、終盤は波乱の展開となりました。

決勝ラウンド進出チーム

智辯和歌山、並木中等、藤島、富山中部、旭丘、灘、中央中等、金大附属





■ 決勝ラウンド「平成を駆け抜ける！タイムトラベルクイズ」

平成最後の王者を決める決勝ラウンドは、史上初めて8チームで行われました。

平成元年から30年までが2年ごとに分けられ、それぞれの年にちなんだ計15問の問題が出題されました。正解するとその年の当時の消費税率分のポイントを獲得できます。このラウンドの鍵となるのが「女神像」です。ラウンド開始時に、各チームは「金の女神像1つ」または「銀の女神像2つ」を選択できます。これらは問題の解答時に使用できるアイテムで、「金の女神像」を使うと獲得ポイントが「消費税率×間違えたチーム数」に、「銀の女神像」を使うと獲得ポイントが「消費税率×間違えたチーム数÷2」になります。女神像は1つにつき一度しか使えないため、使うタイミングの見極めが重要です。15問終了時の獲得ポイントが多いチームから最終問題に挑戦でき、最終問題に正解したチームが優勝です。

単独正解しながらも女神像を使わなかったため大量得点を逃したチームもあれば、「金の女神像」を使って獲得ポイントを5倍にすることに成功したチームもあり、明暗が分かれていました。

そんな中、序盤から着実にポイントを積み上げていった福井大会代表の藤島高校が、15問目に「金の女神像」を使って正解し、獲得ポイントを4倍にして最終問題への挑戦権を得ました。最後はペアで揃って高らかに「ニューヨーク！」と最終問題に解答し見事正解。平成最後のエコノミクス甲子園は、福井大会代表の藤島高校の優勝で幕を下ろしました。

最終成績

- 優勝 福井代表 藤島
- 準優勝 群馬代表 中央中等
- 第3位 茨城代表 並木中等
- 第4位 兵庫代表 灘





福井県立藤島高等学校
坪田 実那美

エコ甲優勝を狙っていたことは、自分にとってはこのニューヨーク研修を狙っていたということでもありました。将来が全く見えず、また色々な悩みを抱えていた中で、NYに行けば何かわかるのではないかと漠然とした予感が胸の中にあがり、そしてある意味この研修に残りの高校生活ないし自分の人生を賭けようとしていました。そして無事に優勝を得て、このような貴重な機会を頂き、その予感は間違っていないかと実感しています。自分の常識や世界観、自分のキャパを優に越えていくほどの何か壮大なものを得ることがで

きました。

企業訪問では、CITI、総領事館経済部、Tiger Pacific Capital、ロイター、大和投資信託、Bloomberg、Russell Investment、John Hancock、Galileo Global Advisors に伺い、世界の金融経済の中心としてのNYを体感しました。また、メトロポリタン美術館、タイムズスクエア、MoMA、ブロードウェイミュージカルの鑑賞など、観光地としてのNYを味わうことが出来ました。一週間弱という短い時間の中ではありますがNYに滞在して何を学び、そして何を考えたのかを綴ろうと思います。

そもそも高1ではじめてエコノミクス甲子園に申し込んだのも、両親が自営業を営んでおり漠然と経済に興味があったというだけでなく、何でもいから学校以外の勉強をしたかったからでした。淡々とした日々の生活に少し満足していながらも、悪く言えばその惰性で過ごしている生活に何か疑

問を持ってもいて、そして集団の圧に揉まれていたからか自分が勉強している意味も分からず、目の先目標である受験だけを見てある意味盲目的に勉強していました。そこからの逃げ道を探していたのかもしれませんが。そしてリベンジで挑んだエコノミクス甲子園で優勝を頂けました。好機が来ました。今まで向き合ってきた自分が勉強する意味の答え、そしてそれよりも大きな、何か自分を変えてくれるものをNYからたくさん持って帰ってくると心に決めました。

その答えはNYではっきりとわかりました。恐らくNYでしかわからない問題でした。自分が勉強するのは、非常に端的に言えば、自分をひとりの人間として成長させるため、そしてそれを世のため人のために還元するためでした。どのように成長させるのか。一を聞いて十を知る能力をつけ、人としてのバックグラウンドを磨くのです。今回金融に携わる方々を訪れて、一を聞いて十を知る



りにしました。NYは世界中の人にとってはキラキラしたユートピアなのかもしれませんが、そこはあくまで一つの都市なのです。人々の生活が根を下ろしているだけです。それは世界中どこに行っても変わりません。(決してNYが大したことないと言っているわけではないです) だから日本とアメリカ含め、文化の優劣を決めるのは愚かなことだと思いました。しかし日本が経済成長するにはアメリカと競い合わなければならない、それには日本がアメリカの文化に多少迎合する必要があります。でもその力関係が発生する時点でアメリカが優、日本が劣であることを意味しているのではとも思っていました。文化の優劣、文化相対主義に関してはNYですっきりとは解決しませんでした。これから勉強していく上でじっくり考えたいとは思いますが、それほど難しいことなのでしょう。

これらのことを踏まえて、将来の展望としては、

役立つ役立たないに関わらず、すべてのことは自然と自分をつくるのに役立つと信じて、文理の概念を気にせずあらゆる分野に寛容になりながら勉強をし、大学に入ってもその先も自分の今やりたいことは何かを大切に自分の選択肢を狭めず広げ続け、多くのことを学び自分を人間的に成長させたいです。また、女性の働き方が柔軟であるというお話も聞いたので海外で働くこと、海外でビジネスなどを学ぶことも視野に入りたいです。

帰国前日の夜、髪をドライヤーで乾かしていると、不意に涙が出てきました。エコ甲まであるいは今まであった色々なことを思い出したのか、それともそれらを簡単に揉み消してしまうほどの得たものの大きさへの恐怖や得た出会いの喜びからか、それとも単純にNYを離れるのが寂しいのか。NYは本当に多くのことを教えてくれました。自分の常識が痛快なまでに覆されました。ここでし

かない出会いがあり、ここでしか得られないものがありました。“メンターとアンカー”、つまりこの人のためなら自分は努力を続けられるという概念をやっと身を以て感じられました。NYで話をしてくださった企業の方々をはじめ、一週間の滞在を思い出すと、身が引き締まり、頑張ろうという気持ちになれます。企業訪問で出会った方々のみならず、研修旅行に同行して下さった方々もそれぞれ異なるバックグラウンドを持ち自分の道を自分で切り開いているという点でこれからも尊敬し続けたいです。でもそのような新しい人や場所との出会いがたくさんあったからこそ、別れるのはとても寂しかったです。ここまで自分がNYで考えたことを偉そうに書いてきましたが、やはりNYを思い出すと、結局「ただただ楽しかった」の一言に尽きるのです。エコ甲の研修として行かせてもらったのに、結局楽しかった思い出で済ますのでは少し申し訳なく思えてきますが、楽しく



能力に長けていない方は一人もいらっしゃいませんでした。人間としての差がつくのは、同じ量の情報からどれだけ多くのこと、新しいこと、濃密なことを見出せるか、すなわち一を聞いて十を知ることができるかです。そしてそのプロセスを今の時期から体験し自分を高められる最も身近な手段が勉強でした。そのプロセスを磨くだけでなく、勉強を通して人として持つ知識のバックグラウンドを磨くこともできます。人間は人とのつながりの中でしか生きていけません。また、同じバックグラウンドを持つ人は一人もいません。そして理解は知識ありきです。だから、いろいろな人と会話を交わしたり人との関わりの中で自分のやりたいことをやったりするにはあらゆる分野に対しての知識が必要です。いろいろな内容を勉強することは、知識や思考の内容からみた他人と自分のギャップを埋めていくことでもあります。その人は今話をしている大人でもいいし、教科書に載っ

ている有名な公式や定理を導いた偉人でもいいでしょう。勉強は他人が持っている自分が持っていない考え方やスキルを奪える手段です。また、それが受け入れられなくても、こういうものがあるのかとまず理解する、知的なたくましさを身につけることもできます。また、学問は常識の延長上である部分があるので、それを何回も考え経験することで思考体力もつき、人間としての素養が高まると思いました。

ほかに私はNYにたくさんの疑問や悩みを持っていきました。例えば、働くことの意味とは何か。今回、現役でバリバリしかもNYという地で働いていらっしゃるたくさんの方々とお会いし、話をしました。労働についての価値観は日本とNYでは相当違うものでした。形式ではなく実質を追い求めたNYの柔軟そうな働き方を見てはじめて、働くことの意味を身にしみて感じました。働くとは自分のやりたいことをやり、それが結果的に

に社会に還元され、またあくまで対価としての給与が入ってくることに過ぎないのです。それを根底から支えるのは、人間はそもそも食べなければ生きてはいけず、かつ常に向上心がある生き物であるという前提でした。ごくごく当たり前のことかもしれませんが、これらを知れたことは自分にとっては大きな収穫でした。

NYで一週間弱滞在して、価値観や文化について多くを考えさせられました。正直NYという場所を神格化していました。中学生の頃から、初めての海外旅行はどこに行ってみたくかと問われると毎回ニューヨークと答えていました。すべてがキラキラしていて、日本よりすごいものがたくさんあるんだろうな、と思っていました。それはあながち間違っはけません。観光地としての賑わいは世界有数です。一方で地下鉄の治安の悪さやホームレスの方々の物乞いなどの生々しさを目の当た



て楽しくて仕方なかったのだからしょうがないです。でもこれほどの水準の楽しさには今まで出会ったことがありませんでした。たくさんの会社のオフィスに伺ってNYのビジネスマンの働く姿を見て感動。タイムズスクエアの五感すべてからの迫力。ブロードウェイミュージカルからもまた迫力。美味しすぎたボストンのクラムチャウダー。Tigerの方々にご馳走していただき色々なことを伺ってそして聞いて頂いたあの夜。そしてホテルの部屋のリビングに集まって御一行の皆さんとご飯を食べたりたくさん語り合ったりしたこと。これ以外にも数え切れませんが、それらはカメラロールに閉まっておくとして、滞在の一瞬一瞬、大きなことでも小さなことでも、つねに新しい情報が入り続け、ワクワクした気持ちが消えることはありませんでした。前にNYは一つの都市に過ぎないとは書きましたが、それでもやはりその地の織りなすパワーは計り知れず、日本とは全く違

い自分にとっては全く新しいのだから、やっぱり楽しいのです。どうかまた来られますように。

最後に。いちばん大切なのは人とのつながりであり、それを作ってくれたのは紛れもなくエコ甲でした。NYへ来られたのも、高1の冬、地方大会の締め切り三日前、教室の隅で偶然見つけた一枚のチラシがすべての始まりでした。エコ甲は自分の高校生活を良い意味で狂わせてくれました。今度は自分が恩返しをする番です。まずは、NYで得たものを裏切らないこと。そして、エクス甲子園に少しでも携わるすべての方々にも多大なる感謝を込めて、研修の感想とします。本当にありがとうございました。



福井県立藤島高等学校
鷺田 樹音

あの煙の立ち込めるニューヨークから帰ってきて3週間が経つ。田園に囲まれた福井の風景がそこにはある。彼我の地理的な距離よりも、精神的な距離の方が強く感じられるのはなぜだろう。

優勝と共に決定したニューヨークへの旅路は、自分にとって初めての海外ということの意味していた。この時の心情を愚直にも述べるならば、ニューヨーク研修旅行のことなど頭の片隅にもなかったというのが適切だろう。優勝するつもりで長い間勉強していたにも関わらず、この事が抜け落ちていたのは今でも全く不思議に思える。だから

らこの旅行は本当に意図せざるものであった。ニューヨークへ行くにあたって最も気掛かりであったのは自分の語学力である。何せ頭には経済の知識しか詰まっておらず、今から突然英語を使う頭に切り替えるなど到底出来そうにもないと思った。だがこの機会をものにしてやろうという気概から、ひたすら英語の勉強に精を出した。

自分は偏屈な人間なので、海外に行けば何かいい経験ができるといった妄信的な言葉はどれも信用できなかった。しかしこの旅行について言えば、のちにその認識を改めることになった。

ここに私の稚拙な言葉でニューヨークでの出来事を仔細に書き連ねることは避けようと思う。なぜならこの経験を文章にしても陳腐なものにしかないからだ。知識として知っていることと、経験として知っていることは違う。まさに「百聞不如一見」である。

帰国後の授業で私の敬する教師がこのような要旨

のことを述べていた。広く経験し学びなさい、と。師は旅行が好きで、両手の指に収まらないほどに海外旅行に行ったそうだと。とても聡明な方で、家には何千冊もの本があるほどの読書家でもある。だから師の言葉は有り体でありながら、私には実感を持ったものとして受け入れられた。以前の私なら経験せずとも本から学べば良いのではと懐疑的になりつつ、師に質問することにやぶさかでないだろう。

ニューヨークは異文化であった。

異文化に触れることによって自文化を知る事が出来るという言葉聞いた事があるが、その意味でニューヨークは鏡だ。日本の文化が相対化されて浮かびあがるとともに、やはりニューヨークの人々の在り方の根本が日本とは異なるということ強く感じさせられた。

始めに述べた、精神的な距離とはそういうことである。



恥ずかしい限りだが、福井の田舎の高校という限られた社会にいとそんな当たり前のことすら感じて来られなかったのだ。今私に見えているのは縦並びの階級社会だ。偏差値という数字だ。それが限られた狭い価値観ということを理解していても、ニューヨークでの経験がそれを上書きしてくれたことは自分にとって大きかった。

ニューヨークに来る前から問いがあった。実社会と学問についてだ。

私の夢は知識人になることだ。なんとも漠然として馬鹿げているかも知れないが、そんな夢を持つ私は常々資本主義のパーツになって生きる人生は楽しいのかと疑問を持っている。そんな訳で、このような問いを訪問先で投げかけてみた。

「社会に出て大学の学問は生きましたか」

回答は様々であったが、共通していたのは直接に役に立つ訳ではないということだ。理論と実学が乖離しているというのは、経済学に限って言えば、よく分かる話なので納得はできた。けれどその分、自分は社会に出てもどうしようもないなとも思うのであった。

また訪問先での対話の中で自分にとって大きな発見もあった。英語の能力についてだ。私は英語にあまり自信がないので、このニューヨークへの渡航に向けて英語のスピーキングに励んだのだが、ある訪問先の方がこのようなお話をしてくれた。「自分は英語が苦手、海外の人に英語で説明するのが億劫だったが、話さなくても英語の資料を作成したりするなど、話す以外の手段を使って対処するようにした」

と言うのである。自分は正直驚いた。英語が上手に話さなくても、海外の人と仕事出来るように工夫して乗り越えてきたというこのエピソードは自分にとって福音でもあった。英語に自信がない私であるが、それでも自分の思っていることを伝えようとする熱意だけはあつた。自分の考

えを伝えるというコミュニケーションの意味を再認識させてくれた。

最後に自分にとってのエコノミクス甲子團というものを振り返りたいと思う。私は高校一年生の時にこの大会に参加することになった。きっかけは今の相方に誘われたのと、私のある友人の存在であった（この友人については第12回の時の感想に記してある）。自分にとって一意に何か勉強に取り組むというのはとても楽しいものだったので、そのおかげか初参加で県大会優勝を果たしてしまった。

ある意味でこの優勝は失敗だったと後悔したことも多々あった。相方と勉強の分担が上手くできず、衝突したからである。だから私は第12回の全国大会で8位の結果に終わった時、当然の結果だと冷めた目で見ていた。第13回に向けて、私は優勝しか考えていなかった。第12回の反省から、相方には頼らず自分一人の力で頑張ろうと意気込



私たちは地図を見れば日本とニューヨークがどれほど離れているかを一目で知ることができる。飛行機に乗れば13時間ほどで行くことができる。地理的にニューヨークへ行くことは容易だ。しかし精神的に近づくことは容易ではない。「異質のものに対する理解と寛容」。私が好きな言葉だ。この言葉はグローバル化する社会の中で私たちに要請されている異文化理解の姿勢を極めて端的に表しているように思う。交通網が発達し、世界の一体化が進む中で、時間距離の縮小は著しい。私たちにとって地球の裏側はもはや手の届く場所だ。しかしだからこそ、私たちは国際人としてこの「理解と寛容」の精神を持たなければならないのではないだろうか。

私には他県から福井に引越してきた、所謂転勤族の友人が2人いる。ただ彼らは共に「田舎は閉鎖的だ、よそ者は排除される。都会の方がいろんな人がいるしその分寛容だ」と言うのであ

る。これが一般に当てはまる事象だとは私も思わないが、その土地の多様性と人々の「理解と寛容」の精神の繋がりは無視できないと感じさせるエピソードであった。「異質のもの」に寛容であるというのは人間にとってなかなか難しいのである。同質な集団の中に「異質のもの」が入ってきたときに攻撃するのは人の摂理なのかもしれない。

理解においてはそれ以上に難しいだろう。このエピソードはミクロの例であるが、マクロで見れば正にこれが今のグローバル化社会だろう。その中で日本が田舎になるのか都会になるのか。それは私たちにかかっている。私たちはイスラームのことをどれくらい知っているだろうか。LGBTのことをどれくらい知っているだろうか。理解しているだろうか。寛容は易しい。しかし私たちは理解する事で初めて精神的な距離を縮めることができると思うのだ。理解には努力

が必要だ。不学ではいけない。学び、世界を知らなければならない。

「常識とは18歳までに身につけた偏見のコレクションである」。アインシュタインの言葉だったと記憶しているが、この言葉が象徴するように、私たちはこの常識という名の偏見でものを見る。私たちは常識でよそ者を排除しないだろうか。

私は自分の知の有限性を理解した上で、なるべく多くの価値観を身に付けたい。「異質なものを理解できるようになりたい。そのために学びたい。そしてきっと自分の中の福井の田園とニューヨークの街がもっと近づくだろうと信じている。

今回の訪問で多くの企業や場所に行き、沢山の人がお話を伺った。面白いのは、各々言っていることは千差万別で、時には正反対のことを言う人までいるのだ。考えてみれば当たり前のことかもしれないが、ニューヨークの街でそれを聞いた衝撃は大きかった。価値観の多様性を肌で感じた。



んだ。ミクロ経済、マクロ経済、財政、金融、マーケティング、会計、企業論、時事など何でも勉強した。しかし第13回の全国進出が決まると、再び相方との衝突は訪れた。私には相方の熱意がどうも伝わって来なかった。それが怖かったのである。しかしこの衝突を通して人間的な成長があったと私は思っているのだ。

一つの大きな目標に向かってチームプレイをするのは難しいことだ。部活で部長をしている私はそれをよく知っていた。だから腹を割って話してそれを乗り越えた経験は何物にも代え難い。

私は人生のテーマとして、自分の人間的成長を掲げている。だから学問をして知を広げたいし、色々な出来事を通して自分をよりよくしようと思っている。その点、エコノミクス甲子園は私の人間的成長を大きく助けてくれたと感じている。感謝の意しかない。

ただ全国大会後の作文でも書いたように、今で

もこの優勝はちっぽけなものだと思っている。優勝せずともこの人間的成長は変わらなかったし、優勝しても人間的成長が無かったらエコノミクス甲子園に対する感謝の意もこれほどでは無かっただろう。

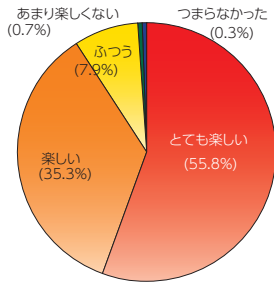
この文章を読んでもくれるかも知れない、来年の出場者に伝えたいのは、自分の活動の意味はしっかり自分で見出せということだ。学校の勉強然り、部活然り、エコノミクス甲子園然りだ。入試の結果や大会の成績しか残らないのでは余りにも空虚だと思うのだ。もちろん結果は大事だ。そんなのは当たり前だ。ただ、自分にとっての意味は持っている欲しいと思う。それって何だろう、とそうやって考えることが大事なのだ。社会のルールに乗ればいいのだろうか、言われたことが正しいと盲目的に信じて突き進めばいいのか。ちゃんと考えて欲しい。もし社会のルールに乗っていい大学に入りたいただけなら、経済の勉強なんかせずに受

験勉強をたくさんすればいいのだから。皮肉に聞こえるかも知れないが、功利的に考えればそういうことだろうと思っている。だからこの大会に出る全ての人は自分なりの意味を持って参加して欲しい。私からの切なる願いだ。

第13回エコノミクス甲子園の企画・運営に携わった全ての人に感謝を申し上げて、この文章を締めることとする。

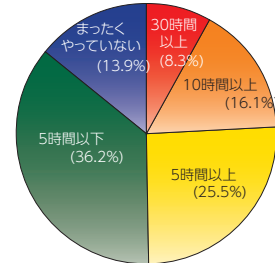


Q. 地方大会に参加して楽しかったですか?



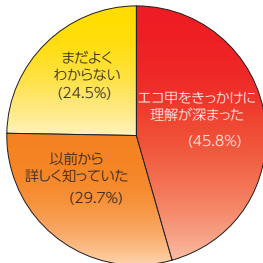
9割以上の参加者が参加して楽しかったと答えています。主催している金融機関様の成果です。

Q. 大会に備えてどれくらい勉強しましたか?



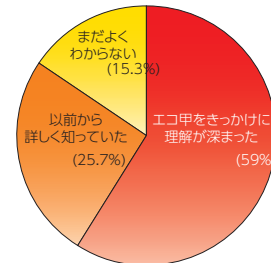
約半数の参加者が5時間以上勉強したと答えています。14%のまったくやっていない生徒へのアプローチが課題。

Q. マルチ商法やねずみ講について



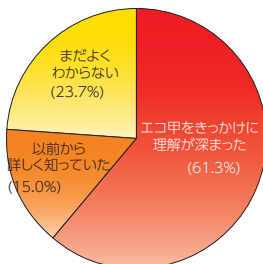
4割以上の生徒がエコノミクス甲子園をきっかけに理解を深めており、犯罪被害の予防にもつながっていると言えます。

Q. リスクとリターンについて



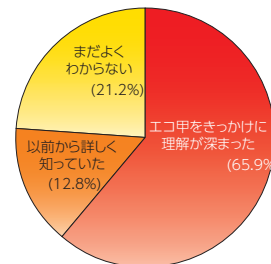
経済学の基本であるリスクとリターンについて、6割近くの生徒がエコノミクス甲子園をきっかけに理解を深めています。

Q. 株式や投資信託などの資産運用について



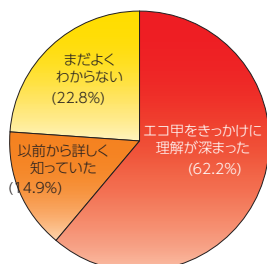
単発の授業などで習う機会がある場合もあり以前から知っていた割合は比較的高いですが、それでもエコ甲をきっかけに理解を深めたという生徒は6割を超えています。

Q. 保険の仕組みや種類について



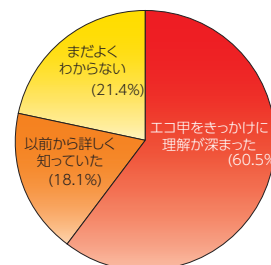
4つの具体的な事柄の中でも、特にエコ甲を通して理解が深まった割合が高いのが保険についての知識です。

Q. ローンの仕組みについて



ローンの仕組み等も学校で習うことはありませんが、バイクの購入など場合によっては高校・大学で関係することもあります。

Q. 年金の仕組みについて



年金については以前から知っていたと自任する生徒の率が一番高いですが、それでも6割の生徒がエコ甲を通じて理解を深めています。





大会名	取材 (TV)	取材 (新聞)	取材 (その他)
北海道 オホーツク地区 予選		北海道新聞	NHK 経済の伝書鳩 東垂リサーチ
上川・留萌・ 宗谷地区予選		北海道新聞旭川 支社	
釧路・根室地区 予選		釧路新聞社	
十勝地区予選		十勝毎日新聞	
北海道	NHK 北海道テレビ放 送 (HTB) 札幌テレビ放送 (STV)	函館新聞 十勝毎日新聞 ニッキン	
青森		陸奥新報 東奥日報 デイリー東北	
岩手		岩手日報社 盛岡タイムス	
秋田	NHK秋田	秋田魁新報	
山形	TUY (テレビ ユー山形)	山形新聞社	
福島	福島中央テレビ FCT	福島民報社 福島民友新聞社	
茨城		茨城新聞社 NEWS つくば	
栃木		茨城新聞社 NEWS つくば	
群馬	群馬テレビ	上毛新聞 群馬経済新聞	エフエム群馬
千葉	チバテレビ	千葉日報	
東京	TBS テレビ		
新潟		日本経済新聞	
富山	BBT チューリップテ レビ	北日本新聞 富山新聞	
福井	FBC	福井新聞社	
山梨		読売新聞 山梨日日新聞	
長野		長野日報	
岐阜県 飛騨地区予選		岐阜新聞	
岐阜	テレビ愛知 岐阜放送 CCN	岐阜新聞 中日新聞 中部経済新聞	
静岡		日刊スポーツ	

大会名	取材 (TV)	取材 (新聞)	取材 (その他)
愛知		ニッキン 中部経済新聞社	
三重	三重テレビ放送 中京テレビ放送	伊勢新聞社	
滋賀	びわ湖放送	毎日新聞 京都新聞 産経新聞 中日新聞	
京都		読売新聞 京都新聞	
大阪		読売新聞社	
兵庫		神戸新聞	
奈良	奈良テレビ	毎日新聞 奈良新聞	
和歌山	NHK 和歌山 朝日放送 テレビ和歌山	読売新聞 産経新聞 毎日新聞 わかやま新報	
島根		山陰中央新報 島根日日新聞	
岡山		山陽新聞 朝日新聞 日本経済新聞 日刊工業新聞	瀬戸内経済レ ポート
広島	テレビ新広島		広島エフエム放 送
山口	山口放送 テレビ山口 山口旭放送	山口新聞	
徳島		朝日新聞	
香川			四国中央レポー ト
愛媛	愛媛 CATV	愛媛新聞	
高知	高知ケーブルテ レビ	高知新聞社	
福岡		毎日新聞	
佐賀		佐賀新聞 西日本新聞	
長崎		長崎新聞	
宮崎	宮崎ケーブルテ レビ テレビ宮崎	宮崎日日新聞社 夕刊デイリー	
沖縄	琉球朝日放送 沖縄テレビ	琉球新報 沖縄タイムス	FM 沖縄



エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄付していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。

事前学習教材の内容から何題かクイズが出題されるので、生徒達も大会前にしっかりと勉強してくれており、単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。

 <p>■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 (作成・寄贈：金融知力普及協会 寄贈：シティ) シティ Web サイト https://www.citigroup.jp/jp/</p>	 <p>■ もっと知りたい税のこと (平成 30 年 6 月) (作成・寄贈：財務省) 財務省 Web サイト https://www.mof.go.jp/</p>
 <p>■ 初めてのJリート 今日から始める日本版不動産投資信託 (作成・寄贈：不動産証券化協会) 不動産証券化協会 Web サイト https://www.ares.or.jp/</p>	 <p>■ 基礎から学べる金融ガイド (作成・寄贈：金融庁) 金融庁 Web サイト https://www.fsa.go.jp/</p>
 <p>■ マナブとメグミのお金のキホン BOOK (作成・寄贈：全国銀行協会) 全国銀行協会 Web サイト https://www.zenginkyo.or.jp/</p>	 <p>■ 少額短期保険で描く未来の保険 (作成・寄贈：日本少額短期保険協会) 日本少額短期保険協会 Web サイト http://www.shougakutanki.jp/</p>
 <p>■ そんぽのホント (フレッシューズガイド) (作成・寄贈：日本損害保険協会) 日本損害保険協会 Web サイト http://www.sonpo.or.jp/</p>	 <p>■ わかりやすい投資信託ガイド 2018 年版 (作成・寄贈：投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/</p>
 <p>■ これであなたもひとり立ち (作成・寄贈：金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>	 <p>■ 不動産投信 REITGUIDE 2018 年版 (作成・寄贈：投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/</p>
 <p>■ 大学生のための人生とお金の知恵 (作成・寄贈：金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>	 <p>■ 前払式支払手段ご利用者のみなさまへ (作成・寄贈：日本資金決済業協会) 日本資金決済業協会 Web サイト https://www.s-kessai.jp/</p>
 <p>■ ほけんのキホン for beginners (作成・寄贈：生命保険文化センター) 生命保険文化センター Web サイト http://www.jili.or.jp/</p>	 <p>■ 投資信託読本 (作成・寄贈：大和証券投資信託委託株式会社) 大和証券投資信託委託株式会社 Web サイト https://www.daiwa-am.co.jp/</p>
 <p>■ 株式会社制度と証券市場のしくみ (作成・寄贈：日本証券業協会) 日本証券業協会 Web サイト http://www.jsda.or.jp/</p>	 <p>■ 進学にかかるお金と奨学金の話 (作成・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/</p>



エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、
各社様のご支援により成り立っています。
感謝の思いを込め、ここにご協賛をいただいた各社をご紹介します。

プラチナスポンサー



Manulife

マニユライフ生命

ゴールドスポンサー



シルバースポンサー

大和投資信託

Daiwa Asset Management

ブロンズスポンサー



近畿日本ツーリスト

MIZUHO みずほ証券



TAC



地方大会主催金融機関の皆様





Special Thanks (順不同)

後援・協賛・協力の各社様はじめ、お力をお貸しいただいたすべての皆様(肩書は当時)

環境大臣

株式会社ユーグレナ
代表取締役社長

マニユライフ生命保険株式会社
執行役 常務

株式会社 MS & Consulting
代表取締役社長

三井住友アセットマネジメント株式会社
営業推進部

原田 義昭 様

出雲 充 様

勝 矢 宏 様

並木 昭憲 様

営業推進 1 課長
井手 克幸 様



日興アイ・アール株式会社
IR 企画部
副部長

Christian Academy in Japan
数学主任 ロボット工学主任

地球・人間環境フォーラム

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN
理事

株式会社 Freewill トータルエデュケーション
代表取締役社長

下村 昌弘 様

藤原 裕次郎 様

飯沼 佐代子 様

田川 道子 様

柴山 健太郎 様



株式会社ウィーンの森
代表取締役

三井不動産株式会社
ビルディング本部
日本橋一丁目オフィス所長

大和証券投資信託委託株式会社
マネーライフ・サポート部
部長

ラッセル・インベストメント株式会社
代表取締役副会長

株式会社近畿日本ツーリスト関東
代表取締役社長

森 正文 様

佐伯 正人 様

藤原 正史 様

加藤 正純 様

高川 雄二 様



株式会社 MS & Consulting
リレーション事業本部
マネージャー

一般社団法人日本金融人材育成協会
シニアアドバイザー

ときわ総合サービス株式会社
取締役

株式会社一休
代表取締役社長

シティグループ証券株式会社
取締役副社長

角田 聡 様

作田 忠 様

清水 紀男 様

神 淳 様

林 邦良 様





マニユライフ生命保険株式会社 取締役代表執行役社長兼 CEO
 認定 NPO 法人金融知力普及協会 理事長
 認定 NPO 法人金融知力普及協会 シニアアドバイザー
 認定 NPO 法人金融知力普及協会 理事

吉住 公一郎 様



金子 昌資



吉田 憲三



野中 ともよ



金融知力普及協会をお支えいただいている各社

サンメッセ株式会社
 シティグループ・ジャパン・ホールディングス合同会社
 SMBC 日興証券株式会社 公益社団法人日本証券アナリスト協会
 日本証券業協会 マニユライフ生命保険株式会社 三井不動産株式会社

問題監修

荻野 昭一 先生 (北海道大学 名誉教授)

各地方大会、全国大会でのボランティアの皆さま

金融知力普及協会 ボランティアスタッフ

井 関 友 洋	寺 岡 拓 朗	関 原 悠 吾	山 田 怜 旺	古 谷 和 弥	遠 藤 優
大 坪 か れ ん	直 江 綾 太 郎	高 木 佑 輔	山 村 玲 雄	堀 田 瑤 子	北 島 拓 哉
大 日 方 究	橋 場 芽 衣	童 菲	吉 峰 広 貴	三 浦 正 基	中 里 静
加 藤 彰 人	藤 田 蘭 丸	中 川 原 杏 奈	池 田 麟 太 郎	宝 蔵 花 穂	西 川 陽 之
門 谷 春 輝	橋 本 信 朗	堀 島 正 道	岡 本 秋 星	横 山 智 紀	御 手 洗 伸
小 菊 聡 一 郎	宮 内 公 大	山 本 桐 也	岡 本 尚 樹	澤 田 昂 大	岡 辺 公 志
佐 藤 恵 大	村 上 将 紀	大 城 奈 々	佐 藤 賢 斗	濱 元 貴 大	渡 辺 幸 輝
佐 藤 陸	脇 田 直 樹	神 谷 涼 介	末 武 大 河	藤 井 俊 秀	
鈴 木 悠 希	青 木 寿 太	亀 山 尚 輝	杉 本 安 里 紗	松 田 直 晃	
高 橋 昂 汰	井 村 一 政	齋 藤 賢 太	住 吉 康 大	松 原 尚 生	
竹 中 颯 太 郎	栗 野 息 吹	仙 田 晴 紀	縄 田 寛 希	山 根 有 輝 也	
田 島 祐 也	小 谷 健 太	多 賀 谷 光	羽 藤 晶	宝 蔵 蓮 也	



第13回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
リーダー

関原 悠吾

第13回エコノミクス甲子園のスタッフリーダーを務めさせていただきました、関原悠吾と申します。今大会も全国各地から本当に大勢の高校生に参加していただけたこと大変うれしく思います。また開催にあたってご協力いただいた関係者の皆様、この度もご協力頂き誠にありがとうございます。

ところで、エコノミクス甲子園が金融知力を競うクイズ大会であることから、それを運営している大学生スタッフもクイズ強者（または金融経済の知識に特化した人々）の集まりと考える人が多くいるかもしれませんが、意外とそうではありません。本当に誰一人キャラ破りしないくらい個性豊かな面々で大学生スタッフは構成されています。この多様性と基本的に所属が大学4年間という新陳代謝の良さが功を奏し、毎年新しくデザインされたエコ甲を皆さんにお届けできているのだと思います。（もちろん中には競技クイズに長けているスタッフもいますし、金融経済に関する知識レベルは全体的に高いと思います）

少し自分の話をすると、私は高校生の時運動部に所属しておりましたし、当時の参加動機は「優勝して地元で目立つこと」でした（笑）歴代のスタッフリーダーの中では異色なタイプかもしれません。そこで私が打ち立てた13回大会のコンセプトが、「競技クイズの側面ばかりに捉われることなく、より多くの高校生にとって参加のハードルを下げ、楽しみながら金融知力を身に付けてもらえる大会を作り上げること」でした。特に地方大会の決勝ラウンドや全国大会の各ラウンドは、単に知識があるだけでは勝ち抜くことができず、場面に合わせて適切な戦略をとる力・勝負強さや駆け引きの上手さがカギを握るような仕様にするなど工夫を凝らし、また演出にもエンタメ性をもたせることで幅広い層の高校生に教育イベントとして楽しみながら取り組んでもらえるように意識しました。その結果、現地視察に行った富山大会ではほとんどの学生から「参加して良かった」という声をいただきましたし、全国大会でも、多くの学生が目を輝かせながら各ラウンドに挑む姿が見られました。

昨年の報告書にも書きましたが、エコ甲に参加した当時はもちろん、一年前まで自分がリーダーとしてエコ甲を作り上げることになるとは全く思っていませんでした。ただ、関わり方は違えど、高校生・大学生とエコ甲に携わって本当に多くのことを学ばせてもらいました。金融知力はもちろん、田舎の高校生だった自分が当時全国大会で感じた世の中の広さ、スタッフリーダーとして大人数を動かして大きなイベントを作り上げる大変さなど挙げると本当にキリがありません。「エコノミクス甲子園の存在なしには自分の人生を語れない」そう言い切ってもおかしくはないくらい自分を成長させてくれた大会です。おそらく私だけではなく、スタッフ全員が各々強い思い入れがあり、大切に運営している大会です。そんなエコノミクス甲子園を今後もどうかよろしく願いいたします。



第13回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
サブリーダー

堀島 正道

こんにちは。第13回エコノミクス甲子園のサブリーダーを務めました、堀島正道です。

昨年度の第13回エコノミクス甲子園は、多くの新しい試みにチャレンジした1年でした。新しい試みは高校生の皆さんに見える部分見えない部分、上手くいったものやまだまだ改善すべき点など様々でしたが、大盛況のうちに無事大会が終了したことを嬉しく思います。私は高校2年生の時に初めてこのエコノミクス甲子園と出会い、参加者・ボランティアスタッフとして関わらせていただきました。この数年で共通して感じるのは「生きた知識の大切さ」です。

高校生にとっての「金融経済」は、政経の教科書に載っている難しい大人の世界であると考えている人が多いと思います。実際に僕も高校生の頃は、自分には関係のないものだと感じていました。しかし、大学に進学したり成人したりすると「金融経済」の力は当然のように求められます。クレジットカードや国民年金など、学校で習った知識はあっても使いこなすのが難しいことが情け容赦無く襲いかかってきます。エコノミクス甲子園を通じて僕もある程度の知識は得ていたつもりでしたが、実際に体験してみると複雑で大変な思いをしました。高校生にとって、エコノミクス甲子園がこのような生活に必要な知識を身に付けるきっかけになれば幸いです。

また、エコノミクス甲子園は全国各地の優秀な人と出会う場でもあります。出身も進路もバラバラで本来出会うことない人々と、共に戦ったり仕事をしたりといった経験は滅多にできることはありません。エコノミクス甲子園に参加した人もこれから参加しようと考えている高校生も、たくさんの人との出会いを大切にしてほしいです。

最後に、私はエコノミクス甲子園で人生が変わったと思っています。今の大学や学部に通っているのも素晴らしい仲間と囲まれているのもエコノミクス甲子園のおかげです。

こんな最高の大会であるエコノミクス甲子園の、第14回大会が開催されることがすでに決定されています。運営は一つ下の代に移ってしまっていますが、今年も参加して絶対に後悔しない素晴らしい大会になると思います。ぜひ多くの高校生のご参加を心からお待ちしております。



第13回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
サブリーダー

井村 一政

こんにちは。エコノミクス甲子園第13回大会のボランティアスタッフサブリーダーを務めました、井村一政と申します。

エコノミクス甲子園とは高校生の金融知力を競う大会です。高校生の皆さん中にはこう聞くと堅苦しい印象を受けてしまう人がいるかもしれませんが。経済や金融という言葉に少し身構えてしまう人は少なくないでしょう。しかし、そういった方たちにこそぜひエコノミクス甲子園に参加していただきたいと僕は考えています。

高校生の皆さんは、これからの人生の中で実現したい様々な夢を大小関わらずたくさん持っていることでしょう。しかしこれらの夢にはしばしばお金の制約がついて回ることがあります。例えば高校卒業後に大学に進学し、一人暮らしをしたいとなるとそれだけでもうかなりのお金がかかってしまうこととなります。しかしここで奨学金についての詳しい知識を持っていると、きっと自分の夢を実現できる可能性は高くなるでしょう。

お金について知ること、高校生の皆さんの夢の実現のための手段や可能性を広げることになります。しかし残念ながら、こういった知識は高校までの学校教育ではなかなか教えてもらえないというのが現状です。

エコノミクス甲子園は、高校生の皆さんにぜひ知っていて欲しい、ただ少しとっかかりづらいかもしれない、というようなお金の知識を、楽しみながら身に付けることのできる大会です。ボランティアスタッフも、どうすればクイズに参加する高校生たちや見ている高校生たちが楽しめるか、ということを考えながら日夜問題作りやルール作りに励んでいます。

この大会を知って少しでも興味を持った高校生の皆さんは、ぜひあまり難しいことは考えずに地方大会に足を運んでみてください。それが少しでも皆さんがお金のことについて考えるきっかけになってくれればこれ以上嬉しいことはありません。来年の第14回大会もきっと参加するすべての高校生にとって楽しくて有意義なものになるであろうと確信しています。来年の2月に皆さんと東京で出会えることを楽しみにしています。





第14回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
リーダー

門谷 春輝

慶應義塾大学2年の門谷春輝と申します。2019年度、第14回のスタッフリーダーを務めます。エコノミクス甲子園は「金融経済クイズ選手権」という名から窺えるように、高校生が勉強してきた金融知識・経済知識を問うものです。今年度の全国大会や地方大会でも、高校生たちはハイレベルな知識を披露してくれました。人生100年時代、グローバル化、人口の減少をはじめとする今まで経験したことのない難題に直面している我々にとって、金融知識や経済知識は重要性を増しています。彼らが勉強してきたそのような知力・知識は生涯の財産となること間違いのないでしょう。

またエコノミクス甲子園、特に全国大会には知識を問うという側面以外にもう1つ重要な要素があると私は考えます。それは全国から高校生が集まり、1つの課題を一丸となって解決していくという要素です。プレゼンラウンドでは、前日に抽選で選ばれたグループ毎に分かれた高校生は環境経済に関する授業案を5時間ほどで考案することが求められました。限られた時間の中で各々がリーダーシップを発揮し、一つの解を導きだしていくという過程自体が金融経済知識と同様に、これからの地域社会や日本社会、さらには国際社会でリーダーシップが求められるであろう高校生たちにとって財産となるのではないのでしょうか。

来年度で第14回を迎えるエコノミクス甲子園。協賛企業の皆様や地方大会主催金融機関の皆様、また大会を支えて頂いたすべての皆様には変わらぬご支援をよろしくお願い致します。未来ある高校生にとり実りある大会にするため、大学生スタッフ一同努力して参ります。最後に高校生の皆さん、知識を得ることに留まらない経験が出来るような地方大会・全国大会を用意してお待ちしております。地方大会・全国大会でまたお会いしましょう！



第14回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
サブリーダー

高橋 昂汰

第14回エコノミクス甲子園ボランティアスタッフのサブリーダーを務めます、高橋昂汰と申します。

私は第11回大会に福島代表として出場しました。その時、私が書いた全国大会の感想は、こんな一文で始まっています。

『この大会は私の人生を変えました。』

何もこんな書き出しにしないで…と、今改めて読み返すと恥ずかしくなりますが、大学生になった今でもこの大会が私に与えてくれた影響は計り知れないと思っています。当初はただ単にクイズ大会で成績を残したいと考えこの大会に出場した私ですが、気がつけば「うわっ思ったよりも経済楽しいじゃん」と金融経済にどっぷりハマり、気がつけば経済学部への進学を決定していました。そして今ではこの大会のスタッフとして、刺激的な日々を送っています。

スタッフとして活動していたある日、第13回大会に出場した高校生の皆さんに書いていただいた、大会の感想に目を通す機会がありました。その中で多かった回答の中に、「普段なかなか触れる機会のない金融経済について知ることができる貴重な機会になってよかった」というものがありました。確かに高校生のうちは意識しないと、資産運用や銀行の仕組みなどの金融に関する情報を得ることは難しいと思います。実際私も、恥ずかしながら大会に参加する前までは新聞の経済面にほとんど興味を抱いていませんでした…。とはいえ、言うまでもなく社会に出れば誰もが自立してお金の管理や運用を行っていかなければなりません。そんなお金のことに興味を持ってもらうきっかけの場として、エコノミクス甲子園が果たす役割は重大だと受け止めています。

エコノミクス甲子園は、様々な高校生に参加していただいています。最初から金融経済に興味がある人はもちろんのこと、学校のクイズ研究部の活動の一環で参加する人、早押しクイズに憧れて参加する人、友人に誘われてしぶしぶ参加する人…その全ての高校生に、大会を楽しんでもらい、そして金融経済に興味を持ってもらう。これがエコノミクス甲子園の変わらない目標だと思っています。そのためには、高校生たちが勉強の成果を発揮するのに十分な「競技性」はもちろんのこと、プレイしていて楽しい、観戦していて楽しいという「エンターテインメント性」も重視しなければならないと思います。「競技性」と「エンターテインメント性」を両立することは簡単なことではありません。しかし第13回大会まで、大会を主催する金融知識普及協会の皆様、そしてボランティアスタッフの先輩方がこの2つの要素を両立したルールを企画なさってきたからこそ、この大会はここまで成功を収めてきたのだと感じています。先輩方が発展させてきたエコノミクス甲子園の歴史を引き継ぐという責任をしっかりと受け止め、さらに進化した大会を開催できるように精進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。



第14回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
サブリーダー

鈴木 悠希

皆さん初めまして。第14回エコノミクス甲子園のサブリーダーを務めさせていただきます鈴木悠希です。

私はこの大会には高校1年生の時から毎年参加してきました。1年生の時は地方大会の決勝に進出したものの完敗。2年生の時は一時1位に立つも土壇場で地方大会敗退。そして雪辱を果たすために参加した3年生の時の大会で全国大会に参加しました。この全国の舞台では信じられないほど優秀な高校生、そしてスタッフの大学生のみなさんと交流することができました。予選を順調に突破したものの、準決勝に進めず悔しい思いをしたのを今でも覚えています。この経験は非常に貴重なものとして今でも心に強く残っています。そして、このエコノミクス甲子園は私の人生の大きな「歯車」になっています。大学では自らが学びたかった法律だけでなく、経済、金融、はたまた社会システムまで学べる学部で勉強しています。おそらくこの大会がなければこのようなことにはなっていませんでした。

私は今、このような経験を与えてくれたこの大会に恩返しをするために、そして、このような経験を高校生たちが積めるように、スタッフとして活動しています。スタッフとして活動していると、自分が参加していた時には考えもつかなかった忙しさとハプニングに直面しますが、これらを担う高校生たちのために何とかこなして行っています。今年は学生スタッフのサブリーダーとして、リーダーが辣腕を揮えるように、そしてスタッフのみんながしっかりと楽しく仕事ができるように頑張っています。

最後に、第14回エコノミクス甲子園が、全国大会に参加する高校生をはじめ、地方大会に参加したすべての高校生たちのお役に立ち、人生の「歯車」になれるように私たちスタッフ一同は頑張っていきます。参加して下さる皆さんと全国大会の舞台でお会いできるその日を心より楽しみにしています。



エコノミクス甲子園 過去開催実績

開催回数	地方大会開催年	全国大会開催日	参加校数	参加チーム数	優勝校
第1回	2006	2007年2月18日	25	33	ラ・サール高等学校
第2回	2007	2008年1月13日	90	237	開成高等学校
第3回	2008	2009年1月25日	154	425	東大寺学園高等学校
第4回	2009	2010年1月10日	201	535	ラ・サール高等学校
第5回	2010	2011年2月12日	237	600	灘高等学校
第6回	2011	2012年1月22日	244	647	東大寺学園高等学校
第7回	2012	2013年2月17日	335	860	東海高等学校
第8回	2013	2014年2月2日	378	1,023	千葉県立千葉高等学校
第9回	2014	2015年2月15日	401	1,134	宮崎県立宮崎西高等学校
第10回	2015	2016年2月28日	410	1,121	新潟県立新潟高等学校
第11回	2016	2017年2月5日	448	1,171	金沢大学人間社会学域学校 教育学類附属高等学校
第12回	2017	2018年2月18日	517	1,297	長崎県立長崎西高等学校
第13回	2018	2019年2月17日	473	1,250	福井県立藤島高等学校



エコノミクス甲子園全国大会 県別出場校一覧

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
北海道			旭川東	旭川東	札幌西	旭川東	旭川東	札幌旭丘	札幌南	札幌南	札幌南	札幌南	札幌南	5年連続5回目
青森								青森	青森	青森	弘前	青森	弘前	2年ぶり2回目
岩手				水沢	盛岡第三						盛岡中央	盛岡第三	一関第一	初出場
宮城				仙台第一	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台二華	仙台二華	仙台第一	古川黎明	仙台第二	5年ぶり4回目
秋田			秋田商業	秋田商業	秋田中央	横手	秋田	秋田商業	秋田西	秋田	秋田	由利	秋田商業	5年ぶり4回目
山形							山形東	山形南	山形東	山形東	鶴岡南	山形南	山形南	2年連続3回目
福島		福島【東北】	福島【東京】			会津学園【関東】	福島	福島	福島高専	白河	福島	福島	福島	3年連続7回目
茨城							竹園	土浦第一	水戸第一	土浦第一	並木中等	土浦第一	並木中等 竹園【ネット】	2年ぶり2回目 6年ぶり2回目
栃木							宇都宮【ネット】	矢板東	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	5年連続6回目
群馬							富岡	前橋	高崎女子	前橋	ぐんま国際 アカデミー	四ツ葉学園	中央中等	初出場
埼玉			浦和	浦和	早稲田本庄	早稲田本庄	栄東	春日部	栄東	栄東	浦和	栄東	県立川越	初出場
千葉	県立船橋【東京】			渋谷幕張	渋谷幕張	市川	渋谷幕張	県立千葉	渋谷幕張	柏	東葛飾	渋谷幕張	渋谷幕張	2年連続6回目
東京	開成	開成	開成	開成			立川	立川	渋谷	早稲田	お茶の水 女子大付属	早稲田	早稲田	2年連続3回目
神奈川			聖光学院	聖光学院	横須賀	逗子開成	聖光学院	聖光学院	横須賀	慶応義塾	聖光学院	栄光学園	湘南	初出場
新潟								国際情報	新潟明訓	新潟	新潟	新潟明訓	新潟	2年ぶり3回目
富山			片山学園	高岡商業	片山学園	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	富山	富山	富山中部	初出場
石川		金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢泉丘	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	5年連続11回目
福井			高志	高志	福井高専	福井高専	藤島	藤島	藤島	高志	羽水	藤島	藤島	2年連続5回目
山梨					甲府南 【関東】	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	2年連続8回目
長野								長野	諏訪清陵	松本深志	松本深志	松本深志	松本深志	4年連続4回目
岐阜				県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	岐阜東	県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	5年連続8回目
静岡						島田商業	三島	浜松西	静岡雙葉	静岡	知徳*	知徳*	御殿場南	初出場
愛知	南山女子【大阪】	滝	名大附	名大附	名大附	旭丘	東海	東海	滝	滝	滝	東海	旭丘	7年ぶり2回目
三重						津	三重	川越	川越	宇治山田商業	四日市商業	伊勢	桜丘	初出場
滋賀										水口東	膳所	守山	水口東	3年ぶり2回目
京都									洛北【ネット】		洛北	洛南	洛北	2年ぶり3回目
大阪	星光学院						清風南海	星光学院	開明	金蘭千里 聖光学院【10年ぶり2回】	星光学院	星光学院	星光学院	4年連続6回目
兵庫		灘 【関西】		灘 【関西】	灘 【関西】	灘 【関西】		関西学院 【ネット】		灘	灘 甲陽学院【ネット】	神戸女学院	灘	2年ぶり7回目
奈良			東大寺【大阪】	東大寺	奈良学園	東大寺	智辯奈良 C	智辯奈良 C	智辯奈良 C	東大寺	東大寺	東大寺	東大寺	4年連続7回目
和歌山												智辯和歌山	智辯和歌山	2年連続2回目
鳥取								鳥取西	鳥取西	湯梨浜	青翔開智	湯梨浜	青翔開智	2年ぶり2回目
島根							松江北	浜田	松江商業	隠岐	情報科学	松江商業 横田【ネット】	松江高専	初出場
岡山		岡山白陵	岡山朝日	岡山朝日	岡山白陵		岡山城東	岡山白陵	倉敷精忠	倉敷精忠	倉敷天城	倉敷精忠	倉敷天城	2年ぶり2回目
広島						広大福山 【中国】	修道	広島学院	修道	広島学院 近大東広島【ネット】	広大福山	安田女子	広島学院	3年ぶり3回目
山口							宇部	宇部	宇部	下関西	下関西	大島商船	山口	初出場
徳島					城東	城ノ内	城ノ内	徳島市立	徳島市立	城東	徳島市立	徳島市立	城東	3年ぶり3回目
香川		観音寺第一	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	高松	高松	高松	観音寺第一	高松	高松	2年連続9回目
愛媛			愛光	愛光	松山東	松山西	松山西	松山西	松山西	愛光	愛光	今治西	松山東雲	初出場
高知								高知学芸	高知小津	土佐	高知学芸	高知学芸	土佐塾	初出場
福岡			西南学院				修猷館	修猷館	筑紫丘	大年田	修猷館	福工大城東	福岡	初出場
佐賀				致遠館【九州】	致遠館【九州】					致遠館	致遠館	弘学館	弘学館	2年連続2回目
長崎					長崎北	長崎南山	長崎商業	佐世保北	精道三川台	精道三川台	長崎西	長崎西	精道三川台	3年ぶり3回目
熊本						熊本【九州】					八代			
大分											安心院			
宮崎							宮崎西	宮崎第一	宮崎西	宮崎第一	宮崎第一	宮崎大宮	宮崎第一	2年ぶり4回目
鹿児島	ラ・サール 【福岡】	ラ・サール 【九州・熊本】		ラ・サール	ラ・サール 鶴丸【敗者復活】	ラ・サール	ラ・サール	鶴丸	鶴丸	国分中央	鶴丸	ラ・サール	ラ・サール	2年連続8回目
沖縄		昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	那覇国際	那覇国際	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	球陽	昭和薬科	2年ぶり9回目
中国											甘泉			
台湾												台湾師大附		
出場校数	5	10	16	20	24	25	34	40	40	44	48	47	46	

【 】内は所在地以外の県で実施された予選（第1回）・地方大会名。第2回のラ・サールは2チーム出場

* 静岡「知徳」は前校名「三島」

■ は全国大会優勝校



認定NPO法人

金融知力普及協会

Association for the Promotion of Financial Literacy

主催：認定 NPO 法人 金融知力普及協会

エコノミクス甲子園実行委員会



Manulife
マニユライフ生命



大和投資信託
Daiwa Asset Management